

季刊・令和7年7月15日発行・第61巻第3号（通巻507号）

ISSN 0014-9586

Feed Trade

WEB版

VOL. 61 NO. 3



2025

7
~9

飼料輸出入協議会

JAPAN FEED TRADE ASSOCIATION

2025年 7～9月号



目 次

<海運セミナー>

ドライバルク船 マーケット動向—及び環境規制影響について…… (2)

講師：山本 剛史氏

シリーズ●わが社「自慢の逸品」——第44回

ファーム17, 小野ピュアメロンの紹介／平野 太一…… (32)

シリーズ●各地の食生活——第22回

垣間見たブリスベンの食文化／鳥井慎太郎…… (35)

理事長新任あいさつ／田中 大輔…… (43)

令和7年度新役員, 専門委員会の委員決まる…… (44)

私のプロフィール／西澤 充晃…… (46)

秋季為替セミナー開催のご案内…… (47)

シリーズ●各商社の担当者紹介⑨ 三井物産株式会社

我が社の飼料原料担当者のご紹介…… (48)

●わが社飼料関連部署の新人紹介

豊田通商(株), 三菱商事(株), 双日(株), 三井物産(株), 丸紅(株), カーギルジャパン(同), 兼松(株), 伊藤忠商事(株)…… (53)

<座談会>

米国産トウモロコシの需給とシカゴ相場動向…… (65)

出席者：小國 聖仁, 坂井 勇人, 山田 耕人, 渡邊 延暁,

矢坂 天成, 浅見 昂志, 宇野慎一郎 [司会] 黒川 尚暉

●New Balance<22>

トランプ大統領の関税旋風が吹き荒れる中で始まった, 米国の新穀需給／岩崎 正典…… (102)

編集後記…… (123)

ドライバルク船 マーケット動向 ——及び環境規制影響について



＜講師＞

商船三井ドライバルク(株)

執行役員

山本 剛史氏

●日時 2025年6月9日 ●場所 新橋ビジネスフォーラム

皆様、こんにちは。商船三井ドライバルクの山本です。

私は商船三井に入社して以来、ドライバルク一筋ではなく、ドライバルク約6年の他、コンテナ、自動車、人事等に携わっていました。ドライバルクに戻ってきたのは2024年4月で、それまではドイツのハンブルクで自動車関連を担当しておりました。本日は主に海運市況についてお話しさせていただければと思っております。

本日は、海上の荷動きや船腹供給に関する数字・データ等を資料でお配りしておりますが、様々なデータソースを集めながら弊社独自に作成した部分もありますので、今回の資料が正確な数字、もしくは、市況については確実な予測ではないことをご了解いただければと思います。

本日は次の5点についてお話しさせていただきます。本日本日お越しいただいている皆様方には、ご理解いただいている内容かと思いますが、最初に基本情報、需要からの視点、供給からの視点、市況の見通し、最後に環境規制の影響について、お話しさせていただければと思います。

1. 基本情報

資料1（編注：スライド，以下同）は，ドライバルク船についてです。ご存じのとおり，ケープサイズからハンディサイズまで，さまざまな船型があります。ケープサイズは，主に鉄鉱石，そして，石炭の中でも原料炭と言われるものを主要貨物として輸送している船型になります。パナマックス，ウルトラマックス／スープラマックスは，主に石炭や穀物を輸送している船型になります。

ウルトラマックス／スープラマックス，ハンディサイズは，本船の上にギアといわれる積揚げの機械がついている船が多数あり，荷役設備のない港でも荷役が可能な船型になっています。

資料1 ドライバルク船とは

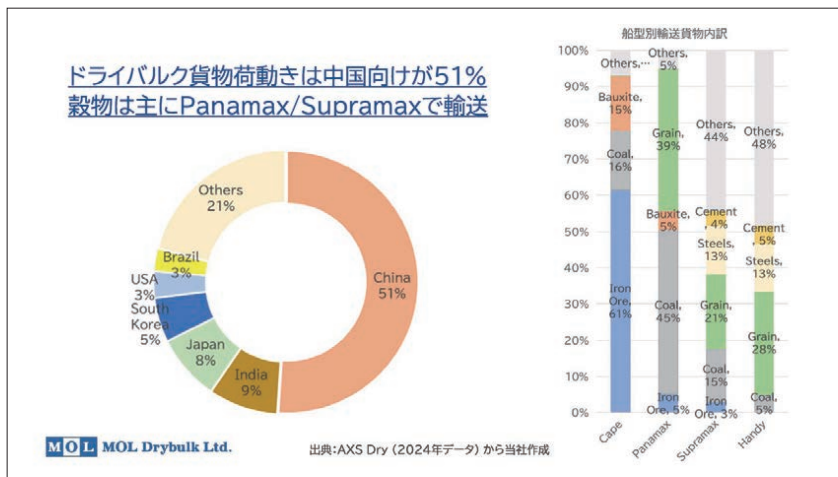
Capesize		Ultramax / Supramax	
DWT	100,000DWT 以上 最大は40万t級。18万t～20万tが主流。	DWT	40,000～69,999DWT
LOA	230m～300m程	LOA	180m～200m
Beam	43m～	Beam	～32m
特徴	主要貨物：鉄鋼産業向けの鉄鉱石・原料炭 大西洋～太平洋間をアフリカ喜望峰(Cape of Good Hope)経由で航行することに由来。	特徴	主要貨物：メジャーバルク含む多種多様な貨物 荷役用クレーンを装備し、設備のない港湾での荷役が可能。
Panamax		Handysize	
DWT	70,000～99,999DWT	DWT	10,000～39,999DWT
LOA	225m～240m程	LOA	100m～190m
Beam	32m～40m程	Beam	～32m
特徴	主要貨物：一般炭・穀物 パナマ運河を通航できる最大船型であったことが名前の由来。	特徴	主要貨物：メジャーバルク含む多種多様な貨物 荷役用クレーンを装備し、設備のない港湾での荷役が可能。

MOL MOL Drybulk Ltd.

資料2，これは船型別の輸送貨物，仕向け地をあらわしたもので，トンマイルを前提としております。トンマイルというのは，積載した貨物量×航行距離，になります。船会社の中では，「トンマイルが伸びた」や「トンマイルが短くなった」という表現をします。

例えば，一昨年前，パナマ運河にて渇水による通航の制限が生じました。その時はパナマ運河通航自体に時間を要するため，パナマを回避して南米のマ

資料 2 船型別輸送貨物と仕向け地



ゼラン海峡から迂回して北米東岸に行くという動きが出、結果トンマイルが長くなりました。トンマイルが長くなると、船に数に限りがある為、船の稼働率が下がります。稼働率が下がると、その分、市況が上がる要因になります。ですので、海運会社からすれば、トンマイルが伸びると市況の影響をポジティブに受けやすいということになります。

左の円グラフは、ドライバルクの貨物の荷動きの全体のうち約50%が中国向けであることを示しています。穀物は、パナマックス、ウルトラマックス／スープラマックスといわれる船型で主に輸送をしています。

右の棒グラフは、船型別に運んでいる貨物を示したものです。ケープサイズは約60%が鉄鉱石、それ以外に石炭、ボーキサイトなどの貨物で90%以上を輸送しています。

パナマックスについては、鉄鉱石も一部輸送していますが、いわれる発電用の一般炭や本日のテーマである穀物の輸送に非常に大きな役割を果たしています。スープラマックスも穀物の割合が非常に高い形になっています。

市況についてですが、特にドライバルクは、コンテナや自動車と比べると航路が決まっていない、また非常に不定期に貨物が動く性質があり、我々も



セミナー会場風景

事業を進めていくにあたっては、船をマーケットから調達し、貨物についてもマーケットから調達する、それをうまくマッチングさせてビジネスを行っています。

片や、例えば、コンテナや自動車は、ある程度航路が決まっていて定期的に動いています。ドライバルクやコンテナはマーケットがありますが、自動車については、特にインデックス的な指標はありません。ドライバルクは非常に不定期な航路ですので、どういった運賃を出せばいいのかとか、どういった値段で船をマーケットから引けばいいのか、こういった指標を使いながら我々は日々事業を運営しています。

市況というのは数字で出てきますが、この数字の決定する要因にも色々あります。ドライバルク貨物の需要、ドライバルク船の供給状況、世界経済の動向、主要国の経済状況、地政学的なリスクも含めた要因、季節的な要因、自然現象、それから後ほどご説明しますバルチック海運指数、こういうものが市況を構成する主要要素になっています。

先週、ミシシッピ川の中流から下流にかけて出張しておりました。海運会社の人間として現物を扱う、現物の輸送をするビジネスをやっていますので、こういう数字で出てくるものプラス自分の目で見て、自分の足で現地に行って、本当にそういうことが起こっているのかを体感するのも非常に大事だと

思っています。

実際、今年は去年に比べて、ミシシッピ川の水位が大分改善されていました。水位の改善に伴い、バージの輸送がどれくらいスムーズに動いているのかというのは、情報だけでなく、実際に自分で見ないと分かりません。なので、こういう要因プラス現地に行って、実際に自分の目で見ることも、市況を読む際は非常に大事な要素と考えています。

資料3 は、バルチック海運取引所が出している指数ですが、右側のように船型別にそれぞれの指数が出てきます。(例えば)パナマックスは、航路ごとに指数が出てきます。そのうち加重平均したものをBPI, バルチック・パナマックス・インデックスと呼んでいます。それには8万2,500dwt／draft14.43mなどの前提条件があり、これに合致する船の備船料の平均が出てきます。

この4船型の航路平均を、ケープサイズは40％、パナマックスは30％、スーパーマックスは30％という比率で指数化したものがバルチック・ドライ・インデックス、いわゆるBDIとなります。

BDIというのは、1985年1月4日に出了れた指標を1,000と置いて、それをベースに上下するのを表した指標になります。

これは毎営業日の英国時間13時に、世界の海運会社、各ブローカーからド
資料3 市況（マーケット）について

 バルチック海運取引所は、イギリスのロンドンにある海運取引所であり、毎営業日の英国時間13時に世界の海運会社やブローカーからドライバルク船運賃を収集し、海運市況に関する様々な指標を発表。	Baltic Dry Index (BDI) ・1985年1月4日を1,000(指標)と算出。 ・船型別の定期備船料(T/C)を以下比率で指数化 Cape(40%) Panamax(30%) Supramax(30%)
	Baltic Capesize Index (BCI) ・10航路の指数があり、うち5航路加重平均がBCI ・180,000dwt/draft18.2m/LOA290m/Beam45m
	Baltic Panamax Index (BPI) ・6航路(*)の指数があり、うち5航路加重平均がBPI ・82,500dwt/draft14.43m/LOA229m/Beam32.25m
	Baltic Supramax Index (BSI63) ・11航路の指数があり、11航路加重平均がBSI ・63,500dwt/draft13.418m/LOA199.98m/Beam32.24m
	Baltic Handysize Index (BHSI) ・7航路の指数があり、7航路加重平均がBHSI ・38,200dwt/draft10.538m/LOA180m/Beam29.8m

MOL Drybulk Ltd.

ライバル船の運賃・備船料の情報を収集し、バルチック海運取引所でまとめて、毎日公表される数字です。

資料4をご覧ください。営業日ベースでいくと、先週金曜日（6月6日）のBDIの最新の値が1,633となっています。過去を見ていただくと、いろんな凸凹がありますが、特に大きく上昇したのが2008年5月20日です。その時は史上最高値の1万1,793をつけました。中国向けの貨物が増え、いわゆる海運バブルのピークだった時代です。その後、リーマンショックが起これ、一気に急降下しました。海運バブル時、船会社は船を次々と建造する傾向がありますが、建造を決定してから竣工してくるまで2年から3年かかります。

海運バブルのとき、海運各社が次々と発注した船が、2010年～2014年くらいにかけて竣工したものの、リーマンショック後は需給のバランスが大きく崩れ、市況が非常に低迷しました。このような時代が続いておりましたが、新型コロナ蔓延後に急激に市況が回復、それに伴ってBDIも急激に上がるも、その後は反復でまた下がってというように、マーケットは上がって下がってというのが必ず起こります。

後ほど市況の見通しでも触れたいと思いますが、どのように市況を読むか

資料4 市況（マーケット）について－Baltic Dry Index（BDI）推移

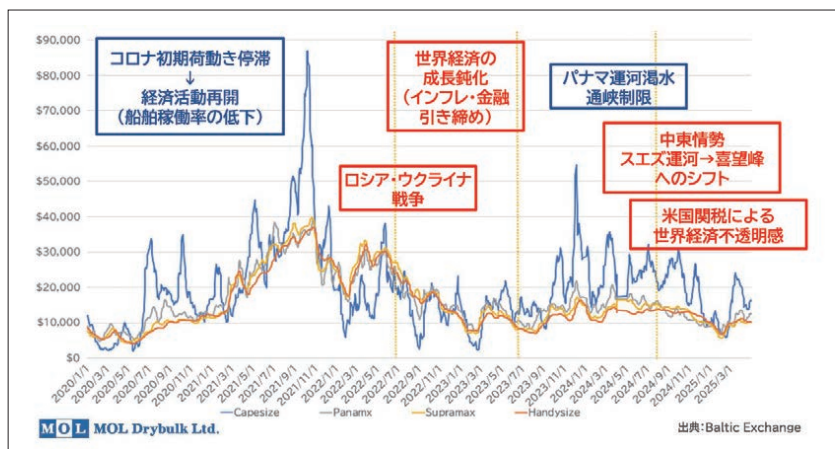


が非常に重要なところになります。

資料5 は、2020年以降の船型別のインデックスです。先ほどのBDIではなく、BDIを構成する各船型別の推移を示したものです。これも同じように、新型コロナ蔓延によりの荷動きが停滞後、経済活動が再開されたときに急上昇しましたが、ロシア・ウクライナ戦争や世界経済、特に中国の経済が低迷していることにより下がっています。

先ほど触れましたが、パナマ運河の渇水による通峡制限によりトンマイルが長くなり、市況が高騰したものの、パナマ運河通峡制限解除によって落ちついたこと、更には米国の関税による世界経済の不透明感ということで、現状はやや低位安定状態です。

資料5 市況（マーケット）についてー 船型別Index推移（2020年以降）



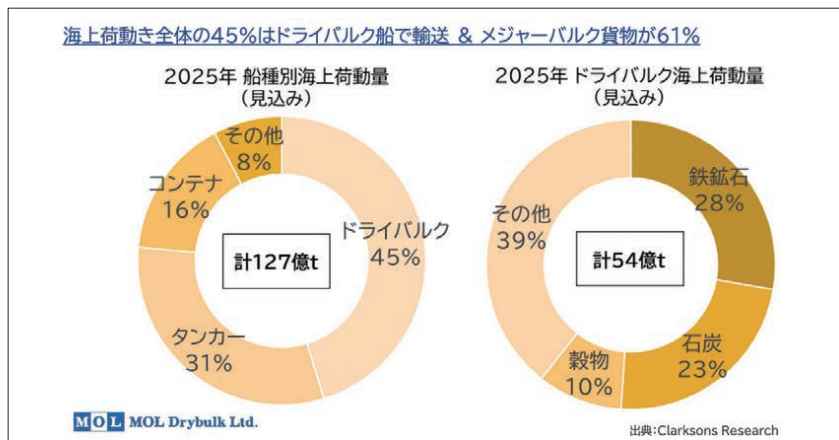
2. 海上荷動き量（需要視点）

第2部でドライバルク貨物の需要、第3部でドライバルク船の供給について少し触れていきたいと思います。

まずは荷動きのお話をさせていただきます。

資料6 をご覧ください。2025年のタンカー、コンテナを含めた海上の荷動

資料 6 海上荷動きとドライバルク貨物



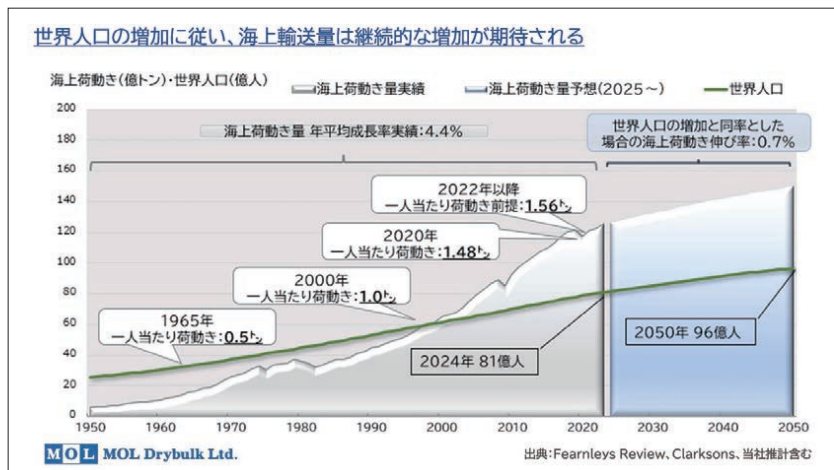
量は127億トンと推計されており、このうち約45%がドライバルク貨物です。ドライバルク貨物をコモディティ毎に抜き出したものが右の表で、約54億トンのドライバルク貨物が輸送されるだろうと考えています。鉄鉱石、石炭、穀物がドライバルク 3大メジャー貨物といわれるもので、この3つを合わせると、6割強となります。鉄鉱石は主にケープサイズ、石炭・穀物はパナマックス、スーペラといわれる船型で輸送されています。

その他、マイナーバルクといわれるカテゴリーに入る貨物は、小型のハンディサイズの船で運んでいます。例えば、セメント、クリンカー、木材、肥料、砂糖、ニッケル、非鉄金属、こういったものがマイナーバルクの中にカテゴリーされます。

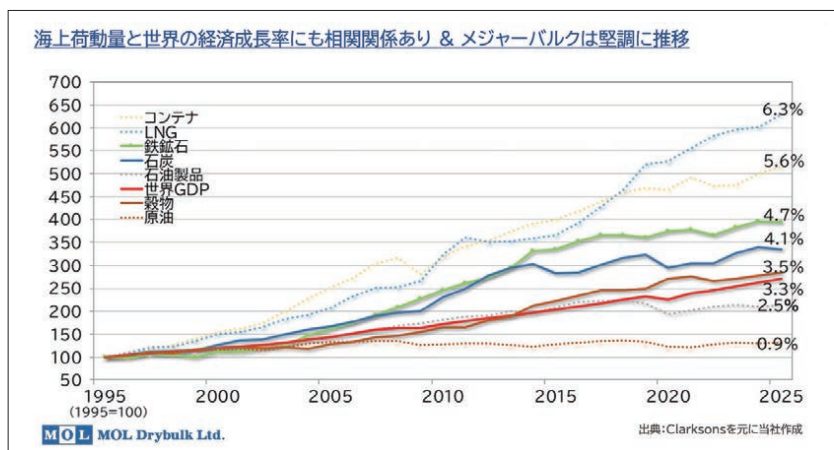
資料 7 ですが、貨物の需要の話をするにあたっては、人口の推移は非常に重要な要素です。世界の人口は増加傾向にあることは皆様もご存じのとおりだと思いますが、2050年には96億人に達すると予想されています。もちろん人口が増えると物資を必要としますので、海上輸送は今後も伸びていくだろうと考えています。

資料 8 をご覧ください。GDPと海上荷動きも相関性があると考えています。この表は1995年を基準として、各コモディティの輸送量とGDPの推移を

資料 7 海上荷動きと人口推移



資料 8 海上荷動きとGDP推移



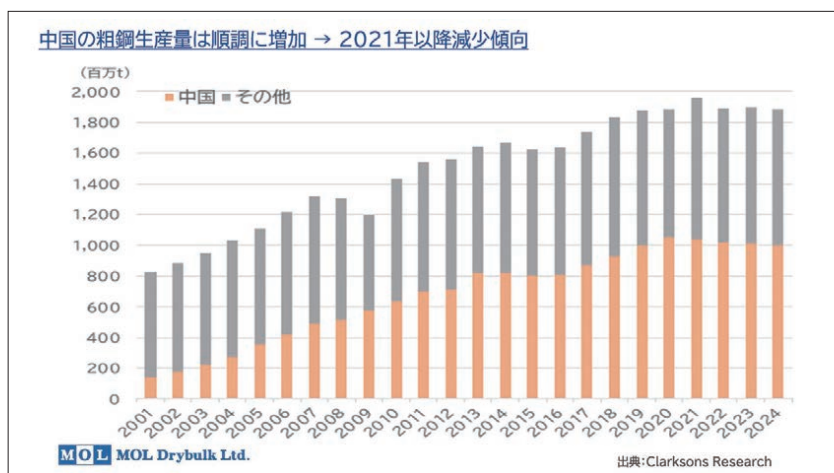
表したものです。赤い線が世界のGDPで3.3%，ドライ貨物でいくと、緑の鉄鉱石は4.7%，石炭は4.1%，穀物は3.5%と、GDPと同様、堅調に伸びています。メジャーバルクといわれる鉄鉱石、石炭、穀物がどう動くかによって、海運の市況も大きく左右されますので、次は鉄鉱石、石炭、穀物について、少し触れたいと思います。

資料9 は、中国の粗鋼生産量の推移を示しています。2000年に入ってから、中国の粗鋼生産が爆発的に増えています。当然ながら世界の粗鋼生産量全体も増加傾向にあります。リーマンショックの影響で、2008年から2009年にかけて一旦落ち込みますが、そこからまた増加に転じてきています。

中国は、順調に粗鋼生産量は増加させてきていますが、2021年以降は少し減少に転じています。これは環境対策の一環として、中国政府が国内の製鉄会社に減産を促したことで、また2022年に入り、北京オリンピックの際に近隣の製鉄所の操業を止める等の施策をとっていたり、ゼロコロナ政策もあり、鉄鋼業が盛んだった河北省の操業の停止などが理由に挙がっています。

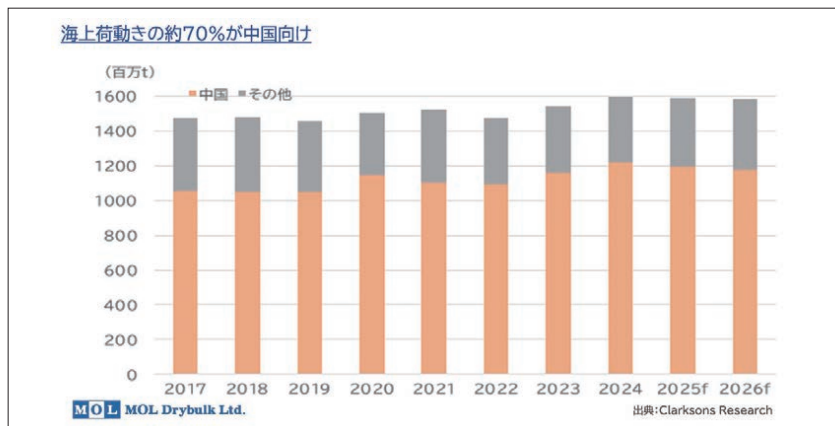
中国は生産が横ばい、もしくは減少傾向にありますが、世界の鋼材需要自体は世界全体としては少し伸びています。中国に変わって、特にインドや中東の需要が伸びてきていることもあり、粗鋼生産量も今年はほぼ横ばいの状態で推移すると思われます。

資料9 中国及び世界の粗鋼生産量推移



資料10 は、鉄鉱石の輸入量の推移になります。約70%、全体の7割が中国向けになっています。2017年から2024年くらいにかけて、年間の平均成長率は1.8%くらいになります。これは主にケープサイズで運ばれているものです

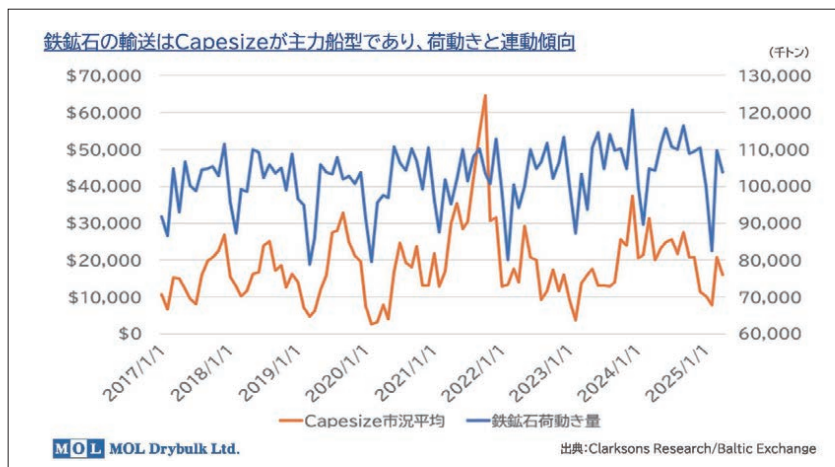
資料10 海上荷動き推移 — 鉄鉱石



が、横ばい状態が続いているという状況です。

資料11 をご覧ください。鉄鉱石の海上の荷動きと、ケープサイズの水況がどのように連動しているのかを表したのがこちらのグラフです。オレンジ色の線がケープサイズの水況平均を表したもので、青色の線が鉄鉱石の荷動きの量になります。ご覧いただければお分かりかと思いますが、比較的連動し

資料11 海上荷動き推移 — 鉄鉱石（ブラジル＆豪州出し）とCapesize水況



ています。鉄鉱石の輸送量が伸びると、ケーブサイズの市況も上がるということを示しています。

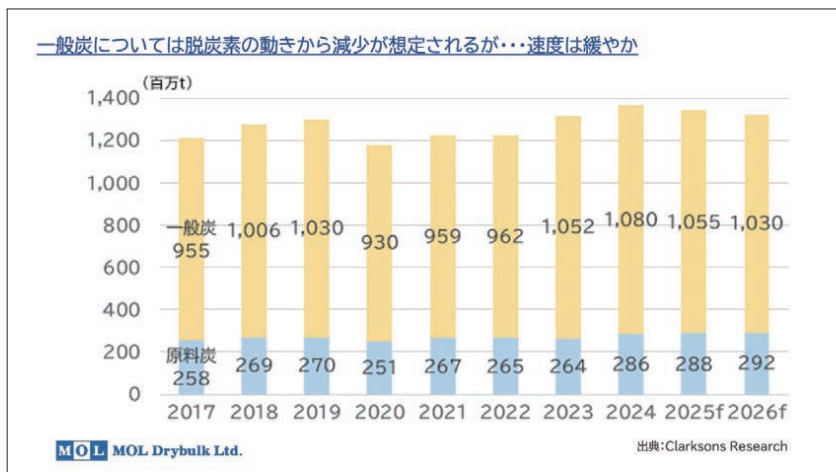
資料12は、石炭です。ここからパナマックスの市況に関わってくるところです。こちらは石炭の海上での輸送量で、青が原料炭、黄色が一般炭と呼ばれているものです。

原料炭というのは、製鉄用の還元剤、原料として使われる石炭になります。また発電用に使われるものが一般炭と呼ばれるものです。2020年に一旦少し下がっていますが、2021年以降、再び増加傾向にあります。

皆様もご存じのとおり、グローバルで環境対応が叫ばれるようになり、特にヨーロッパ、日本も含めて石炭の代わりの代替燃料を使った発電が謳われるようになっており、一般炭の輸送については、中長期的には減少していくだろうと考えています。

ただ、これも2～3年前くらいに我々が想定していた石炭の減少スピードに比べると、大分遅くなっている気がします。トランプ政権になり種々発言されていることだけが要因ではないのですが、「2050年までにネットゼロにしていこう」「25年間でGHGの削減をネットゼロにしよう」という現実的な目

資料12 海上荷動き推移 — 石炭



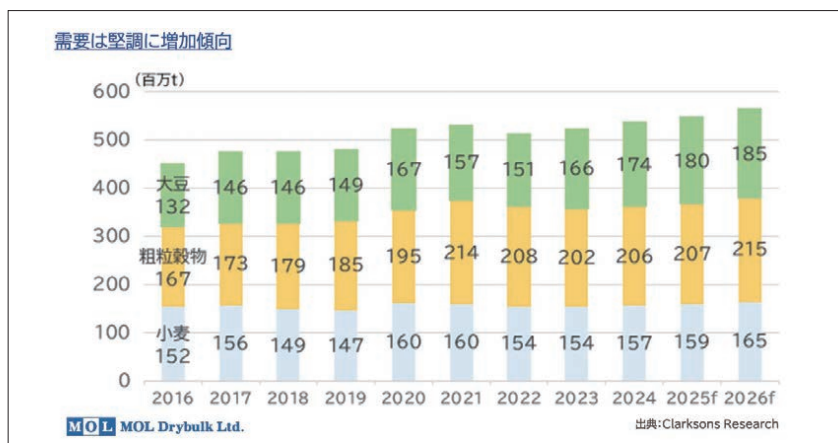
標と、そう簡単には進まない現実があるかと思います。日本もそうですが猛暑になっていて、その分、冷房の利用も増えています。

ただ、世界の脱炭素の流れは変えることができないと思いますので、中長期的には石炭需要は減少していくことになると思います。インドの需要は非常に強いものがあるので、特にインド向けはまだまだ輸送量が伸びていくと考えています。

資料13 は、穀物になります。穀物の需要については、今後も堅調に推移していくものと思っています。穀物の需要の推移については逆に皆様にお伺いしたいと思っていますが、人口の増加もありますので、基本的には需要は伸びていくのだらうと思っています。

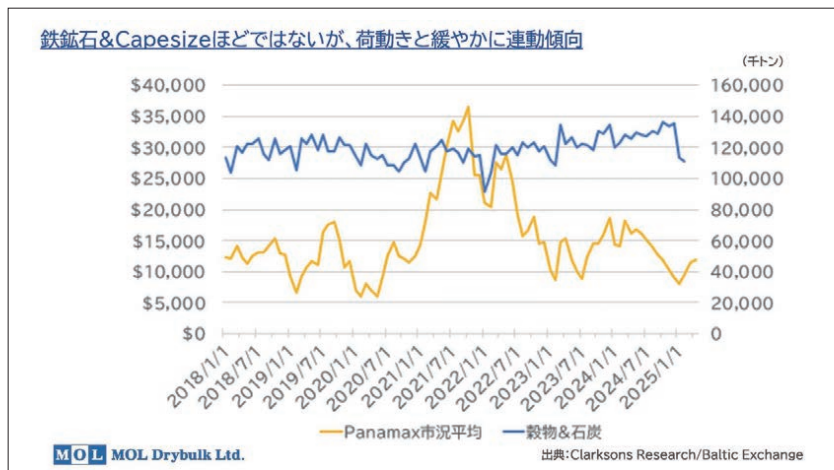
但し、健康志向ブーム等で牛・豚・鳥から大豆に食がシフトしていくとか、アグテックの進歩によって、例えば、土を使わない栽培・生産が今後できるとか、技術革新等が考えられると思いますが、ここでは穀物の需要は伸びていくという前提で試算しています。

資料13 海上荷動き推移 — 穀物



資料14 をご覧ください。穀物と石炭はパナマックスで運ばれる主要貨物になりますので、パナマックスの市況の平均と穀物と石炭の輸送量を並べてみました。先ほどの鉄鉱石とケープサイズの相関まではいかないと思いますが、

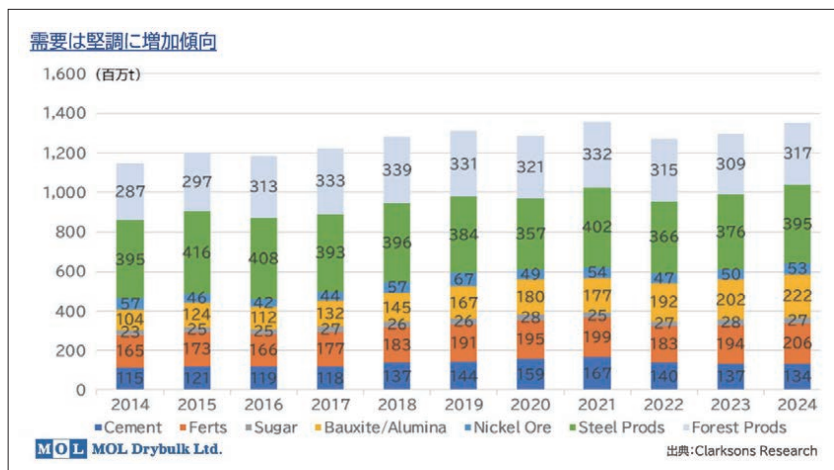
資料14 海上荷動き推移 — 穀物 & 石炭とPanamax市況



それなりに相関があるかと思います。従い、穀物と石炭の輸送量が増えると、基本的には市況も連動して反応すると推察しています。

資料15 最後にマイナーバルクです。こちらの棒グラフは、マイナーバルクの貨物の種類と輸送量を表しています。

資料15 海上荷動き推移 — マイナーバルク貨物



メジャーバルクの中で、石炭は中長期的に輸送量が減る傾向かと思いますが、穀物+マイナーバルク貨物については、これからも堅調に伸びていくと我々は考えています。

以上、貨物視点でお話をさせていただきました。

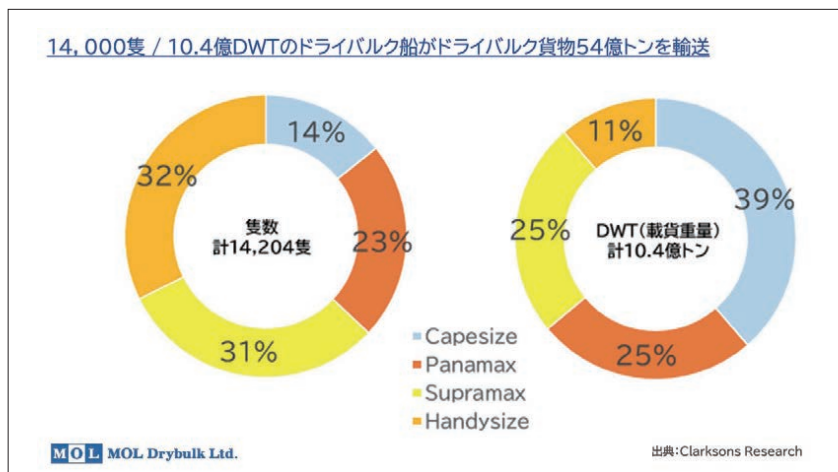
3. 船腹供給量（供給視点）

今度は船腹供給、要は市況を構成する需給バランスが非常に重要ですので、船の状況について、お話をさせていただきます。

資料16をご覧ください。ドライバルク船は、世界で約1万4,000隻強あります。載貨重量（貨物を積載可能なスペース）がどれくらいあるかという、約10.4億トン程度あります。

冒頭、ドライバルク貨物は計約54億トンと申し上げました。載貨重量10.4億トン丸々貨物が積めるわけではなく、港湾制限や契約数量により貨物が積めるスペースを85%程度とすれば、 $10.4\text{億トン} \times 85\% = \text{約}9\text{億トン}$ 。54億トンで割ると単純計算ですが、年間6航海する計算になります。1航海あたりの航海日数にすると、 $365 \div 6 \approx 60\text{日}$ になります。

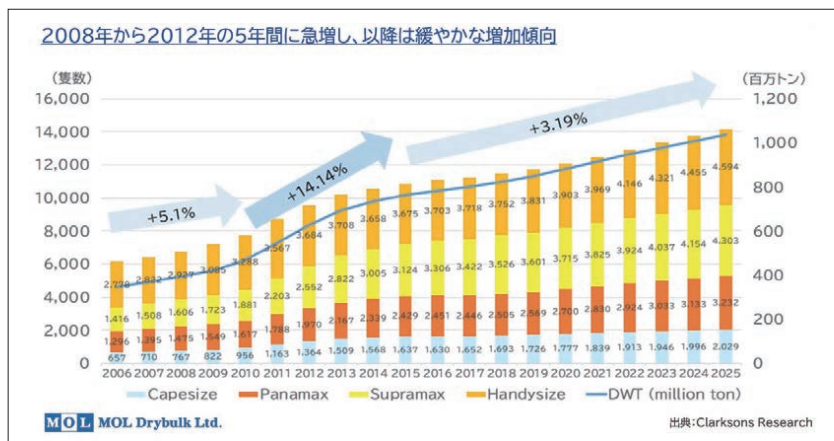
資料16 ドライバルク船腹量（2025年3月末時点）



実際は、全船型の1航海あたりの平均航海日数は何もなければ50日くらいと考えており、単純計算ですと船腹供給過多の状況ですが、例えば直近発生している豪州の洪水による荷役遅延に起因する長期滞船であったり、パナマ運河の水位低下により航路を変更した結果トンマイルが伸びるといった状況になると、一気に需給バランスが逆転することもあり得ますが、感覚的にはやはり、船のほうが貨物量よりも少し多いのではという状況です。

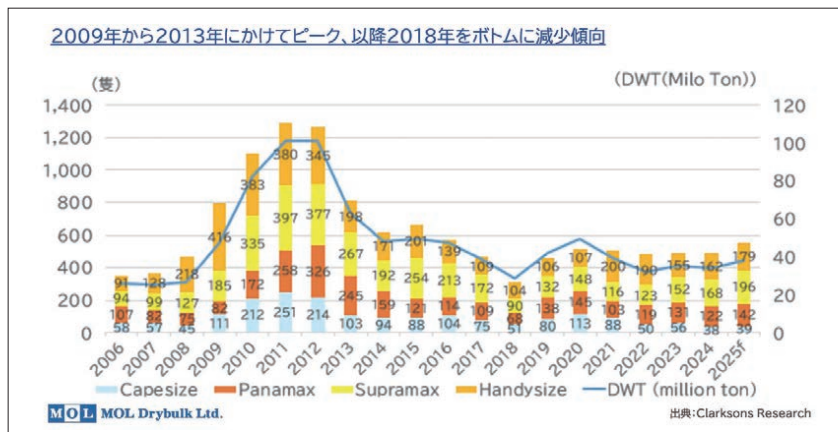
資料17、こちらの棒グラフは、新造船と解撤船（退出する船）を合わせて、結果Netでどの程度船が増減しているかを示す表になります。2010年～2014年は、Netで14%程度と急増しています。これはリーマンショックの前の海運バブル時に大量発注した船がこのタイミングで出てきていることによるものです。その後はマーケットの低迷により発注量も減少、伸び率が下がってきています。

資料17 ドライバルク船隻数推移 — 新造船＋解撤船



資料18をご覧ください。新造船と解撤船にそれぞれ分けて示したのがこちらのグラフになります。2010年あたりから11, 12, 13くらいまでの山が新造船のブームになっていて、特に2011年は年間1,300隻くらいの船が新しく竣工しています。

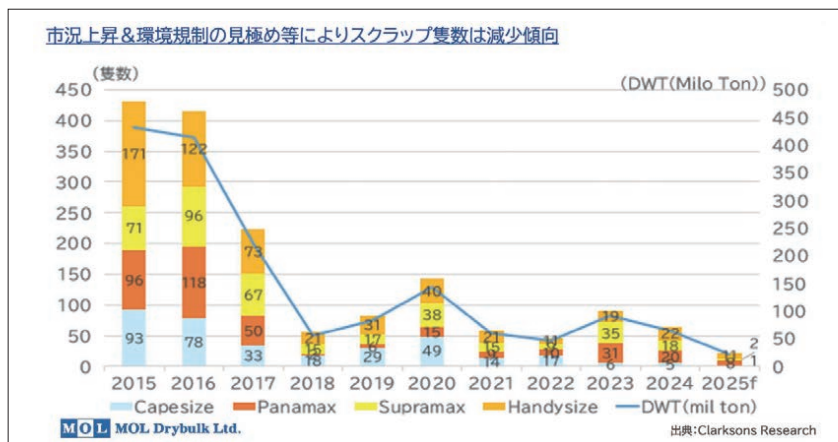
資料18 ドライバルク船隻数推移 — 新造船竣工隻数（含発注残）



資料19 一方、解撤については、海運各社方針は様々ですが、ドライバルク船については、船齢15歳を解撤を判断する一つのベンチマークとする傾向にあります。ただし、15歳になったら必ず解撤するというのではなく、そこから長く使われる船も多数あります。逆に、お客様との契約の中には、15歳未満の船を使用条件としているものもあります。

2015年～2016年は、400隻／年程度解撤されていたのですが、それ以降は

資料19 ドライバルク船隻数推移 — 解撤（スクラップ）船隻数



撤隻数が非常に少なくなっています。市況の下落が続いたことで、新造船を建造せず老齢船を使い続けるマインドや、スクラップするタイミングを少し待って、一番鉄の価格が高いときにスクラップするというマインド、そして、環境対応を考えると、どういう新造船を建造すべきかが不透明で建造の判断が難しい点も相まって、解撤スピードが少し鈍化している状況です。

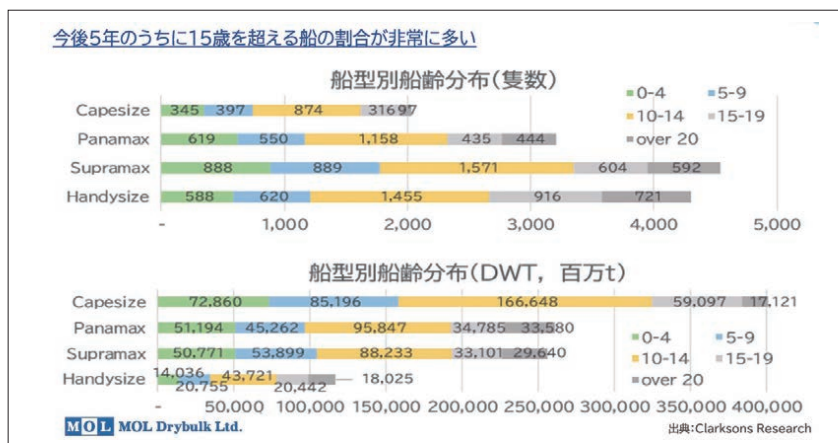
資料20 は、表の上半分が隻数で、下半分が載貨重量です。黄色が10～14歳の船の割合、灰色は15歳～19歳、濃い灰色は20歳を超えている船になります。

ここから5年間かけて、黄色い船が全部老齢船（灰色）に変わっていきま
すし、海運バブル後に一気に建造された船ですから、5年後は一斉に15歳以上になるという状況です。

供給の面からすると、現時点では、少し供給過多なのかもしれませんが、これからこういった船が老齢化して退出していくことになると、一気に需給バランスが変わってくるという状況を我々も考えています。

ここまで需給の観点からお話をさせていただきました。

資料20 ドライバルク船隻数推移 — 解撤（スクラップ）船隻数



4. 市況見通し

ここから市況の見通しについて、触れさせていただきたいと思います。

冒頭に申し上げましたが、様々な要素があると思います。結論から申し上げますと、「これから市況はこうなる」という点を100%正しく判断することは難しいです。

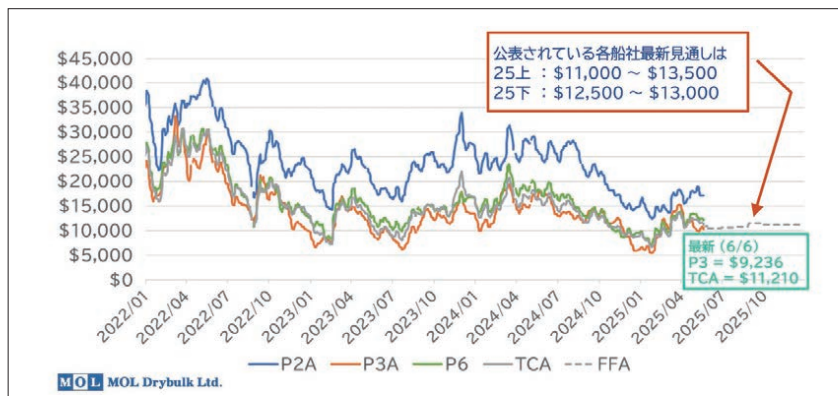
資料21をご覧ください。結局最新見通しはどうなっているのか？ということで、ここから船型別の市況の見通しになります。パナマックスは6航路ありますというお話をしましたが、航路をパナマックスの2とか、パナマックスの3とか、パナマックスの6とかとあらわしています。ここに掲載しているのは、主に穀物を輸送する航路のインデックスとなります。

P2Aは、基本はUS GULFから極東になります。P3AはNOPAC、太平洋ラウンド、P6は、シンガポールから南米に行って、南米から極東に戻ってくる、という航路になります。

TCAは、パナマックスの6航路全体の平均値になります。各社最新見通しというのは、邦船三社が、2025年4月末もしくは5月頭に、24年度決算、25年度最新の見通しを出したときの数字になります。パナマックスが上期は1万1,000～1万3,500ドル、下期は1万2,500～1万3,000ドルで動くという見通しで発表しています。

先週金曜日時点では、TCA、パナマックスの航路平均は1万1,000ドル、P3Aですと、1万ドルを切っている状況になっています。

資料21 市況見通し（短期的には…）－ Panamax

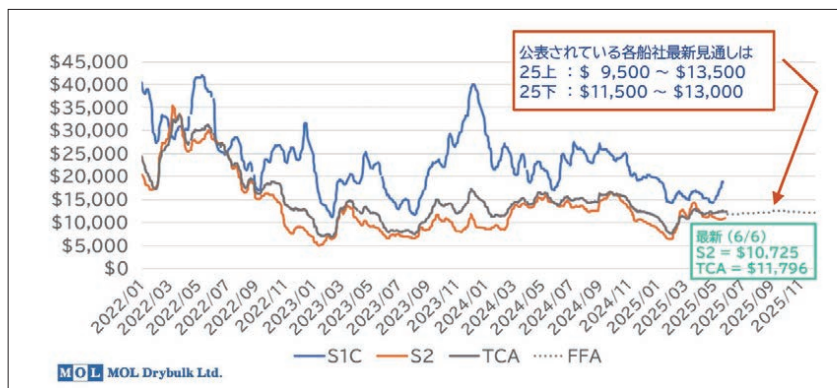


資料22 のスープラマックスについても、同じく邦船三社で、9,500～1万3,500ドル、1万1,500～1万3,000ドルという数字になっています。

スープラマックスについては、USガルフから中国、サウスジャパンのレンジをS1Cと呼んでいて、太平洋ラウンドをS2と呼んでいます。

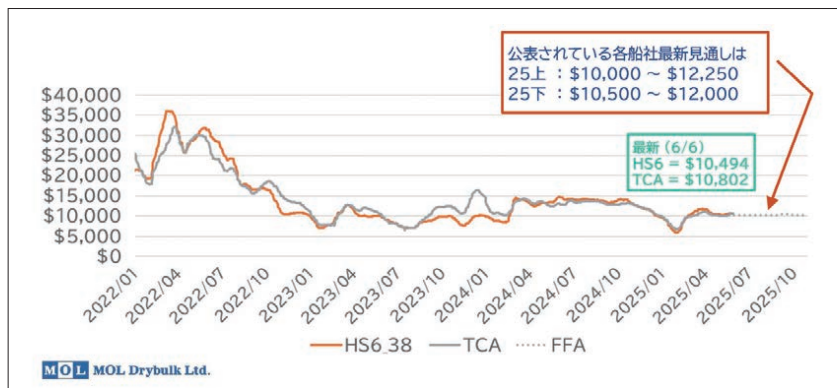
足元、S2は1万725ドル、TCAが1万2,000ドルを少し切るというレベルになっています。

資料22 市況見通し（短期的には…）－ Supramax



資料23 最後にハンディサイズです。HS 6 は、北中国、韓国、日本をぐるぐる回っているような市況になります。こちらも1万～1万1,000ドル程度が

資料23 市況見通し（短期的には…）－ Handysize



最新の状況で、邦船三社の見通しも、今年は1万～1万2,000ドル程度と見ています。

資料24をご覧ください。ここまでは市況の見通しをお話ししてきましたが、4月17日に米国の通商代表部が、通商法第301条に基づく中国の海事産業への対抗措置を発表した事についても影響があるのではないかと考えています。こちらについて内容を改めて説明しますと、表の(A)と(B)は、中国造船所建造の船か否か、①と②は中国関連の船主・オペレーターあるか否かで分類しています。例えば、中国建造の船で、中国のオペレーターが運航している船は、新しく入港税が導入され、それが適用されるというお話です。

中国建造船ではないですが、中国関係の船主とオペレーターがその船を運航していると、こちらも又入港税の対象になります。

弊社のように中国関連以外のオペレーターが中国建造船を運航すると、条件付きで適用されますが、日本造船所建造船を使用する場合は非適用になります。入港税については、段階的に増えていきます。

資料24 市況見通し — USTR Section 301 Action (2025/4/17発表)

米国寄港のドライバルク船に対し、新たに入港税の導入を決定。

	(A) 中国造船所建造	(B) 中国以外の造船所建造
①中国関連 船舶所有・運航者	○ (適用)	○ (適用)
②中国関連以外 船舶所有・運航者	△ (条件付き適用)	非適用

※中国には香港・マカオを含む

①(A)・①(B)

②(A)

2025年10月14日以降、寄港船のNet tonを単位として入港税が発生。(時期が先になるにつれ、段階的に金額は増加)

入港税の対象除外となる主な条件は下記の通り。

- ・米国内に空船で到着する船舶
- ・米国外から2,000マイル未満の距離で米国に入港する船舶
- ・80,000DWT以下の船舶

(⇒Ultramax以下は満たすが、Panamaxは一部対象外)

MOL MOL Drybulk Ltd.

資料25をご覧ください。入港料の単価は、純トン数に基づき算定されます。例えば、パナマックスが緑の②、中国建造船で、中国の運航オペレーターが運航している船がアメリカに寄港した場合、1寄港あたり約1.4M \$の追加の入港税がかかることになります。

資料25 市況見通し — USTR Section 301 Action (2025/ 4 /17発表)

ドライバルク船に適用される入港料(税)単価と総額						
入港料単価 (=US\$/Net Ton)		現在	2025年10月	2026年4月	2027年4月	2028年4月
中国造船所建造	①中国関連以外 船舶所有・運航者	0	18	23	28	33
	②中国関連 船舶所有・運航者	0	50	80	110	140
中国以外の造船所建造	①中国関連以外 船舶所有・運航者	0	50	80	110	140
	②中国関連 船舶所有・運航者	0	0	0	0	0

入港料総額 (=US\$)		現在	2025年10月	2026年4月	2027年4月	2028年4月
Panamax (82,000 DWT)	①	0	495,000	632,500	770,000	907,500
	②	0	1,375,000	2,200,000	3,025,000	3,850,000
	③	0	0	0	0	0
Panamax (76,000 DWT)	①	0	0	0	0	0
	②	0	1,280,000	2,048,000	2,816,000	3,584,000
	③	0	0	0	0	0
Ultramax (63,000 DWT)	①	0	0	0	0	0
	②	0	1,280,000	2,048,000	2,816,000	3,584,000
	③	0	0	0	0	0
Handy (40,000 DWT)	①	0	0	0	0	0
	②	0	1,080,000	1,728,000	2,376,000	3,024,000
	③	0	0	0	0	0

MOL MOL Drybulk Ltd.

これは相当な金額で、これが果たして本当にかかるのかどうかというのは、状況を見守らないといけないのですが、現時点では10月14日以降、これが適用されることになっています。

先ほどドライバルク船は1万4,000隻存在すると言いましたが、過半数は中国建造船になります。

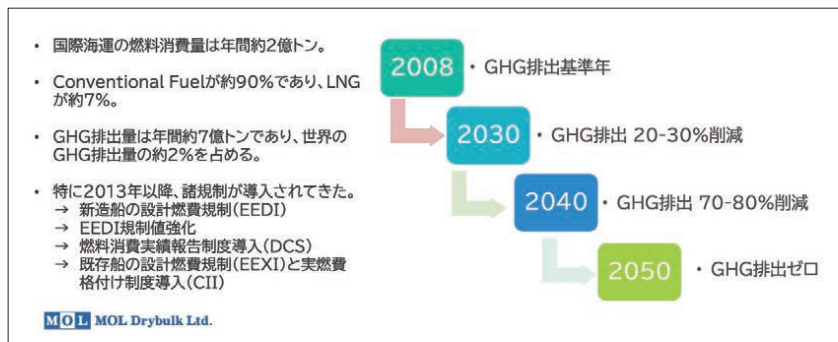
これによって、可能性として、船の回し方が大きく変わる可能性があります。入港税については、まだ猶予期間がありますので、この間にどういう交渉がなされるかによって、下期から市況も大きく状況が変わってくる可能性があります。関税影響も相まって、非常に市況が読みづらい状況になっています。本日お話しした内容は現時点で発表されていることですので、今後変更される可能性がある点はお含みおき下さい。

5. 環境規制影響

最後、簡単に環境規制のところを触れさせていただきます。

資料26 まず国際海運のGHGの削減対策ということで、これまでいろいろな取組みをしてきています。国際海運の燃料消費量は約2億トンで、GHG、主にCO₂ですが、年間約7億トンを排出、世界のGHG排出量の約2%を占めています。

資料26 国際海運のGHG削減対策



様々な規制が導入されてきてまして、老齢船はこの規制に対応できない船が多いので、老齢船の解撤を促進させることになる可能性があります。国際海運としては、「2050年にGHGの排出をネットゼロにする」という目標を掲げています。

資料27 4月7日～11日に、ロンドンでIMOの海洋環境保護委員会、「MEPC83」が開催されました。ここでは、Well-to-Wake（ライフサイクル排出量）を考慮した中期GHG削減対策に基本合意をしています。今年10月に臨時会合で正式に採択され、3月1日に発効、そして2028年1月1日に適用開始の流れになっています。

資料27 IMO MEPC83について

IMO INTERNATIONAL MARITIME ORGANIZATION
MEPC: IMO海洋環境保護委員会
 2025年4月7日～11日にロンドンで「MEPC83」開催。

Well-to-Wake(ライフサイクル排出量)を考慮した中期GHG削減対策に向けたMARPOL条約改正案に基本合意。2025年10月のMEPC臨時会合で正式に採択→2027年3月1日発効予定→2028年1月1日適用開始。

規制案では、船舶は以下の遵守が義務付けられる

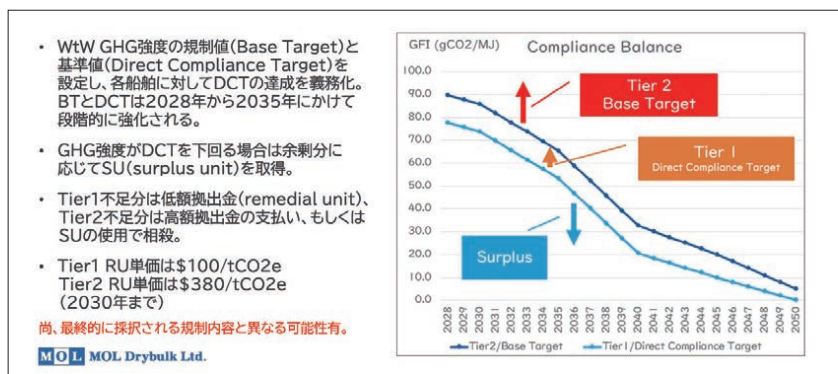
1. 国際燃料基準:
船舶は年間の温室効果ガス燃料原単位(GFI)、すなわちエネルギー使用量1単位あたりのGHG排出量を、段階的に削減しなければならず、Well-to-Wakeアプローチを用いて算出される。
2. 国際経済対策:
GFIの設定値を超える排出量を持つ船舶は、不足分を補填するための対策を講じる必要がある。
(GHG排出量がゼロまたはほぼゼロの技術を使用している船舶は、逆に金銭的報奨を受けることができる。)

MOL MOL Drybulk Ltd.

資料28 は、GHG強度の規制値を定め、濃い青がTier 2、薄い青がTier 1、縦の軸がGFIといわれるGHGの強度を表したものです。

このターゲット値を満たせなかった場合は、拠出金を払わないといけません。Tier 1 を満たせなかった場合は、CO₂ 1 トンあたり100ドル、Tier 2 を満たせなかったものについては、CO₂ 1 トンあたり380ドルを払わないといけませんことになります。逆に薄い青の線を満たせば、サープラスということで、IMOから補助金が出るという仕組みになっています。

資料28 IMO MEPC83について

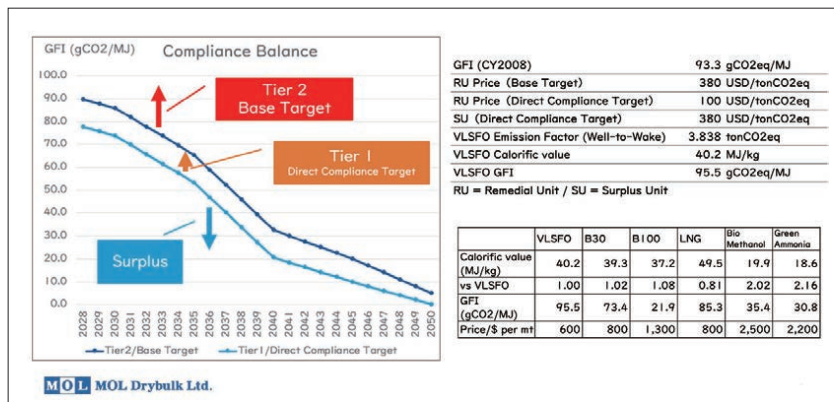


資料29、今はVLSFOというLow Sulfur Fuel Oilを使用して運航しています。スクラバーがついた船については、High Sulfur Fuel Oilを使っていますが、基本はVLSFOです。VLSFOの強度は95.5gCO₂/MJ（熱量）となっています。

今のVLSFOをずっと使用し続けると、強度が95.5ありますので、Tier 2 を満たせません。ですので、これはみ出た部分は、拠出金を払わないといけませんことになります。

資料30、試算すると、ずっとVLSFOを使い続ければ、1 トンあたり140ドルくらい、28年には追加で支払うことになります。これが年数が経つ毎にターゲットがどんどん厳しくなっていきますので、このターゲットに満たない部分については、金額が跳ね上がっていく状況になります。

資料29 IMO MEPC83について



資料30 IMO MEPC83について — VLSFOシミュレーション（あくまで想定です）

2028年からRU(拠出金)が発生し、2030年を過ぎると燃料価格同等程度に達する見込み

<Target>	2028	2030	2035	2040	2045	2050
Tier2/Base Target	89.6	85.8	65.3	32.7	20.0	5.0
Deduction ratio vs 2008	4.0%	8.0%	30.0%	65.0%	78.6%	94.6%
Tier1/Direct Compliance Target	77.4	73.7	53.2	20.6	1.0	0
Deduction ratio vs 2008	17.0%	21.0%	43.0%	77.9%	89.3%	100.0%

<Study - VLSFO>	2028	2030	2035	2040	2045	2050	Average
GFI (gCO ₂ eq/MJ)	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	
vs Base Target (gCO ₂ eq/MJ)	5.9	9.6	30.2	62.8	75.5	90.5	
vs Base Target (tonCO ₂ eq/ton-fuel)	0.2	0.4	1.2	2.5	3.0	3.6	
RU Price (USD/ton-fuel)	\$90.2	\$147.2	\$460.8	\$959.6	\$1,152.9	\$1,382.1	
vs Direct Compliance Target (gCO ₂ eq/MJ)	12.1	12.1	12.1	12.1	10.0	5.0	
vs Direct Compliance Target (tonCO ₂ eq/ton-fuel)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.2	
RU Price (USD/ton-fuel)	\$48.8	\$48.8	\$48.8	\$48.5	\$40.2	\$20.1	
vs Direct Compliance Target (gCO ₂ eq/MJ)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
vs Direct Compliance Target (tonCO ₂ eq/ton-fuel)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
SU Price (USD/ton-fuel)	\$0.0	\$0.0	\$0.0	\$0.0	\$0.0	\$0.0	
(1) Total Price (USD/ton-fuel)	\$139.0	\$196.0	\$509.5	\$1,008.1	\$1,193.1	\$1,402.2	\$811.1
(2) Fuel Price (USD/ton-VLSFO)	\$600.0	\$600.0	\$600.0	\$600.0	\$600.0	\$600.0	\$600.0
(1) + (2)	\$739.0	\$796.0	\$1,109.5	\$1,608.1	\$1,793.1	\$2,002.2	\$1,411.1

MOL Drybulk Ltd.

資料31, バイオディーゼルを30%含んだものをB30と呼んでいます。バイオディーゼルを100%含んだものはB100と呼んでいます。

資料32 ですが, 例えば, B100を使うと, 先ほどの強度が21.9しかありません。VLSFOだと95.5あった強度が, B100を使うと21.9になります。77.4がターゲットとしてクリアしないといけないところなので, サープラスになります。

資料31 IMO MEPC83についてーB30シミュレーション（あくまで想定です）

2030年頃まではSU(余剰)が発生する見込みだが、2030年を過ぎるとRU(拠出金)が発生する見込み

<Target>		2028	2030	2035	2040	2045	2050
Tier2/Base Target		89.6	85.8	65.3	32.7	20.0	5.0
Deduction ratio vs 2008		4.0%	8.0%	30.0%	65.0%	78.6%	94.6%
Tier1 /Direct Compliance Target		77.4	73.7	53.2	20.6	10	0
Deduction ratio vs 2008		17.0%	21.0%	43.0%	77.9%	89.3%	100.0%

<Study - B30>		2028	2030	2035	2040	2045	2050	Average
GFI (gCO2eq/MJ)		73.4	73.4	73.4	73.4	73.4	73.4	
vs Base Target (gCO2eq/MJ)		0.0	0.0	8.1	40.7	53.4	68.4	
vs Base Target (tonCO2eq/ton-fuel)		0.0	0.0	0.3	1.6	2.1	2.7	
RU Price (USD/ton-fuel)		\$0.0	\$0.0	\$120.8	\$608.5	\$797.5	\$1,021.5	
vs Direct Compliance Target (gCO2eq/MJ)		0.0	0.0	12.1	12.1	10.0	5.0	
vs Direct Compliance Target (tonCO2eq/ton-fuel)		0.0	0.0	0.5	0.5	0.4	0.2	
RU Price (USD/ton-fuel)		\$0.0	\$0.0	\$47.7	\$47.4	\$39.3	\$19.7	
vs Direct Compliance Target (gCO2eq/MJ)		-4.0	-0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
vs Direct Compliance Target (tonCO2eq/ton-fuel)		-0.2	-0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
SU Price (USD/ton-fuel)		-\$60.3	-\$4.6	\$0.0	\$0.0	\$0.0	\$0.0	
Total Price (USD/ton-fuel)		-\$60.3	-\$4.6	\$168.5	\$655.9	\$836.8	\$1,041.1	
(1) VLSFO eq (USD/ton-VLSFO)		-\$61.7	-\$4.7	\$172.3	\$670.9	\$855.9	\$1,065.0	\$497.9
(2) Fuel Price (USD/ton-VLSFO)		\$800.0	\$800.0	\$800.0	\$800.0	\$800.0	\$800.0	\$800.0
(1) + (2)		\$738.3	\$795.3	\$972.3	\$1,470.9	\$1,655.9	\$1,865.0	\$1,297.9

MOL MOL Drybulk Ltd.

資料32 IMO MEPC83についてーB100シミュレーション（あくまで想定です）

2035年頃まではSU(余剰)が発生する見込みだが、2040年を過ぎると少額のRU(拠出金)が発生する見込み

<Target>		2028	2030	2035	2040	2045	2050
Tier2/Base Target		89.6	85.8	65.3	32.7	20.0	5.0
Deduction ratio vs 2008		4.0%	8.0%	30.0%	65.0%	78.6%	94.6%
Tier1 /Direct Compliance Target		77.4	73.7	53.2	20.6	10	0
Deduction ratio vs 2008		17.0%	21.0%	43.0%	77.9%	89.3%	100.0%

<Study - B100>		2028	2030	2035	2040	2045	2050	Average
GFI (gCO2eq/MJ)		21.9	21.9	21.9	21.9	21.9	21.9	
vs Base Target (gCO2eq/MJ)		0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	16.9	
vs Base Target (tonCO2eq/ton-fuel)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.6	
RU Price (USD/ton-fuel)		\$0.0	\$0.0	\$0.0	\$0.0	\$26.8	\$238.9	
vs Direct Compliance Target (gCO2eq/MJ)		0.0	0.0	0.0	1.3	10.0	5.0	
vs Direct Compliance Target (tonCO2eq/ton-fuel)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.2	
RU Price (USD/ton-fuel)		\$0.0	\$0.0	\$0.0	\$4.8	\$37.2	\$18.6	
vs Direct Compliance Target (gCO2eq/MJ)		-55.5	-51.8	-31.3	0.0	0.0	0.0	
vs Direct Compliance Target (tonCO2eq/ton-fuel)		-2.1	-1.9	-1.2	0.0	0.0	0.0	
SU Price (USD/ton-fuel)		-\$785.1	-\$732.4	-\$442.2	\$0.0	\$0.0	\$0.0	
Total Price (USD/ton-fuel)		-\$785.1	-\$732.4	-\$442.2	\$4.8	\$64.0	\$257.5	
(1) VLSFO eq (USD/ton-VLSFO)		-\$848.5	-\$791.4	-\$477.9	\$5.2	\$69.2	\$278.2	-\$227.8
(2) Fuel Price (USD/ton-VLSFO)		\$1,300.0	\$1,300.0	\$1,300.0	\$1,300.0	\$1,300.0	\$1,300.0	\$1,300.0
(1) + (2)		\$451.5	\$508.6	\$822.1	\$1,305.2	\$1,369.2	\$1,578.2	\$1,072.2

MOL MOL Drybulk Ltd.

我々船会社としても、できるだけこの強度を抑えていく取組みをしないといけないと考えています。ご清聴，どうもありがとうございました。

（編注：本稿の文中資料1～32は全て，商船三井ドライバルク(株)提供です）

質疑応答

司会 山本様、ありがとうございました。それでは質問のコーナーにまいります。

質問 わかりやすいセミナーをありがとうございました。2つほどよろしいでしょうか？ 1つは純粋な疑問ですが、8ページ（資料5）の船型別のインデックスで、ケーブサイズが他の船型に比べてボラティリティが非常に高いと思ったのですが、これは何かケーブサイズ特有の要因があるのですか。「ケーブサイズは当たり前」という話なのか。これだけ見ると、非常にボラティリティが高いなと思ったので、純粋な疑問として質問させていただきました。

山本 恐らくご質問の件は、ケーブサイズのほうが何かあったときに振れ幅が非常に大きい、小さくなればなるほど振れ幅が小さくなるという違いは何でしょうか？というご質問と理解しています。ケーブサイズに関しては、基本的に貨物は鉄鉱石が太宗を占めている。そういうケースにおいて、中国が「鉄鉱石が必要です」と言われれば市況は急騰しますし、中国が「鉄鉱石要りません」と言えば市況は急落します。コモディティが少ないことがボラティリティを高めている要因になります。船型が小さくなればなるほど貨物のコモディティも種類が増え、ボラティリティが低くなる傾向にあると我々は理解しています。

山本 ちょうどコロナ明けで中国の経済が回復するとき、中国の鉄鉱石の輸入量が非常に増える、もしくは増える見込みだというのがマーケットに流れると、一気にケーブサイズのスペースの取り合いが始まり、市況が大きく上振れするケースがありました。

質問 中国が「鉄が要る」となれば市況は上がるのでしょうか？

山本 そうですね。それが100%かと言われると、そうではないかもしれませんが、中国の鉄鉱石の輸入量に大きく影響されていると思います。

質問 今後の海運市況のポイント、各社さんがお話しされていて、関税の部

分も今後影響が出てくるというお話がありましたが、山本さんのご私見で構いませんので、「ここは押さえておいたほうがいい」というポイントがあれば教えていただけますか。

山本 とても難しい質問ですが、まずはUSTRについて現状180日の措置期間となっていますが、これが本当にどう動くのかということですね。特に米中の動きです

ドライバルクだけで考えると、アメリカから中国向けの貨物は5,000万トンに対し、中国からアメリカに向けた貨物は300万トン程度。ドライバルクだけを見ると、そこまで大きな量が動いているわけではないのですが、先ほど申し上げたコンテナとか自動車とかという製品には非常に大きな影響を与えますので、これによって米中のトレードがどのように動くかというのが、私にとっても最大の関心です。

質問 説明をありがとうございます。環境規制のところで、Tier 1, Tier 2, サープラス、補助金みたいなものが出るというお話がありました。2028年から始まるとこのことですが、船の設計から建造までどれ位時間がかかるのかという点と、サープラスになるためにバイオ燃料を使うとのことですが、航空燃料としても使用をする予定とのこと、供給は追いつくのか？という二点をお伺いしたいです。

山本 ありがとうございます。まず設計から建造にあたっては、サイズにもよりますが、2～3年くらいは要します。これも造船所の船台、キャパシティがある前提です。

今、コロナを明けてからドライバルク船以外、例えば、コンテナ船とか自動車船の発注量が非常に増えており、日本の造船所殿も、2028年～2029年くらいまでは船台が埋まっている状況です。なので、今、発注したとしても、船台待ちも考えると、出てくるのは29年以降になるのかなと思っています。

2つ目のご質問は、我々も非常に心配している点です。バイオ燃料の船舶利用は、数%程度で、略飛行機や車に使われています。そちらと海運が

競り合っていくためには、バイオディーゼルの価格が上がっていくことが想定され、どのように調達できるのか、という点は非常に悩ましい問題です。

バイオディーゼル以外にも、LNG、バイオメタン、メタノールとかグリーンアンモニアのような次世代燃料がありますが、これらはタンクのキャパシティを考慮する必要があります。今の燃料タンクの2倍・3倍くらいの容量が必要となります。そうすると、貨物のスペースが減ってしまい、本末転倒となります。ドライバルク船が一気に次世代燃料に切り替えづらいというのも非常に大きな課題になっています。

なので、いち早くできる対策としては、バイオディーゼルの使うことと、冒頭ページ（写真参照）でお見せした、風力推進などとなります。商船三



井は風の力を使って燃費削減を行っており、去年7月に竣工した船にはオモテ側に帆（ハードセル）を搭載しており、この帆で風の力を使って燃費を削減する、+燃料油の種類を変えていく、といった取り組みを行っています。

質問 ありがとうございます。2つ質問があります。1点目は、新造船と解撤船の関係です。リーマンショック後、2010～2014年にかけて新造船がかなり増えました。およそ15年で

解撤に回るといわれている中で、2024年・2025年の解撤船の隻数を見ると、2010～2014年にかけて、多い年では1,000隻以上つくられていた一方、解撤船が15年たった今はわずか50隻ばかりになっています。

スクラップ市況の影響もあるとは思いますが、これはそもそも船の船籍として、15年を超えたらスクラップに回すとかではなく、20年・30年使う

のが当たり前になっているという解釈でいいのか。もしくはそれ以外に何か数字が出ている要因があれば、教えていただきたいです。

山本 ありがとうございます。当たり前にはなってないと思っています。いずれは解撤されていくことになるのですが、これまではもう少し解撤の量は多かったと思っています。鉄の価格の問題や新造船を作りづらい状況もあって、老齢船を延命して解撤時期を待っているというのが、今の傾向なのかなと思っています。

穀物ですと、20年を超える船を利用されることはあまりないかと思いますが、世の中には、25歳とか30歳の非常に古い船を使える航路もあるので、行き先があるのは事実です。

質問 もう1点だけ、入港税に絡んだ話ですが、これは船を傭船する際に、時にCPのチェーンが長くなり、我々の傭船している船社の先にさらに船主がいるケースもあると思いますが、どこかしらに中国法人というか関連の方がいた場合、この船にも入港税が適用されるのか否か、その辺はおわかりですか。

山本 その可能性が大だと我々は理解しています。どこかのチェーンに中国関連の会社が入っていると、これが適用される可能性が大だと我々は理解しています。当社のドライバルク船隊としては、中国建造船の割合は非常に少ないものの、船のポジションが合わず、マーケットから傭船するケースがあります。そのときは、傭船にあたりCPチェーンをしっかりと確認しなければならず、このリスクは対岸の火事ではなく、我々にも大いに影響がある話と思っています。

司会 本日はこれにて終わりとさせていただきます。山本様、ありがとうございました（拍手）。

ファーム17, 小野ピュアメロンの紹介

双日(株)生活産業・アグリビジネス本部

農業・地域事業開発室 地域共創課

平野 太一

1. はじめに

豊かな自然に囲まれた山口県宇部市小野地区。小野地区は「小野茶」の産地として有名な地ですが、生産者の高齢化、人手不足により年々お茶の生産量は減少傾向にあります。このような地域農業の人口減少、名産品消滅の危機に対し、新たな切り口で地域農業の発展と名産品の開発に取り組む農業法人「株式会社ファーム17」。

ファーム17の野村代表取締役の経営方針は、中山間地域を含む農地活用推進・地域活性化に取り組む地域創生の先行モデルとなることから、弊社（双日(株)）は2024年3月より、ファーム17に出資参画をしています。今回は国内における持続可能な農業のモデルケースとなるファーム17の取り組み、自慢の逸品「小野ピュアメロン」についてご紹介します。



ファーム17 野村代表取締役

2. ファーム17について

ファーム17は、米、小麦、大豆、子実とうもろこしの栽培から、キャベツ、ハウストマト栽培まで複合的に生産事業を展開する山口県宇部市小野地区の農業法人です。ファーム17は、地域の農地と農業、雇用を守り、持続可能な地域の食

を目指しています。その一環として「水田の畑地化・輪作体系モデル」を構築し、米以外にも麦、大豆、トウモロコシなどを栽培しています。また、自社小麦を使ったパン屋の経営や地域の事業者と連携し、地産品の創出に



麦収穫風景

も取り組んでいます。さらに、家畜堆肥を田畑に戻し、地域内で循環する「循環型の地域農業モデル」を確立しております。

3. 小野ピュアメロンについて

ファーム17では、小野地区の新たな名産品を開発すべく、2024年より水耕によるメロン栽培を開始いたしました。小野地区にちなみ「小野ピュアメロン」と名付けられました。メロンの水耕栽培は世界的にも成功事例が数少ない技術であり、ファーム17は町田式水耕栽培の技術を導入し、高糖度メロンの生産に取り組んでいます。特殊な水耕栽培層で育てられ、健



康的に育てられるクリーンな環境と栄養を取り合うのではなく全てのメロンに栄養が行き届く仕組みにより、メロンがストレスなく生育することが可能となります。

ハウス内の天井にメロンの蔓が伸び、空中にメロンが実っている光景も本栽培の特徴の一つです。

栄養の行き届いたメロンは、糖度14度以上で収穫され、上品な甘さとみずみずしさが特徴の逸品となっております。

4. 終わりに

ファーム17では、「小野ピュアメロン」の産地化を含め、新たな取り組みに挑戦してまいります。現在「小野ピュアメロン」は地域限定にて販売を進めておりますが、商品にご興味をお持ちいただけましたら、<https://farm17.jp/company/>よりお問い合わせいただけましたら幸いです。

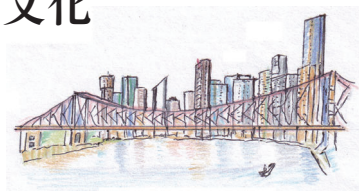
今後ともファーム17の取り組み、小野ピュアメロンのご支援の程よろしくお願いいたします。



垣間見たブリスベンの食文化

Riverina (Australia) Pty Ltd

鳥井 慎太郎



飼料輸出入協議会の皆様、平素より大変お世話になっております。2025年1月より研修生としてブリスベンのRiverina (Australia) Pty Ltd（以下Riverina）に赴任しております鳥井慎太郎と申します。本邦在勤時にお世話になりました皆様には改めて御礼申し上げます。

今回は、私がこの5カ月の間に垣間見たブリスベンの食文化についてご紹介させていただきますと幸いです。

はじめに

私の勤務先である Riverina は、配合飼料製造および穀物トレーディングを主業としており、クイーンズランド（QLD）州とニューサウスウェールズ（NSW）州に計6つの工場を有し、本社はQLD州の州都ブリスベンにござい



赤星は弊社工場所在地

ます。弊社の主戦場であるQLD州は、豪州の中でも比較的低緯度に位置し温暖な気候であるため畜産業が盛んで（日本でいえば、宮崎や鹿児島など九州と似た印象です）、全豪の約48%の肉牛が同州で飼養されています。一方、酪農に関しては日本の北海道同様に冷涼な気候が適して

おり、豪州ではビクトリア（VIC）州が最大の生産地となっています。

豪州は国土が広く、牧草が豊富に自生しているため、肉牛・乳牛を問わず大半は牧草を中心に飼養されていますが、一部の肉牛は脂の乗りを良くするため、屠畜前の50～200日程度をフィードロットと呼ばれる肥育場で、穀物を中心とした配合飼料を給与する方式も採用されています。この期間が長いほど、いわゆる“霜降り”度を表す Marble Score（MB）が高い牛肉となり、一部の Wagyu 種では400日以上肥育されることもあります。

なお、豪州全体で約2,800万頭いる肉牛のうち約150万頭（約5%）がフィードロットに入っており、特に中国向けなどの霜降り肉需要を背景に、中長期的にその頭数は増加傾向にあります。

このようにフィードロットで仕上げられた牛肉は「グレインフェッドビーフ」と呼ばれ、各地の高級ステーキハウスで提供されています（対して、牧草のみで育てられた牛肉は「グラスフェッドビーフ」と呼ばれます）。

ステーキ文化

豪州、特にQLD州の食文化を語る上で欠かせないのがステーキです。ブリスベン市内には多くのステーキハウスが有り、私も可能な限り食べ比べに励んでおります。

「ステーキハウス」と聞いて、皆様はどのような光景を思い浮かべるでしょうか？

多くの方は、大きなTボーンステーキを皆でシェアするアメリカ式のスタイルを想像されるかもしれませんが、しかし、豪州では一人につき一枚のステーキを注文し、自分の好みに合った焼き加減で味わうスタイルが一般的です。興味深いことに、豪州のステーキ店のメニューには、産地・部位・サシの度合いなどが丁寧に記載されており、自分が頂く牛肉の背景に思いを馳せながら選ぶ楽しみがあります。

また、弊社が取引しているフィードロットの名前を見かけることもあり、そ

THE PHOENIX WAGYU / DARLING DOWNS QUEENSLAND / GRASSDALE FEEDLOT		ブランド/地域/Feedlot名 穀物肥育期間/年齢 血統/部位/霜降り度合
365 DAYS GRAIN FED / 36 MONTHS OF AGE		
F3 Wagyu Tenderloin MB 7+ (H)	250 grams	
KING RIVER WAGYU / NORTHERN QUEENSLAND / TAJIMA / LOTUS CREEK FEEDLOT		
365 DAYS GRAIN FED / 36 MONTHS OF AGE		
F4 Wagyu Rib/Scotch Fillet MB 8-9+ (H)	280 grams	

の牛肉を実際に味わうのは仕事柄ならではの喜びです。なお、数ある部位の中でも人気なのが「RIB FILLET（日本ではリブアイと呼ばれる）」で、香ばしい脂の香りが食欲をそそり、私もすっかり虜になってしまいました。

私の食生活

とはいえ、日常の私の食生活はステーキ三昧というわけではありません。以下、実際の食生活を簡単にご紹介させていただきます。



メニュー一例

<朝 食>

日課は、シリアル「Weet-Bix」と「Carman's Protein Bar」。

Weet-Bix は名前の響きから小麦製かと思いきや、私が購入していたのはグルテンフリー版だった様で原料の96%がソルガムでした。素朴で軽やかな味わいが特徴で、牛乳をかけて簡単に済ませることができます。Carman'sは豪州の家族経営企業が手掛ける健康志向ブランドで、ナッツをふんだんに使った甘さ控えめのバーは、外出時のエネルギー補給にも最適です。

豪州では商品のパッケージに「Grown in Australia」や「A Family Owned Australian Business」等の記載を見ることが多くあります。豪州の方が自国産であることや自国の家族経営企業であることに誇りを持っているのが伝わ



私の朝のお供 1



私の朝のお供 2

ってきますし、それをマーケティング戦略に組み込んでいる点も興味深く感じました。

<昼 食>

豪州は移民国家であり、食文化も非常に多様です。そのため、オフィスの周囲にはアメリカ、イギリス、イタリア、インド、韓国、タイ、中国、トルコ、日本、ベトナム、ペルー、ポーランドなど、実に多国籍なレストランが並んでいます。当初はこれらレストランでの食事を通じて毎日世界旅行気分を楽しんでおりましたが、最近では専らタイ料理、中華料理、イタリア料理の3店をローテーションで利用しています。



ちなみに、2024年時点で豪州

地域最安値のピザランチ（それでも1,000円）

の総人口に占める海外出生者の割合は31.5%。移民の出身国は、1位イギリス、2位インド、3位中国、4位ニュージーランドとなっており、文化的・歴史的に近しい英連邦の国家が目立ちます。中でもニュージーランド人はVISA無しで豪州での居住及び就労が認められており往来が活発です。

<コーヒータイム>



カップの動物はその笑顔から世界一幸せな動物と言われる、豪州原産のクオッカ

さすが海外の企業というべきか、弊社にはスターバックス並みの本格的なエスプレッソマシンがあり、人生初の“カフェ店員体験”に心躍らせています。

スチームミルクの泡立ちや温度管理は奥が深く、その日の出来に一喜一憂しています。

豪州ではブラックよりも、ラテやフラットホワイト（エスプレッソにスチームミルクを加えたもの）が主流です。このような文化背景もあり、一人あたりの牛乳消費量は約250～270ml／日と非常に高い水準にあり、スーパーの棚には低脂

脂肪乳やA2牛乳、オーガニック牛乳など、多様なニーズに応えるラインアップが並んでいます。一方で、豆乳などの植物性ミルクの棚も増加傾向にあります。

<タ 食>

ありがたいことに、ブリスベンには日本食材を扱うマーケットが複数存在しており、多少価格が高め（約2倍程度）ではあるものの、日本と同じよう



全て豪州産の素材です！

な食材を手に入れることができます。そのため、幸運なことに一度もホームシックになったことはありません。

お米も日本産のものが販売されており、炊飯器を持たない私は毎日鍋で炊飯しています。私は柔らかすぎるご飯があまり好みではないのですが、最初の頃は水や火の加減に失敗し、図らずもリゾットを作ってしまったこともありました。悪戦苦闘の結果、最近では自分好みのお米が炊けるようになりました。

主菜は、スーパーマーケットで購入したステーキ用の牛肉や鶏肉、ラム肉を焼くことが多く、ミディアムレアの焼き加減を目指して引き続き修行中です。

豪州の食肉生産量は牛肉が最も多く、次いで鶏肉、ラム肉、豚肉の順です。スーパーではステーキ用牛肉の種類は豊富で、逆に豚肉コーナーはかなり控えめです。

また、健康志向やアニマルウェルフェアへの関心が高い国柄のため、グラ



5ドルセールの日には顕著に在庫が薄くなります



マンゴー祭りの様子

スフェッド牛やオーガニックビーフ、フリーレンジ（放し飼い）チキンなども一般に広く流通しています（ちなみにグラスフェッド牛は通常の牛肉より1kgあたり約AUD10高価です）。さらに、スーパーの一角には、代替肉のハンバーグやハム、豆腐など、健康・環境志向の棚が設けられています。私はキノコが大好きなので、副菜には毎日のようにマッシュルームを焼いています。香りが豊かで味も濃く、500g入りでAUD5という価格にも魅了されていましたが、5月頃から突然AUD7に値上がりし、家計に地味な打撃を与えています。

豪州では、このように食材価格が頻繁に変動します。原価の上昇を速やかに消費者価格に転嫁する文化が根付いているのだと実感すると共に、日本の価格転嫁の慎ましさを懐かしむこともしばしばあります。

<デザート>

私がブリスベンに到着したのはちょうど夏の時期で、スーパーには連日マンゴーが山積みされていました



ブリスベンの街並みと筆者

(全て豪州産です！)。価格も1玉あたり250～300円程度と手ごろで、日本ではなかなか味わえない贅沢を日々堪能していました。

最後に

以上、私の垣間見たブリスベンでの食生活をご紹介させていただきました。豪州は移民大国かつ、国産食料の宝庫のため、日々の食事の選択肢が多く飽きることはありません。豪州にお越しの際は是非お声がけ下さい。旬の食材とお好みに合ったステーキ／ワインでおもてなしさせていただきますと幸いです。

理事長新任あいさつ



飼料輸出入協議会

理事長 田中 大輔

(豊田通商(株)ライフスタイル本部・アグリサプライチェーン部 部長)

この度、飼料輸出入協議会の理事長に就任いたしました、豊田通商の田中大輔でございます。このような大役を担うこととなり、大変身の引き締まる思いでございます。日本の飼料・畜産・水産養殖・食品業界、並びに当協議会の発展に向け、一生懸命取り組んでまいります。

現在、我々の業界は多くの変化と挑戦に直面しています。特に、国際的な政治経済の不安定さや気候変動の影響は、我々のビジネス環境に大きな影響を及ぼしています。米国政権の政策変更に伴う影響や、飼料原料の供給状況、価格動向の変化に対して、我々は柔軟かつ迅速に対応する必要があります。

また、国内に目を向けますと、少子高齢化による市場の成熟や物流問題、物価高の影響など、様々な課題が山積しています。このような状況下で、安定した飼料供給を確保することがますます重要になっています。これらの課題は、単独では解決できないものであり、業界全体での協力が不可欠です。

さらに、世界的に見れば、新興国の経済成長に伴う食料需要の増加があり、各国で食料安全保障に向けた取り組みが進められています。日本においても、食料の安定供給を確保するための具体的な施策が求められており、我々の役割が一層重要になってきています。

このような厳しい環境の中で、当協議会は各社の知恵を結集し、共に課題解決に取り組むことが求められています。過去の経験を活かし、新たな挑戦に立ち向かってまいります。

今後とも、監督官庁をはじめ、各業界関係者の皆様のご支援とご協力を賜りながら、業界の発展に貢献していきたいと考えております。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和7年度新役員，専門委員会の委員決まる

飼料輸出入協議会では，さる5月28日，令和7年通常総会を飼料輸出入協議会会議室にて開催し，提出議案は全て承認され，引き続き開かれた理事会において新役員並びに専門委員会の委員長，委員が以下の通り選出された。理事長には，田中大輔豊田通商(株)アグリサプライチェーン部長が選出された。

7月1日現在の役員は以下の通り。(社名アルファベット順)

役 員

理 事 長	田中 大輔	(豊田通商(株) アグリサプライチェーン部長)
副理事長	岡本 英二	(丸紅(株) 穀物油糧部長)
副理事長	山西 真介	(伊藤忠商事(株) 飼料・穀物部長)
副理事長	浅見 彰宏	(三菱商事(株) 穀物飼料部長)
副理事長	下石川 哲	(三井物産(株) 食糧事業部長)
会計理事	山田 俊平	(双日(株) 食料・林産事業部長)
理 事	豊田 裕司	(カーギルジャパン(同) 飼料穀物部長兼蛋白飼料部長)
監 事	岩瀬 裕紀	(兼松(株) 穀物飼料部長)
専務理事	姫野 健二	(飼料輸出入協議会)

専門委員会

1. 総務委員会

委 員 長	丸紅(株)
委 員	カーギルジャパン(同) 伊藤忠商事(株) 兼松(株) 三菱商事(株) 三井物産(株) 双日(株) 豊田通商(株)

2. 主原料委員会

委 員 長	三菱商事(株)
副委員長	三井物産(株)

副委員長 伊藤忠商事(株)

委員 カーギルジャパン(同) 兼松(株) 丸紅(株) 双日(株)
豊田通商(株)

3. 副原料委員会

委員長 伊藤忠商事(株)

委員 カーギルジャパン(同) 兼松(株) 丸紅(株) 三菱商事(株)
三井物産(株) 双日(株) 豊田通商(株)

分科会

植物蛋白・糟糠類分科会

動物蛋白分科会

粗飼料分科会

分科会長

丸紅(株)

兼松(株)

豊田通商(株)

4. 編集委員会

委員長 三井物産(株)

委員 カーギルジャパン(同) 伊藤忠商事(株) 兼松(株) 丸紅(株)
三菱商事(株) 双日(株) 豊田通商(株)

5. 安全性委員会

委員長 三菱商事(株) (主原料委員長)

伊藤忠商事(株) (副原料委員長)

委員 カーギルジャパン(同) 兼松(株) 丸紅(株) 三井物産(株)
双日(株) 豊田通商(株)

私のプロフィール

飼料輸出入協議会業務部長

西澤 充晃



本年7月1日より業務部長に就任いたしました。西澤充晃です。よろしくお願いいたします。

大学卒業後、兼松江商(株)（現兼松(株)）に入社し、37年間余り食糧部門の営業に従事してまいりました。小麦・大麦・米穀や食品大豆に携わる期間が長かったのですが、飼料原料では主原料の部署に約5年間在籍し、近年は飼料米にも携わらせていただきました。

海外駐在経験は米国のみですが、オレゴン州ポートランドに合計4年、食品大豆の事業会社への出向でオハイオ州コロンバス近郊に4年おりました。

業務部長職に関し前任の西田部長より引き継ぎを受けている最中ですが、近年の飼料業界に関わる当会の課題に際して、会員皆様が知恵を絞り、汗を流して対応してきた多くの実績を知りました。その歴史に深く感銘するとともに、皆様の重責に少しでもお役立ちができますよう、微力ながら精一杯努めて行こうと心に決めた次第です。今後、何卒よろしくお願い申し上げます。

<プロフィール>

1964年9月 神奈川県生まれ

1988年3月 東北大学法学部卒業

1988年4月 兼松江商(株)（現兼松(株)）入社 穀物油脂部油脂課

1994年7月 兼松米国会社ポートランド支店

2000年4月 東京本社 穀物油脂部第一課 課長

2007年4月 東京本社 飼料部第一課 課長

2013年3月 食品大豆事業会社（米国オハイオ州）出向

2017年 4 月 兼松米国会社 ポートランド支店 支店長

2018年 8 月 大阪支社 穀物油脂部大阪農産課 課長

2020年 4 月 東京本社 穀物部加工製品課 担当課長

秋季為替セミナー開催のご案内

飼料輸出入協議会

恒例の為替セミナーを下記の通り開催いたしますので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、今回も会場開催と同時にweb配信を行う予定です。どちらでのご参加を希望されるかも、お申し込みの際ご連絡いただきますようお願いいたします。

記

日 時：令和 7 年 9 月 10 日(水) 14 時～15 時 30 分

(会場開催の受付開始 13 時 30 分～)

場 所：新橋ビジネスフォーラム <http://biz-forum.jp/access>

港区新橋 1-18-21 第一日比谷ビル 8 F TEL 03-5843-9169

演 題：「為替・金融市場の動向」(仮題)

講 師：伊藤忠商事(株) (予定)

参加料：無料 (定員となり受付できない場合のみこちらからご連絡申し上げます)

■参加ご希望の方は下記へお申し込み下さい。

飼料輸出入協議会 宮本宛 Email: jfta-o@galaxy.ocn.ne.jp

電話 03-6457-9550 FAX 03-6457-9551

三井物産株式会社

我が社の飼料原料 担当者のご紹介



◆小野 萌（おの もえ）

食糧事業部飼料穀物室の小野と申します。2015年に新卒で入社し、過去トウモロコシ・大豆粕の海外向商内を担当、現在はトウモロコシの国内商売を担当しております。その他、港湾事業や次世代燃料事業にも従事した経験があります。

米国駐在もしておりましたが、本誌では多くの方が米国に関してご紹介されているかと思うので、これまで出張含めて（多いのか少ないのか）5回訪問した、トウモロコシの産地であるアルゼンチンのおすすめを記載いたします。

アルゼンチンでイメージされるのは、ワインやステーキ、サッカー、世界で最も美しい書店“エル・アテネオ”がクローズアップされることが多いのでは、と想像します。

今回は、『Feed Trade』に相応しいものとして、“Puerto Norte Design Hotel”への宿泊をご紹介します。（既出でしたらご放念ください）

穀物輸出港があるロサリオの街をご存じでしょうか。サンタフェ州の都市で、アルゼンチン全体では3番目に人口が多く、革命家チェ・ゲバラやサッカー選手リオネル・メッシの出身地でもあります。

同ホテルはロサリオのパラナ川に沿うように建てられたホテルで、なんと「穀物サイロ」がテーマとなっています（写真ご参照）。

穀物事業者にとってはテンション上がること間違いなし、屋上からは川を行



き来るバルク船を望むことができ、館内はお楽しみですが（webで検索したらすぐに出てきてしまうのですが、笑）、穀物の気持ちを体験することができます(?)。そして実はこのホテル前の通りではメッシの目撃情報も…。

ロサリオは治安の悪い都市とも言われますが、同ホテルが立地するロサリオ市内中心部は安全性も高いエリアです。ホテルからは徒歩圏内で、川下りのように、ポートから穀物ターミナルを見学する観光ツアーもあります。



アルゼンチンは、羽田/成田からは乗換含めて30時間と物理的には遠い国ですが、穀物の世界では身近に感じられ、食事も美味しく、歴史・文化を堪能できる素敵な国です。是非アルゼンチン穀物ツアーも検討してみ

てはいかがでしょうか。

◆久保田 健嗣（くぼた けんじ）

お世話になっております、三井物産にて大豆ミール・菜種ミール・脱脂ごまの商売を担当している久保田健嗣と申します。

私自身は、2018年入社時にトウモロコシを扱う飼料穀物室に配属され、受渡や商売を担当させていただきました。その後2023年10月から研修員として1年間アメリカに行き、最初の半年をニューヨークにある米国三井物産の食料課にて、残りの半年を西海岸にある弊社出資先穀物集荷・輸出会社 United Grain Corporation にて過ごさせていただきました。南米含め穀物・飼料・畜産・水産・搾油について研修いただいた機会は大変貴重であり感謝しております。



右の画像は、私のプロフィール写真を使って、主に国内外のサンプル調達・送付業務を担当している画像をAIで生成したものです。

そして、帰国し今は副原料の部署にいる、という経歴です。

記憶が正しければ（だいたいこう言う時は間違っていますが）、『Feed Trade』に自己紹介をさせていただくのは今回が3回目です。元々無いネタが、もう在庫切れしている（受渡ではあってはならない状況ですが、,,）と悩んでいたところ、今をときめく同期の矢坂から、同じく今をときめく人工知能“AI”に私の自己紹介を20行で考えてもらおう案を打診され、大変有難く思いながら早速行動に移しました。

が、最初の行が「主に国内外のサンプル調達・送付業務を担当しています。」と出てきたので、私の唯一の希望であったAIも散りました。もう少し、AIに自分が商売を担当していると分かってもらえるように、頑張りたいと思います。

入社以来お世話になっている業界に戻ることができ、大変光栄に思っております。微力ながら、皆さまに貢献できる様頑張っている所存ですので、何

卒ご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

◆矢坂 天成（やさか てんせい）

平素より大変お世話になっております。三井物産にてトウモロコシの商売を担当している矢坂と申します。久保田と同じく2018年に入社し、バルク船で輸送される粗糖，コンテナで輸送される精製糖を取り扱っておりました。

東南アジアを中心に各地を飛び回り，世界で戦う醍醐味と，自分自身の力不足を実感する日々でした。2022年にフィリピンに研修員として派遣され，砂糖だけではなく，コーヒー，抹茶パウダー等，食品原料を幅広く取り扱い，時にはドアノックで客先に突撃し，時には債権回収でお菓子工場に1週間立てこもったこともありました。

2024年3月に帰国し，現在の飼料穀物室に配属され，トウモロコシの主原料受渡を担当いたしました。右も左も分からない中で，皆様のご助言とご協力をいただき，何とか受渡を卒業することができ，今年より商売を担当しております。

趣味はサッカーです。2002年ワールドカップをみて世界で戦う日本代表に憧れてボールを蹴り始めました。夢だったサッカー選手にはかすりもしませんでしたが，高校時代日本代表の板倉選手にヘディングで勝ったこと，フィ



リピン研修員時代にアジアの日本人駐在員大会で優勝&MVPになれたことは一生の思い出です。今でもプレミアリーグ（マンチェスター・ユナイテッド）とJリーグ観戦（箱推し）が土日の楽しみです。

経験も実力もまだまだではございますが、皆様と飼料業界に貢献できるよう尽力する所存です。何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

◆梶山 雄暉（かじやま ゆうき）

三井物産 食糧事業部飼料穀物室の梶山雄暉と申します。

2022年に入社して以降3年間は物流専門部署に在籍し、主に外航バルク船（近海船・ハンディサイズ船・パナマックス船）の用船業務と船の運航管理業務を担当しておりました。海運業界のプロフェッショナルの方々とお話をする中で、圧倒的な物量を誇る穀物業界でのトレーディ

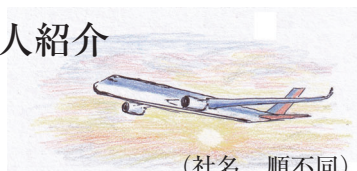


ングに憧れ、今年4月より現部署へ異動いたしました。現在は、輸入トウモロコシ・飼料麦の用船業務を担当しております。

大学院では海の砂浜を研究しており、砂や泥・岩と格闘する日々を送っておりました。対して、穀物業界での海上輸送には、生き物である飼料穀物を安定輸送するべく最適解を見つける使命があり、大変興味深く学びで溢れていると実感しております。

目下、スエズ運河の通峡規制・中東情勢の不安定さ・トランプ関税等、世界の穀物海上輸送は日毎に変動している状況ではございますが、引き続き安定供給を支えられるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いします。

わが社飼料関連部署の新人紹介



(社名、順不同)

豊田通商株式会社



野中 柊太郎 (のなか しゅうたろう)

アグリサプライチェーン部アグリロジスティクスグループ

皆様、初めまして。アグリサプライチェーン部アグリロジスティクスグループに配属となりました、野中柊太郎と申します。

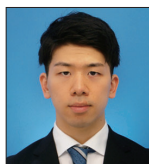
小学生から高校までサッカーを続けてまいりました。大学生からスキューバダイビングを始め、4年間で100本以上潜りました。一番好きな海は、世界遺産でもある小笠原諸島です。3回訪れたことがあります。毎回綺麗な海の青さと透明度の高さに驚かされます。小笠原の海で、初めて体長20メートルほどのマッコウクジラを海中で見た際は、食べられてしまうのではないかと生物学的恐怖を感じました。また、公共経済学・財政学を専攻するゼミに入り、日本の地域間医療格差について研究していました。

趣味は、麻雀です。先輩に数合わせで呼ばれ、無理やり打ち続けさせられる中で麻雀に魅了されていきました。麻雀は、与えられた手牌を上手く組み合わせ、戦況や他人の思考を読みながら、アガリにいたり、時にはオリる、という一期一会の出会いが非常に奥深いです。

就職活動を通じて、私は人々の生活に密接に関わるビジネスに携わりたいと強く思っていました。その中でも、特に穀物事業に関心を持ち、実際にこの分野で働けることを大変嬉しく思っています。穀物は人々の食生活の基盤であり、その重要性を実感しながら日々の業務に取り組んでいます。配属されてから早

くも2カ月が経過しましたが、社会人としての経験が浅く、まだまだ学ぶべきことが多いと感じています。特に、業務の流れや専門知識については未熟な部分が多く、日々の業務において戸惑うことも少なくありません。しかし、私はこの状況を前向きに捉え、少しでも早く戦力として貢献できるよう努力していきます。先輩方のご指導やアドバイスをいただきながら、成長していきます。これからも多くのことを学び、チームの一員としてしっかりと役割を果たしていく所存ですので、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

三菱商事株式会社



松井 多聞 (まつい たもん)

穀物飼料部 飼料チーム

座右の銘：明るく・楽しく・元気に・前向きに

今年度、穀物飼料部飼料チームに配属されました新入社員の松井多聞と申します。学生時代は哲学・倫理学を専攻する傍ら、体育会剣道部に所属し日々練習に励んでおりました。

一日も早く皆様のお力になれるよう、集中して日々の業務に取り組んでまいります。未熟な私ではございますが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



今井 裕華 (いまい ゆうか)

穀物飼料部 オイルシードチーム

座右の銘：去華就実

今年度入社いたしました、オイルシードチーム今井裕華と申します。大学ではミュージカルサークルに所属し、米国ロサンゼルスでの交換留学も経験いたしました。

何事にも好奇心を持ちながら、真摯に業務に向き合い、一日でも早く皆様に貢献できるよう精進してまいります。未熟な私ではございますが、皆様、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



高井 美樹（たかい みき）
穀物飼料部 コーン・マイロチーム

座右の銘：Be the change you wish to see in the world.

今年度入社し、穀物飼料部コーン・マイロチームに配属いただきました高井美樹と申します。

大学時代には、1年半をトロントで過ごし、京懐石のミシュラン店や日本茶卸会社にて働いておりました。これらの経験を通じて、丁寧なコミュニケーションや相手目線に立つことの大切さを学ぶと共に、人々の生活を支える食分野に携わりたいという想いが強くなりました。

この度ご縁あって、穀物飼料部に配属されたことを誠に嬉しく思います。未熟な私ではございますが、一日も早く皆様のお役に立てるよう精一杯努力しますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

双日株式会社



阿部 蓮太郎（あべ れんたろう）
食料・林産事業部 食料原料課

はじめまして。本年4月に双日に入社し、食料・林産事業部食料原料課に配属されました阿部蓮太郎と申します。大阪で生まれ育ち、大学時代は京都で過ごしました。京都では飲食店巡りに奔走し、食べログ百名店ならぬ「あべログ百名店」を作成したほどです。皆様、京都に行かれる際はぜひお声か

けください。

大学までサークルでバスケットを続けており、キャプテンを務めました。始めてから身長を26cm伸ばしてくれたバスケットには感謝してもしきれません。また、ウイスキーに傾倒しており、ボトルを集めたり、全国の蒸留所を回ったりしています。80本ほどのウイスキーのコレクションがあります。引っ越しの際には一大事で、特に大事なモノは我が子のように抱えながら、新幹線に乗って持ってきました。担当であるトウモロコシは、グリーンウイスキーの原料でもありますので、不思議な縁を感じているところです。

飼料という食の根幹となる分野に携われることを大変喜ばしく思います。まだまだ未熟ではございますが、目の前のことに必死に取り組んでいきたいと思えます。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



津端 歩美（つばた あゆみ）
食料・林産事業部 食料原料課

はじめまして。この度、双日株式会社食料・林産事業部食料原料課に配属となりました、津端歩美と申します。千葉県生まれの千葉県育ち。大学時代は千葉県が誇る夢の国でキャストをしており、「ゲストが自分に何を期待しているのか」ということを常に考えながら働いておりました。

私のモットーは、「興味を持ったことは全部挑戦！」です。好奇心旺盛な性格で、水泳、陸上、ソフトボール、バドミントン、アルティメットと、幼少期から今まで興味を持ったスポーツには物怖じせず取り組んできました。

畜産やトレーディングに関する知識はまだまだ乏しいですが、日々沢山の学びを得ることのできるこの環境に飛び込めたことを、非常に嬉しく思います。自分の好奇心を活かし、幅広く知識を吸収できるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

三井物産株式会社



清 透馬 (せい とうま)
食糧事業部 飼料原料室

今年度4月より飼料原料室に配属されました清透馬と申します。神奈川県藤沢市出身で幼少期から大学卒業までの17年間ラグビーに取り組んでまいりました。

ラグビーでは、高校時代に全国大会へ出場し、中学・大学では全国大会準優勝を果たしました。全国優勝には至りませんでした。が、大学時代に部員158名という大所帯の中で全国優勝を目指して切磋琢磨した経験を通じて、何事にも真摯に取り組む姿勢を身に着けることが出来ました。学業においても真摯に取り組む姿勢を活かし、マーケティング及び消費者心理学を専攻する中で、2年連続で優秀学業成績個人賞を受賞する等、文武両道に努めてまいりました。

また社会人となりラグビーを辞めた後は、人に頼られる人間になるべく先ずは物理的に強くなりたいとの思いからブラジリアン柔術を始めました。今後は、様々な面で頼っていただける人間へと成長したいと考えております。

この度、飼料原料室に配属となり皆様と共に飼料の安定供給に携われることを大変嬉しく思っております。学生時代に培った何事にも真摯に取り組む姿勢を活かし、皆様と力を合わせて日本の飼料・畜産業界の発展に寄与していく所存です。

未熟な点も多く、ご迷惑をお掛けすることもあるかと存じますが、1日でも早く皆様に頼っていただける人間となるべく精進してまいります。何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



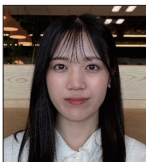
勝田 真由 (かつた まゆ)
食糧事業部 飼料穀物室

皆様はじめまして。このたび飼料穀物室に配属となりました，勝田真由と申します。幼少期は父の転勤に伴い国内各地を転々としておりました。居住地同様，熱を入れるものも定まっておりましたが，中学1年時にバイオリンと出会い，以降は10年ほど部活，サークルとオーケストラに勤しんできました。社会人となった今も楽団に所属しております。

大学では生命情報学を専攻し，薬となる可能性のある化合物を生成AIを用いて探索する研究を行っておりました。いわゆる“ホット”な分野ではありましたが，毎日目に見えない極小の物質を相手にコンピューターに向かい続ける生活に「このままで良いのか？」という思いが生まれ，商社への入社に至りました。

配属され2カ月ほどとなりますが，そのスケールに驚かされる毎日です。比較するのも妙ですが，化合物の1溝倍（10の32乗）の重さの貨物が乗る船を扱っているそうです。「目に見える」を通り越す存在感に，感動もひとしおです。また飼料業界は，私が学生時代に製菓を志したきっかけである「暮らしの一助になりたい」という想いを食の面から実現できる最良の場であると確信しており，日々刺激的で楽しく業務に励んでおります。

未熟な身ではありますが，初心を忘れずこれからも精進してまいります。皆様ご指導ご鞭撻のほど，何卒よろしくお願い申し上げます。



中台 夏菜 (なかだい かな)
食糧事業部 飼料穀物室

初めまして。4月より食糧事業部飼料穀物室に配属されました，中台夏菜

と申します。

私の趣味は、ジャズダンスです。身一つで、時に言葉以上に雄弁に思いを伝えられる点に魅力を感じ、小学生から今に至るまで14年間熱中してまいりました。約100名の仲間と、朝から晩まで基礎練習や作品創作に打ち込み、中高では全国大会準優勝、大学では10大学対抗コンテストにて二度の優勝を達成しました。高い目標を掲げ仲間と苦楽を共にした日々は、何にも代え難い青春であり、私の人生の糧となったと誇りに感じております。社会人となった今でもダンスの楽しさを忘れられず、早速今夏に舞台を控えており、週末は練習に励んでいます。

そんな私にとって、ダンスに匹敵する幸せはまさに「食」であり、食料本部への配属、ひいては食の根幹にあたる飼料業界に携われること、大変光栄に思います。まだまだ未熟者ではございますが、持ち前の粘り強さを活かし、日々楽しみながら精進してまいります。皆様、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

丸紅株式会社



奥寺 里帆（おくでら りほ）
穀物油糧部（食料アグリ經理課に社内出向中）

2025年4月より穀物油糧部に配属となりました奥寺里帆と申します。現在は2年ほど営業經理に社内出向しております。

幼少期はアメリカの田舎町で育ちました。当時から何に取り組む時でも「根性」を持って、最後までやり遂げることを大切にまいりました。

不器用な面も多々ございますが、持ち前の根性で一生懸命やり抜き、精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



柵木 清亜（ませぎ せいあ）
穀物油糧部 副原料課

2025年4月より副原料に関わる業務を担当させていただくことになりました。座右の銘は「勇往邁進」です。

学生時代より働くことを夢見た食糧分野に携われる幸せを噛み締めながら、一日でも早く業界に貢献できるように日々精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



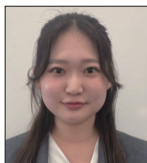
望月 映佑（もちづき えいすけ）
穀物油糧部 穀物課

2025年4月から入社し、穀物油糧部穀物課へ配属になりました。トウモロコシに係る業務を担当させていただきます。

座右の銘は「明日は明日の風が吹く」、実家はわさび農家です。学生時代は留学生と地方をつなげることを目的とした学生団体の立ち上げなどに取り組みました。

一日も早く皆様のお役に立てるよう、精一杯頑張ります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

カーギルジャパン合同会社



関 京香 (せき きょうか)

穀物油脂本部 バルクグレイングループ 飼料穀物部

皆様、初めまして。

5月に中途で入社いたしました、関京香と申します。前職は証券会社で法人営業をしておりました。生まれは北海道，大学は秋田，初配属地は仙台と少しずつ南に下りながら生きてきましたが，遂に東京にたどり着きました。

悩みながらも，へこたれない，愚直な心を持って日々の業務に努め，1日でも早く皆様に貢献できるよう精進いたします。

まだまだ未熟な私ではございますが，ご指導ご鞭撻のほど，よろしくお願いいたします。

兼松株式会社



大平 真也 (おおひら しんや)

穀物飼料部 粗飼料課

本年度より，穀物飼料部粗飼料課に配属されました大平真也と申します。この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

誕生は神奈川県横浜市ですが，誕生から半年もしないうちに兵庫県の西宮市に移り住んだため，出身は兵庫県西宮市と認識しております。私の父方は剣道一家でしたが，甲子園球場まで自転車で15分のところに住んでいたため，野球小僧になってしまいました。小学校中学年になると東京都立川市に引っ越し，高校まで野球一筋でした。大学では横文字に憧れ，ラクロス部に入部

しました。本気で日本代表になれると思い、毎朝4：00に起床し5：30から自主練習を行う4年間を過ごしておりました。早起きの習慣は現在も継続しており、毎朝無人のジムにて奇声を発しながら己の肉体と向き合っております。

野球で培った泥臭さと大学で身についた早起きの習慣を活かし、飼料業界の発展に貢献していく所存でございます。至らぬ点多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



楊 竣凱（よう しゅんかい）
穀物飼料部 穀物課

初めまして4月に兼松の穀物飼料部穀物課に配属されました楊 竣凱と申します。東京都出身で日本と台湾のハーフです。高校卒業まで日本で育ちましたが、高校で参加したアメリカのホームステイの経験から「大学は日本ではなく海外で学びたい」という想いが強くなり紆余曲折あり台湾への留学を決意しました。

大学、大学院では消費者心理を専攻し、「日本の商品パッケージが台湾人消費者にどのような影響を与えるのか」というテーマを研究しました。

幼少期は自分のアイデンティティに迷う時期もありましたが、留学生活を経て自分はざっくり85%日本人で15%台湾人かなと感じております。

趣味は空手道で5歳から始めて今年で20年目になります。これまでに世界大会で3位入賞した経験もあります。

最後にはなりますが、就職活動時代より希望していた“食”に関わる仕事に就けたことを嬉しく思います。至らぬ点多々あるかと存じますが、全力で取り組んでいきたいと思っておりますので、何とぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



増尾 唯人（ますお ゆいと）

穀物飼料部 副原料課

このたび、穀物飼料部副原料課に配属されました増尾唯人と申します。

生まれは和歌山、育ちは大阪とタイ（バンコク）という、少々変わった環境で育ってまいりました。父の転勤でタイに移った際は、友人と離れる悲しさからこの世の終わりかと思うほど号泣したものの、いざ住んでみればすっかり順応し、今では第2の故郷と呼べるほど愛着があります。

大学時代は「モルック」という木の棒を投げるスポーツに没頭しており、夏には高校球児と見紛うほど真っ黒に日焼けしながら、日本一を目指して練習に励んでおりました。

そしてこのたび、飼料、中でも魚粉という海の恵みを扱う仕事にご縁をいただきました。飼料と魚のことはまだまだ学ぶことばかりですが、アジアの熱気とモルックで鍛えた集中力を武器に、早く一人前の戦力となれるよう励んでまいります。

至らぬ点も多くあるかと存じますが、どうぞ温かくご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

..... **伊藤忠商事株式会社**



菅野 博司（かんの ひろし）

飼料・穀物部 飼料課

皆様初めまして。本年4月に伊藤忠商事に入社し、飼料課に配属されました、菅野博司と申します。

私は、中華人民共和国北京市で生まれ、7歳まで中国で育ちました。父の

仕事の関係で、小学2年生のころに日本へ移住し、以後は東京都内で育ってまいりました。中国では、現地の幼稚園と小学校に通ったため、第一言語は中国語ですが、日本に来てから使う機会も少なくだいぶ忘れてしまい、現在一生懸命再勉強しております。

大学では、法学部に籍を置きつつも、法律ではなく、日本政治外交史を専攻していました。明治期以降の日本の政治と外交の連関に関して、一次資料を用いながら、自分なりの歴史を書くことを通じて、当時の政治家の意思決定とその背後にある政治理論を勉強していました。

また、高校時代から弓道を続けており、今も週末は道場にて、先生と二人三脚で稽古を続けております。昨年秋には五段を拝受し、次の審査に向け自分自身の射と向き合い続けています。

入社にあたり、身近な「食」という分野において、トレード業務を経験したいという思いから、食糧部門への配属を希望し、このたび願いを叶えていただきました。

現在は、大豆粕・菜種粕のデリバリー業務に従事しており、一日でも早く皆様に貢献できるよう日々勉強に努める所存です。

字のごとく、右も左もわからない状態であると思いますが、一生懸命、泥臭く食らいついていきますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



米国産トウモロコシの需給と シカゴ相場動向



<小國聖仁氏>



<坂井勇人氏>



<山田耕人氏>



<渡邊延暁氏>



<矢坂天成氏>



<浅見昂志氏>



<宇野慎一郎氏>



<黒川尚暉氏>

司会 それでは、2025年度の主原料座談会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

最初に、6月末までのシカゴトウモロコシ定期相場展開総括について、豊田通商の宇野さん、よろしくお願いいたします。

● 6月末までのシカゴトウモロコシ定期相場展開総括

宇野 豊田通商の宇野です。今はトウモロコシとマイロの受渡をやっております。本日はよろしくお願いいたします。

昨年6月末までのシカゴトウモロコシ定期相場展開総括としては、昨年2024年の座談会が7月4日でしたが、昨年同月直近限月7月限の終値は403.5Nで

出席者

(社名ABC順, 敬称略)

小國 聖仁 伊藤忠商事(株)飼料・穀物部飼料課
 坂井 勇人 兼松(株)穀物飼料部穀物課
 山田 耕人 丸紅(株)穀物油糧部穀物課
 渡邊 延暁 三菱商事(株)穀物飼料部コーン・マイロチーム
 矢坂 天成 三井物産(株)食糧事業部飼料穀物室
 浅見 昂志 双日(株)食料・林産事業部食料原料課
 宇野慎一郎 豊田通商(株)アグリサプライチェーン部アグリロジスティクスグループ
 <司会>
 黒川 尚暉 三菱商事(株)穀物飼料部 コーン・マイロチーム

した。9月限では405.5Uとなっており、N/Uはキャリーの相場となっていました。

2024年7月4日からの1年間でいうと、直近限月の最高値は2月18日につけた504.5H、最安値は8月26日につけた360.5Uとなっていました。

2024年8月26日にトウモロコシが安値をつけたとき、ファンドは27万5,000コントラクトのショートポジションを持っていて、2025年2月18日にトウモロコシが高値をつけたときは、ファンドは37万5,000コントラクトのロングポジションを持っていました。この期間中、ファンドは65万コントラクトのトウモロコシを買って、トウモロコシの上昇に寄与しました。

昨年の最高値は7月につけた614.75N、最安値は6月につけた390.5Nとなっており、昨年対比今年の値動きは緩やかなものになっていたということです。

1年間の相場の動きを振り返りますと、2024年7月4日の458.5Nから9月中旬まで下降トレンドとなっていました。10月頃からはブラジルの乾燥懸念、ロシア／ウクライナ間及び中東における緊張の高まりの影響を受けて、一時、上昇トレンドに向かいましたが、その後、米国の順調な収穫進捗状況などを材料に相場の上昇は抑えられ、大局的に見ると、2024年年明けまでは下降トレンドが継続しました。

年明け後は、トランプ大統領と習近平国家主席が電話対談において、今後の米中関係における友好的な姿勢を示したことや、夏季のみ販売としていたエタノール混合率最大15%の高配合ガソリンの通年販売を許可するよう求める命令にトランプ大統領が署名したこと、また南米の乾燥傾向となる天候予報などを受けて、相場は上昇トレンドに切り替わりました。

3月以降は、トランプ大統領の関税政策の方針に大きな影響を受けて、上昇と下降を繰り返す相場となっており、直近6月の相場の動きでは、今年の受粉が7月10日前後となることが予想されますが、先週は大半の地域で受粉期を無事に通過するという先取りした動きとなっており、米国の良好な作付け進捗も影響して、大きくシカゴ相場は下がる動きとなりましたが、ファンドの売り越し幅を考慮に入れると、目先的な下落幅は限定的となり、9月限月で400付近を動く展開となっていくのかなということです。以上が総括となります。

司会 ありがとうございました。

続いて、24/25（旧穀）米国産トウモロコシ需給見通しについて、まず供給動向のところを伊藤忠商事の小國さん、よろしくお願いします。

●24/25（旧穀）米国産トウモロコシ需給見通しについて

<供給動向>

小國 商売を担当しております伊藤忠商事の小國です。よろしくお願いします。

旧穀の24/25クロップの供給サイドの数字はもう固まっておりますので、レビューという形で作付面積と単収について振り返りたいと思います。

作付面積は90.6百万エーカーということで、23/24クロップと比較として4百万エーカー減少という結果でした。。

これは大豆とトウモロコシの比価を考えたとき、農家にとってトウモロコシ対比で大豆は魅力的というのが大きな理由の1つかと思います。農家が作付けを計画するする3月のタイミングで、大豆とトウモロコシの比価、つま



座談会風景

り大豆の先物価格÷トウモロコシの先物価格が結構高かったため、大豆にシフトした農家が多かったのかなと思います。

平均単収は179.3bu／エーカーということで、過去最高の結果となりました。これは4月に中西部を含め作付けが急ピッチに進み、7月中旬頃に高温を免れ、受粉期を迎えたことが大きかったのかなと思います。参考までに、去年24年4月末の時点では、作付進捗は27%、例年対比プラス5%と早い進捗でした。

一方で、G/Eレシオ、作況評価も7月末まで68%と、例年比で高い水準だったので、作柄も非常に好調だったことが、高単収の結果につながったのかなと思っています。

司会 ありがとうございます。

今度は、旧穀の需要動向について、三井物産の矢坂さん、お願いします。

<需給動向>

矢坂 三井物産の矢坂と申します。商売担当をしております。本日は、よ

ろしくお願いします。

まず旧穀の需要見通しについては、USDAの6月発表では5月から0.5億bu増加で152.9億bu、これは23/24クロップの150億buから約3億bu増えている形になっています。この3億bu増加の内訳については、飼料需要微減、エタノール横ばい、主に輸出需要が増加していることが増加要因になっています。

今後、大きな変動はないかと思いますが、変動が起こるとすれば、エタノールと輸出の2点かと思います。

現状エタノール需要は、USDAの発表では、昨年比微増の55億buで、国内ではドライブシーズンということで需要は堅調、エタノールの輸出も好調が背景とされていますが、過去の傾向からして、55億buという数字までいくのかは懐疑的なので、多少下振れる可能性はあるかなと見ています。

輸出に関しては、メキシコが国内の不作で輸出量が大幅に増加していて、これが米国に流れてきています。現状、エクスポートセールスもまだまだ順調に積み上がっているのですが、現時点のUSDAの発表は26.5億buになっていますが、輸出がもう少し増えて26.8億buと、これから0.3億buくらい増えるのではないかと予想しています。

司会 ありがとうございます。

続いて、6月末発表の四半期末在庫について、双日の浅見さん、よろしくお願いします。

< 6月末発表の四半期末在庫について >

浅見 初めまして、双日の浅見です。デリバリー担当をしております。名前はコウシでして、トウモロコシと覚えていただければ幸いです(笑)。

私からは2024年、6月末に発表された四半期期末在庫報告についてお話させていただきます。

6月1日時点では、全米の在庫は46.44億buと、前年同期比7%減となっています。この数値は、市場の予測の46.5億buと一致してしまして、大きなサプライズは在りませんでした。ただ、依然として在庫水準は低位にあるこ

とが確認されています。

内訳としては、農家の在庫が30億 bu、農家外在庫が16.44億 buです。農家保有比率が64.6%に上昇していき、こちらは過去5年平均の60%を上回っており、農家が価格の上昇に対して在庫を保有していることを示唆しております。

また1～3・四半期の累積使用量に対する在庫比率は38.7%と、前年の42.6%を下回っています。とはいっても、過去5年では2番目に高い水準です。この点から見ると、全体的に在庫は低下しているものの、使用量ベースでは、第1四半期～第3四半期では健全に維持されているとも解釈できます。

司会 ありがとうございます。

今までのお話も踏まえて、旧穀の期末在庫率見通しについて、各社順番にご意見を伺えればと思います。では、兼松の坂井さんからお願いします。

<期末在庫率見通し>

坂井 兼松の坂井と申します。現在、商売担当をしています。本日はよろしくお願いたします。

弊社の旧穀期末在庫率は8.87%と予想しています。USDAの予想とあまり変更はありません。輸出需要と飼料需要につき修正を加えたので、考えを述べさせていただきます。

まず輸出需要については、6月26日時点で21億6,200万 buの輸出実績があり、残り9週間で4億8,800万 bu、輸出できるかどうかが焦点になると考えます。

昨年同時期が週平均4,150万 buであることを踏まえると、仮に前年と同程度の輸出が進めば、最終着地が25億3,500万 buとなります。

ただ、USDAのバランスシート上の通関統計上の数字よりも、export inspectionsが2億 buほど低く出てくることを考慮し、最終着地は27億3,500万 buで考えています。

飼料需要については、56億7,300万 buに減少すると予想しています。全米

在庫の数字から逆算した場合、第1四半期～第3四半期の飼料需要合計で48億2,700万 bu と考えています。USDA 目標の57億5,000万 bu に到達するためには、第4四半期で9億2,000万 bu が必要となります。

Cattle on feed 等の家畜に関するデータを見ても、飼料需要は、第4四半期も前年と大きく変わらないと考えております。前年同期と同じ8億4,600万 bu と置いたときに、最終着地が56億7,300万 bu と考えています。

これらを踏まえると、弊社の期末在庫率の予想は8.87%となりました。

司会 ありがとうございます。

続いて、伊藤忠商事の小國さん、よろしくお願いします。

小國 需要サイドの見通しは、飼料用はほぼ変わらないと考えており、エタノール向け需要と輸出需要に関して意見を述べさせていただきます。

まずエタノール需要は、今の生産は、55億 bu を到達するようなペースで維持されています。またエタノールマージンが順調に右肩上がりに回復していることから、エタノールの製造者にとってのインセンティブは保たれており、55億 bu は据え置きだろうと考えています。

輸出に関しては、坂井さんと同意見ですが、今の8月積みで考えると、米国産に需要が集中していたという実感もあることから、輸出が8月も旺盛になると考えて、27億 bu と予想して、期末在庫率は8.57%まで下がるのではないかと考えています。

司会 ありがとうございます。

続いて、三井物産の矢坂さん、お願いします。

矢坂 まず結論から言うと、弊社は9.0%と予想しています。供給面に関しては、USDA 数値がほぼ確定値で見えていて、需要面では、USDA 数値対比でエタノールの需要減少が輸出量増加を少し上回って、USDA の8.9より0.1%高い在庫率を予想しています。

司会 ありがとうございます。

では、続いて、丸紅の山田さん、お願いします。

山田 丸紅の山田と申します。今は商売を担当させていただいています。

期末在庫率は、私も伊藤忠商事の小國さんと一緒に8.57%と見ています。エタノールが、このままいくと55億buを維持するだろうというのは同意見です。

輸出需要も、駆け込み需要というか、本来であれば南米にもう少し流れてもよかったタイミングで、特にアジア向けには米国しかオプションがなかったというのが顕著だったこともあって、米国の輸出は8月の伸びを反映するのではないかとということで、27億buと見ており、期末在庫率は8.57%と見ています。

司会 ありがとうございます。

続いて、豊田通商の宇野さん、お願いします。

宇野 弊社の期末在庫見通しとしては、8.39%と置いています。供給サイドはUSDAの発表値を採用しています。需要サイドは、エタノール消費と輸出に注目しています。

エタノールについては、弊社は上方修正される可能性があると思っています。その理由は大きく2つあります。

1つは、トランプ政権下のエタノール政策の影響で、6月13日にバイオマススペースのディーゼルについて、2025年から20億ガロン以上増加して、2026年には56億1,000万ガロンになると発表しました。これによって大豆油の相場には大きな影響を与えましたが、今後、バイオエタノールに関する積極的な政策強化の可能性も高いと考えています。

2つ目は、原油相場の高まりで、イスラエルとイランの対立や、ロシア／ウクライナ戦争に見られるように、地政学リスクの高まりによって原油相場が強くなると見ていて、その影響を受けて、バイオ燃料の需要が高まるのではないかと考えています。

こういうことが影響して、55億buが55億2,500万buになるのではないかと見ています。

輸出については、過去3年間で見ると、ブラジル産の農家売りは比較的早いのですが、もう少し長いスパンで見ると、ブラジル産が出てくるのが遅い年であるのかなと今年はとらえています。

加えて、リアル高やブラジル国内の強いエタノール需要、大豆収穫の遅れ等々が影響して、ブラジル産トウモロコシの競争力を持ち始める時期が遅くなっている。これによって、6月のUSDAの発表に対して輸出需要が少し増えて、27億buの数量と考えています。これらで計算して、期末在庫率は8.39%と弊社は考えています。

司会 ありがとうございます。

続いて、双日の浅見さん、お願いします。

浅見 旧穀の期末在庫については、6月のWASDEレポートよりもさらに強気に1億1,650万bu減らし、在庫率は7.52%まで低下するという予想をします。

輸出が想定を上回るペースで推移していること。加えて、直近の成約の状況の傾向から、旧穀成約がかなり増えているのではないかと考え、輸出数量は28.5億buと、かなり多めに見積もりました。

エタノール需要と飼料用需要は前年と据え置いて計算して、結果7.52%の在庫率という予想をしています。

司会 ありがとうございます。

最後に、三菱商事の渡邊さん、お願いします。

渡邊 三菱商事の渡邊と申します。本日はよろしくお願いいたします。

弊社として、旧穀の在庫率は9.05%と予想しています。

供給面については据え置きで予想しています。

需給面については、主に2点を変更しています。1つ目は飼料需要、2つ目は輸出需要になります。

1つ目の飼料需要については、USDAの6月発表対比で6,800万bu程度減少するのではないかと予想しています。第3四半期までの飼料需要予想実績を鑑みると、USDAの年間見通しに届かせるためには、第4四半期にて前年同期比で約15%上振れる必要があると見ています。そのため、USDAの年間見通しに到達するのは現実的ではないのかなと見ています。

2つ目の輸出需要については、既に皆さんからもお話がありましたが、堅調に輸出検証高が積み上がっていることや、南米産トウモロコシが競争力を

持ち始める時期が遅れていることを背景に、米国の輸出需要が6月のUSDA発表対比で5,000万bu程度増加するのではないかと考えています。

司会 ありがとうございます。

並べてみると、一番低いのが双日さんの7.52%、一番高いのが三菱の9.05%で、輸出需要は皆さん増えると予想していて、エタノール需要と飼料需要のところで少し見方が分かれているという感じですかね。

次は、25/26（新穀）米国産トウモロコシ需給見通しについて、まず6月末に発表された作付面積報告について、兼松の坂井さん、お願いします。

●25/26（新穀）米国産トウモロコシ需給見通しについて

< 6月末発表の作付面積報告について >

坂井 新穀の米国産トウモロコシの作付面積は、9,520万3,000エーカーとなります。1944年以来、アメリカで3番目に多い作付面積となりました。3月末時点の作付意向面積で発表された9,532万6,000エーカーから僅かに減少し、一方、前年対比では5%増加しています。

市場予想平均の9,535万エーカーとほぼほぼ一致していたので、相場において大きなサプライズとはなりませんでした。

今回、収穫面積の予想も発表されて、8,677万4,000エーカーとなり、USDAが現在のバランスシートで前提としている8,740万エーカーを下回っています。

収穫率でいうと91.1%と、6月の需給予想は91.7%だったところが下方修正されたわけですが、ここについては理由が不明なので、今後の需給報告を注視する必要があると思います。

今回の調査で見積もられている作付面積のうち、363万エーカーは未作付であるため注意が必要です。8月の実地調査を踏まえた、8月12日の発表で、この点について確認する必要があると考えています。

司会 ありがとうございます。

続いて、現在の生育状況・作柄について、三菱商事の渡邊さん、お願いします。

<現在の生育状況・作柄について>

渡邊 最新の生育状況について、6月30日時点でUSDAが発表したG/Eレシオは73%となっており、前週対比で3ポイント上昇しています。また前年同期比の67%と比較すると、6月30日に発表された73%は6ポイント増加しています。したがって、昨年同期比に比べて、作柄は改善している状況と見ています。シルキング進捗率については、6月30日時点で米国全体にて8%の進捗率となっています。例年平均が6%前後だと思しますので、こちらでも良好な進捗と見ています。

作付面積予想については、市場予想対比やや低めの数字だったと見ています。7月の天候が予報どおりになったと仮定すると、今後、単収が下方修正される可能性もあり得ると考えており、現時点で楽観視できる状況ではないと思っています。

今後の注目点については、主に2点、気温の予報と降水量になります。

1つ目の気温の予報については、足元バミューダ高気圧が広範囲に及んでおり、大気の状態がやや不安定かなと見ています。この高気圧の状況下では、高温が観測されると、干ばつや作物の熱リスクが発生する可能性が高まっていると見ています。

受粉期の熱ストレスについては、湿度が低い状態で気温が35度をを超えてくると、花粉やシルクの生存率が低下するといわれています。今後、高温がどの程度観測されるか・どの程度分散されるかに注目しています。

2点目の降水量について、トウモロコシは、7月に1週間あたり1～1.5インチ程度の水分を必要としています。そのため、月間で4インチ以上の降水量が観測されるのか否かが重要なラインかなと見ています。今後数週間は高気圧によって降水量が少ないのではないかと予想されているため、この点も注目したいと思っています。

最後に、作柄については、弊社としては、現時点ではUSDAが発表している181bu/エーカーという数字を支持したいと考えています。

司会 ありがとうございます。

続きまして、単収・生産量予想について、三井物産の矢坂さん、お願いします。

<単収・生産量予想>

矢坂 まず6月のUSDAの振り返りですが、単収は181bu／エーカーで、前年同時期における新穀単収予想、今の旧穀と同じ値となっています。これは歴史的にも非常に高い水準ですが、旧穀は、6月USDA報告で179.3bu／エーカーに落ちついています。

一方で、生産量は作付面積増加により158.2億buになっています。

渡邊さんのおっしゃっていたとおり、作柄は改善しています。シーズンリティに反して改善傾向にあるという状況にはあります。

受粉期の天候に関しては、例年よりも高い気温や、米国北西部の乾燥懸念などはあるのですが、直近はよい天候に恵まれています。天候に関しても、引き続き注意する必要はありますが、今後、恵の雨が予報されていて、弊社は更なる単収の上振れ余地もあると考えています。

G／Eレシオは73%と非常によいということで、過去の同時期のグッド・アンド・エクセレントのレシオと単収の相関を見て、我々としては186bu／エーカーで予想しています。

生産量に関しては、USDAの作付面積、収穫面積前提で単収186かけているので、生産量については162億buと予想しています。

司会 ありがとうございます。

続きまして、需要全般について、伊藤忠商事の小國さん、お願いします。

<需要全般について>

小國 25／26クロップの需要について、現在は飼料用で59億buとなっておりこの数字だけ見ると、過去最高となっております。ここに関しては、飼養頭数が毎年1%くらい伸びているのが事実としてあり、その伸びを加味しても59億buという数字はちょっと無理があるんじゃないかと考え、実際は58億

bu くらいかなと考え、23/24クロップと同じくらいのレベルではないかと思っています。

また、小麦の25/26クロップを見てみると、飼料用では前年同値に据え置かれていますので、小麦に代わってトウモロコシが使われることも想定されており、飼養頭数の増加だけから考えて58億 bu が妥当であろうと思っています。

エタノール向け需要は55億 bu と、旧穀である24/25クロップと同じ水準で置かれています。

エタノール向け需要を考えるにあたり、原油相場を見る必要があります、アメリカやOPECの増産や中国経済の低迷を考えると、原油相場は弱含む展開と考えます。つまり、エタノール向けトウモロコシは少なくなるであろうし、55億 bu は少し過剰なのではないかということで、54億5,000万 bu と置いています。

輸出向けは、政治的な要因もあるかと思うので見通しにくいのですが、アメリカと同時に見ないといけないのはブラジルだと思います。たとえブラジルが豊作になったとしても、今は結構内需に消えていく。つまり、エタノール向けや飼料用向け需要が高まっていることを考えると、輸出マーケットに多く現物が出てこず、どうしてもアメリカ産が競争力を持つ状態が続くのではないかと考え、ここは26億7,500万 bu と、今のUSDA と据え置きで考えています。

司会 ありがとうございます。

最後に、期末在庫率の見通しについて、各社に発表していただきたいと思っています。旧穀とは逆の順番で今度は三菱商事の渡邊さんからお願いします。

<期末在庫率見通しについて>

渡邊 弊社としては、期末在庫率は11.63%と予想しています。

供給面について、単収は先ほど申し上げたとおり、USDA の発表を支持したいと思っていますので、181bu にて考えています。作付面積は、6 月末の四半期報告にて発表された数値を採用しています。

需要面については、エタノール予想については、6 月のUSDA 発表を据え置いています。

輸出予想については、米中間の交渉の話があるとは思いますが、6月発表よりやや減らして考えています。

中国の生産量見通しは、24/25クロープと比較して、少し増えるのではないかと予想されています。また輸入についても24/25クロープ対比では少し増えるのではないかと見ています。いずれにせよ、米中両政府間で話がまとまるまでは、中国は潤沢な自国在庫を切り崩していく流れになるのではないかと見ています。

司会 ありがとうございます。

続いて、双日の浅見さん、お願いします。

浅見 新穀の期末在庫率は11.15%と予想します。まず生産量に関しては180buと敢えて保守的に見積もりました。現在G/Eレシオは73%と高いものの、環境収容力にはある程度の頭打ちがあるのかなと考えています。昨年も181buという予想でしたが、結局179.3buに落ちついていることも考慮し、やや保守的に180buと置きました。

輸出に関しては、ブラジルが豊作であることと、一部新穀の需要が旧穀に流れていると考え、24億buと置いています。結果として、11.15%の期末在庫率と予想となりました。

司会 ありがとうございます。

続いて、豊田通商の宇野さん、お願いします。

宇野 弊社は、新穀の期末在庫率は9.08%と考えています。

供給面については、作付面積は月末発表のとおりで置いています。単収は、若干下方修正の180.7buで置いています。G/Eレシオや降水予想、積算気温等々を用いて、過去15年の傾向を鑑みて単収を計算したところ、結果的にはUSDA発表値と近い数字となりました。

イリノイ付近は、今のところ良好な進捗状況ですが、サウスダコタやアイオワ付近は、昨年対比ドライ気味であり、不安要素の一つとして考えています。

一方で、供給サイドとしては、飼料需要は予想値据え置き、輸出デマンド

が27億 bu, エタノール需要が56億 buに増えると計算し、最終的な在庫率は9.08%と考えています。

司会 ありがとうございます。

丸紅の山田さん、お願いします。

山田 丸紅は、期末在庫率は13.63%で予測しています。

作付面積は、USDAの95.2百万エーカーを使っています。収穫面積をUSDAの見通しよりも少し改善させた87.30百万エーカーで見えています。

昨年24/25クロープを振り返っても、最終的に179.3buに落ちつきましたが一時期は183buを超える数字が見えていたのもあり、天候懸念も顕在化していない状況を鑑みれば単収は181buというのは全く違和感がないだろうということでそのまま使用しています。

逆に需要面は、飼料需要自体は増えると思われるものの、トウモロコシが59億 buまで伸びるのかというのは違和感があり、今年のUSDAの数字と同様の57.5億 buで置いています。

エタノール需要は55億 buから、ざっくり1%くらいは増えてくるのではないかと、55.5億 buと置いています。

輸出面は難しいのですが、ブラジルの生産量を135百万トンベース程度と予想すると、需要の伸びも含めて、米国の輸出量の3億 buくらいはブラジルに食われるのではないかと考えています。なので、24億 buまで輸出需要を下げ。期末在庫は20.56億 buで、期末在庫率は13.63%としています。

司会 ありがとうございます。

三井物産の矢坂さん、お願いします。

矢坂 新穀の期末在庫率は13.7%と予想しています。

供給に関しては、旧穀在庫のキャリーはUSDA発表値と同水準で、先ほどの単収生産量パートのとおり、単収は186で置いているので、生産量は162億 buで予想しています。

そうすると、全体的な供給数量は176億 buの予想で、6月のUSDA対比4億 bu程度多い見込みで置いています。

需要面に関しては、USDA発表の154.6億buをそのまま踏襲する形で置いています。エタノールに関しては、歩留まりが安定的に上昇していて、キャパシティは同一とすると、導入するトウモロコシ数量は減少する可能性があります。安定需要もあるので、ここは据え置きとしています。

需要は同じなので、期末在庫は21億buで置くと、期末在庫率は13.7%という予想を立てています。

ただし、各国の米国との関税交渉の行方によっては、輸出数量に大幅な上振れがあり得る状況ではありますので、輸出量が増加した場合は、期末在庫率は減少に転じることを念頭に入れる必要があるかと思います。

司会 ありがとうございます。

伊藤忠商事の小國さん、お願いします。

小國 25/26クロップの期末在庫率は12.4%と置いています。

まず供給面からいくと、作付面積、収穫面積はUSDAのままで考えて、単収は181.5bu、今のUSDAよりも0.5bu/エーカー上振れるのではないかと思います。

単収予想は、矢坂さんと結構近いのですが、G/Eレシオと単収の関係を見ています。G/E値は8月末を採用しており、この収穫直前のG/Eレシオと傾向値単収と実績値単収の差に相関性があると見ています。

過去の流れからして、現在の73%というG/Eレシオは、8月末にかけて約10%悪化する傾向があり、新穀のG/Eレシオは8月末時点で63%と予想され、最終G/Eレシオが63%の場合、実績単収は傾向値単収から0.47bu/エーカー増えることになります。それで、181.5bu/エーカーが妥当なところじゃないかという見通しです。

需要面については、先ほど申し上げたとおりですが、エタノールについては、25年度は新設されるエタノール工場は今のところなく、現在の55億buは少し過剰ではないかと考えて、結論、12.4%という期末在庫率を見込んでいます。

司会 ありがとうございます。

最後に、兼松の坂井さん、お願いします。

坂井 期末在庫率は12.47%で予想しています。需要サイドは据え置きで、供給サイドで変更しているところは、まず6月末発表の作付面積と収穫面積を採用しています。また単収は184.6buで置いています。単収については、25/26クロップのトレンドイールドの181buは下回らないと考えています。

この理由として、過去30年で、7月1日時点でG/Eレシオが71%を超えた場合、最終的な単収がトレンドイールドを超えなかった年が4回しかなかったです。さらに7月1日時点でG/Eレシオが71%を超えていた年度のうち、最終的な単収とトレンドイールドの増減の平均はプラス1.2%、さらに最終的な単収がトレンドイールド対比増加した年だけで計算するとプラス3.2%になりました。今回、G/Eレシオが73%であるため、仮に新穀がトレンドイールド対比2%上昇した場合は184.6となりますので、単収を184.6buとしています。以上を踏まえて、期末在庫率は12.47%となりました。

司会 ありがとうございます。

一番低い予想が9.08%で、一番高い予想が13.7%と、ここは皆さんの見方が分かれていましたが、各社の見方について何かご質問・ご意見があればお願いします。

小國 エタノールの需要のところで、豊通さんは56億buと、増えるの見通していますが、この理由は为什么呢？

宇野 旧穀のパートで発言させていただいた部分と一部被るのですが、トランプ政権下でのアメリカ国内での需要増加の可能性や、地政学リスクの高まりを要因とした原油相場の高まりによるエタノール需要の増加の可能性から増える傾向にあるんじゃないかと考えました。

司会 原油相場の見立ての違いですね。

山田 トランプも化石燃料の生産を促進してクリーンエネルギーを縛りにいくのかなと思ったら、意外と何もしない。何もしないというのが農家に対する答えということにして、うちもこれまで通りの成長率を反映した55.5億buで置いています。トウモロコシの歩留まり自体はよくなっているかもしれませんが、

エタノール向けの使用量自体が今の水準から下がるという絵が浮かばないのもあって、前年同水準＋平均成長率という形で数字を置いています。

小國 歩留まりがよくなったら、トウモロコシ自体は少なくなるけれど、それ以上に生産量が増えているということでしょうか？

山田 そういう想定です。

司会 単収は180buから186buまで結構振れ幅がありました。御参考迄昨年の座談会では、180前半の予想が多かったですが、結果的には179.3buとなっていますね。皆さん予想の出し方が異なり、興味深く聞かせて頂きました。

次に、他産地トウモロコシ動向について、丸紅の山田さん、お願いします。

●他産地トウモロコシ動向について

山田 他産地トウモロコシは、南米のブラジル、アルゼンチン、中国の3国について見ていければと思います。

ブラジルは大豊作見込みです。USDAが130百万トンという数字を出していますが、エタノールと飼料用の内需が堅調で、輸出には回らないというのが現状です。

生産量については現地の調査会社に言わせると、140百万トンとか150百万トンとかという結構過激な数字も出ていて、個人的にはこっちのほうが近しく、最終的な着地は135百万トンくらいではないかと思っています。これだけ生産量がある中ですので、いくら内需が強いといっても、どこかしらで輸出に回るのはないかと思っています。

期近でブラジル産がなかなか輸出に回らないことはあると思いますが、もう少し収穫が進んでくる10月・11月あたりになると、状況が好転してきて、ある程度は輸出に回ってくるのではないかと思っています。

片や、内需でいくと、先日、ブラジル政府がガソリン内の混合率を27%から30%に引き上げると出していますし、エタノールプラント、もともとサトウキビでつくっていたエタノールを、どちらでもつくれるようにするプラントの開発も結構進んでいるようですので、先々も内需は伸びていくのだろう

と思っています。

一方、鳥インフルエンザが今年初めて出ましたが、意外とスッと話がなくなるくらいには鎮静化できているという見立てなので、やはり内需は強いのかなと思っています。2年前に輸出市場を席捲したタイミングとは明らかに状況が変わっていて、輸出に回ってくるためには、ある程度内需が落ちつきを見せてこないと、どうしようもないのかなと思っています。

あとはリアル高ですね。昨年比2.3%くらいドル／リアルが高くなってしまっているの、そこも輸出になかなか回りづらいところを生んでいるのかなと思っています。

アルゼンチンも平年並みの生産量です。50百万トンくらいの生産量と見ています。アルゼンチンも足元はまだ収穫が60%に達していないくらいの進捗で、比較的スローではありますが、輸出のマーケットに出てくる環境ではないです。アルゼンチンもブラジルを見ながら値段の設定をするので、収穫も農家売りも進まない中で、ブラジル対競争力のある形で売っていくことはしないということですね。ポジションが合致すれば、日本向けに競争力が出てくる環境もあるかと思いますが、足元はそんな状況ではないかなと。

7月1日から元に戻された輸出税も重石になってきますね。

南米は豊作ですが、輸出に回りにくいのが現状です。

中国については、経済の低迷は継続しているものの、飼料用生産を中心に内需は堅調な状況は維持されています。かつ、国内の食料自給率向上を目指す政策を引き続きやっていますので、潤沢な国内トウモロコシを使って、まずは国内の生産に回すという方針は変わらない。

トウモロコシについても輸入の数量はめっきり減っていますので、中国が国を挙げて自給率を上げることを掲げている以上、米国産の輸入を増やすこともないでしょうし、買うのであれば南米という形が継続されると見ています。ですので、貿易マーケットにおいての中国の存在感は、我々トウモロコシの立場からすると、少し薄くなってくるのかなと思っています。

司会　ありがとうございます。

次に、主原料代替原料動向について、豊田通商の宇野さん、お願いします。

●主原料代替原料（マイロなど）動向について

宇野 まずマイロと飼料に分けて話します。マイロについての25／26クロップの予想値は、輸出は世界的には1,040万トン、そのうち米国産が600万トン（昨年220万トン）、アルゼンチン産は今年が150万トン（昨年は130万トン）、オーストラリア産は今年が250万トン（昨年は230万トン）という見通しになっています。

輸入については、中国の輸入量が850万トンで、依然、世界の貿易の約80%を中国が輸入しているという構図は変わらないと思います。ほとんど中国が輸入しているので、昨年と同様、中国次第の商材になっていると考えています。

一方、日本は、年間約13万トンの輸入になっていて、これは世界全体の貿易数量の2%くらいとなっていますので、プレゼンスが非常に低い状況になっていると考えます。

国内需要は年々減少しており、全国でマイロの使用がなくなるというシナリオも考えられるのかなと思います。

飼料米については、令和6年度の作付面積実績は9.9万ヘクタールほどと、令和5年度比べると3.5万ヘクタール減少しています。昨生産量に関しても72万トンから52万トンと、3割減少しています。

昨今、話題となっている米不足に伴う主食用価格の高騰、他作物への転換施策等から、主食用への転換、畑作化が進んだことで作付面積を減らしたものと見られます。

令和7年に関しては、作付意向調査結果によれば、飼料用米の作付意向は増加傾向にある県はなく、減少傾向とする県は、昨年の36県から今年は43県へと拡大しています。

一方で、主食用米の作付意向については、増加傾向とする県が34県という状況で、生産量見込みは719万トンと、過去5年で最大の生産量となる見込みです。

作付意向からもわかるように、複数年契約の更新年にあたる生産者や単年契約の生産者は、主食用米への切り替えが進み、供給量は昨年対比で大きく減少するものと推測されます。

司会 ありがとうございます。

一時期、トウモロコシが高かったときは、飼料用米に注目が集まりましたが、今は全く逆の状況になっている感じですね。マイロもおっしゃるとおり、どんどん減っていますね。

小國 マイロは今や中国の購買価格が高いことが理由に日本の輸入価格も高くなってしまっておりますが、今後マイロってどうなるのでしょうか？ 今後日本向けのマイロはどうなのかなと思って、再開の何かきっかけがあるのかなと思いながら模索しております。

山田 マイロほど、米中で唯一、政治材料がある作物はないじゃないですか。数年前にも米国から中国向けで急に関税が発動して浮いていたマイロがありましたけど、ああいうことでもない限り、今の構造はなかなか変わっていくイメージがないですね。日本の中での飼料用のつけ替えも進んで、ロットも小さくなってしまっているのです、需要をしっかりとって買うことができる原料でもなくなっちゃっているかなと。なくなっている原料だとは思わないのですが、これからはいかに効率的に買っていくかということを考えなければいけない状況かと思います。

司会 ありがとうございます。

次に、FOBプレミアム動向について、丸紅の山田さん、お願いいたします。

●FOBプレミアム動向について

山田 FOBプレミアムは、短期的にはどう考えても堅調だなと思っています。偏に南米の競争力がないことが最大の要因かなと思っています。南米、特にブラジルはエタノールと国内の飼料用の需要である程度とられていて、輸出マーケットに出てきたとしても、地理的な観点から、日本向けに競争力を持つことはなかなか難しいのが現状です。

本来であれば、南米が出てきて、米国は閑散とするはずのタイミングで、米国の穀物が高いけど南米産に対して競争力を持っているという現状ですので、下がる理由がないと思います。日本から見ても一番安い産地を買っていくのがベストなシナリオですが、南米が下ってくる理由がないので短期的には強いだろうというのがトレンドだと思います。

一方で、米国の新穀が出回るであろう11月の積み月以降は、米国にとっては新穀輸出に向けた圧力が出てくると思います。あとさすがに南米も大豊作ということになれば内需が何ぼ増えていたとしても、ある程度余剰になる部分が出てくるでしょう。その南米の余剰分が出るタイミングと、米国の新穀の輸出が始まるタイミングが被れば、そこからは競争力のある値段が出てきてもおかしくはないのかなというのは、希望も含めて思っています。

ただ、同じことを去年もやっていて、安くなるタイミングはほぼなかったもので、期待半分ということで思っているのが正直なところですね。

司会 ありがとうございます。

次に、海上運賃動向について、三菱商事の渡邊さん、お願いします。

●海上運賃動向について

渡邊 振り返りと今後の見通しの2パートに分けて説明させていただきます。

まず振り返りですが、2024年の年末から足元6月までは、乱高下を繰り返しました。足元6月は上げ基調になっていると評価しています。

年末から1月末にかけては、旧正月前の駆け込み需要は見られず、貨物に対してTonnageが上回る状況が続き、下げが続く展開となりました。

2月頭から2月中旬にかけては、中国の春節明けの荷動きの回復や南米積みの穀物、主に大豆の輸出増加に伴うマーケットの上昇期待によって堅調に推移しました。

2月21日に、USTRによる入港税検討案が議題提起されました。詳細は後述のパートでお話しさせていただければと思いますが、その結果、海上運賃

は最大リスクを織り込んだ価格へと高騰しました。その後は豪州出しの石炭や、日本向けの穀物の船取りが活発に行われ、緩やかに堅調に推移し、4月頭まで海上運賃は上昇しました。

4月頭には入港税問題、関税問題による先行き不透明感から、荷主のカーゴオーダーの出し控えが継続する中、大豆の南米積み―中国揚げ航海を終えたフリー船が増加し、供給の過剰感からマーケットは下げ基調になりました。

4月中旬から5月初旬にかけては、中国向けの大豆需要が北米から南米にシフトしてきた中で、トンマイルが増えたことや、中国の鉄鉱石輸入量の増加から、マーケットは上昇基調に転じました。5月初旬のアジア勢の大型連休明け頃からは軟調に推移し、5月12日には米中両政府から関税を引き下げる発表がなされました。その他、豪州石炭の傭船活動が落ちつきを見せ、軟調に推移しました。

6月に入ると、中国、インド、東南アジア向けを中心に、豪州炭やインドネシア炭の傭船活動が活発化したことを背景に、ケープサイズの傭船市況が上昇し、ケープサイズとパナマックスサイズ感の傭船料に開きが見られました。その結果、ケープサイズの石炭需要が割安なパナマックス需要に流入したことで、マーケットは反転し、堅調に推移しています。また豪州の洪水によって石炭の内陸物流混乱が発生し、この影響を受けた港での滞船増加もマーケットを下支えしました。ここまでが振り返りになります。

今後の見通しについて、短期的に8月末頃までは、マーケットはステイと見えています。背景としては、夏場の電力需要に備えた中国、インド向けを中心とする石炭見合いの傭船活動が一服すること、こちらは下落要因にはなり得るかなと考えています。一方、新穀のブラジル産トウモロコシに期待して、南米に船が集中する展開もあり得るのかなと考え、米国対比でトンマイルは増加し、船腹需給がオフセットされ、結果的にはステイになるのではないかと見えています。

長期的には、船腹供給量とか需要量ともに減少が見込まれるものと考えていますが、需要過多になることで傭船マーケットは強含んでいくのではない

かと見えています。

1つ目の理由として、脱酸素の流れの中に海運業界としても対応していく必要がある状況下で、次世代燃料を何とするかの議論が続いていることや、造船にあてる資材費の高騰・造船所の人手不足などを理由に、新造船の発注数は伸び悩んでいるためです。

2つ目は、2000年代の海運ブーム期に造船された船が年齢を重ね、2020年代後半頃には、船齢15年を超える船が増えてくるためになります。

司会 ありがとうございます。

続いて、シカゴの相場見通しについて、全員でお話ししていけたらと思います。では、兼松の坂井さんから順番にお願いします。

●シカゴ相場見通しについて

坂井 新穀の期末在庫率は12.47%に置いていて、この期末在庫率のレンジ的にどれくらいかなというので考えたところ、2015年あたりの相場のレンジとなるので、12月限は400セント、3月限は415セントくらいで考えています。ここはキャリーについては、今の15セントを乗せて予想している形になります。

司会 ありがとうございます。

続いて、伊藤忠商事の小國さん、お願いします。

小國 まず我々は、アメリカの期末在庫率とシカゴは相関性があると分析していて、先ほど期末在庫率の見通しで言ったとおり、12.4%を想定していて、ここから理論値、シカゴは440セント～450セントになると思っています。

司会 ありがとうございます。

続いて、三井物産の矢坂さん、お願いします。

矢坂 我々は、12月限が420セント、3月限が440セントと置いています。期末在庫率の見通しは、先ほどのとおり13.7で、小國さんと近い相関を使って計算しているのですが、足元旧穀の低い期末在庫率に対してシカゴの値位置が相関以上安いことも考慮に入れて、この数値にしています。

司会 ありがとうございます。

では、丸紅の山田さん、お願いします。

山田 私は、9月限が450セントで、3月限470セントという見通しにしています。

正直なところ、さすがにヒストリカルに400セントを割り込むレベルが維持され続けるかという、なかなかしんどいのではないかと考えていて、供給量を考えても期末在庫を考えても弱いのですが、精神的なところも作用して上がってくるのではないかと考えています。

司会 ありがとうございます。

豊田通商の宇野さん、お願いします。

宇野 9月末時点で、期末在庫率や生産量等々を見ながら、弊社は12月限で430セント、3月限は445セントという予想をさせていただきました。

司会 ありがとうございます。

双日の浅見さん、お願いします。

浅見 9月末時点での12月限は400セント、3月限が418セントと予想しています。弊社は期末在庫率を11.15%と若干タイトな予想をしているのですが、在庫率との相関から導かれる値よりも若干低めの400セントくらいに落ちつくのかなと予想しました。キャリアは現在より若干広めに設定して、3月限は418セントと予想しています。

司会 ありがとうございます。

最後に、三菱商事の渡邊さん、お願いします。

渡邊 25年9月末時点の12月限は425セント、3月限は445セントで予想しています。

予想背景としては、25/26クロップの需給について、現時点では米国やブラジルで、24/25クロップ対比で豊作が見込まれています。そのため、期末在庫率は増加していく流れになるのではないかと考えています。またキャリアについても20セント強くらいまで広がってくるのではないかと見ているため、このような予想にしました。

司会 ありがとうございます。

小國 私は12月限だけ申し上げたのですが、440セントが12月限で、3月限は、フルキャリー30の7掛けの20セントくらいで考えていて、460セントと思っています。

司会 ありがとうございます。

全員400セント台ということですね。

山田 農家のインプットコストは、今どれくらいなんですかね？ 農家の損益分岐は、385セントという人もいれば、420セントだったり、いろんな人がいるので一概には言えないですが。

小國 24/25クロップは、もっと高かったですよ。

山田 高かったです。たしか440セントを割らないんじゃないか、みたいな話だったと思います。「精神的には440セントを割らないんじゃないか」みたいな話を、去年の同じくらいのタイミングで誰かとしていた気がするんですよ。ただ、多分それも年ごとに更新されるでしょうから、そのものズバリというのはないと思いますけど。その精神的なラインが今年は390セント～400セントのラインだと思いますので、長続きはしないのではないかなと。

司会 ありがとうございました。

最後に、足元までで今年一番大きかった出来事はトランプの第2次政権が始まったことかと思います。各種市場への影響と今後の見通しについて改めてこの場で整理していけたらと思っています。

最初に、FOBプレミアムへの影響と今後の見通しについて、お願いします。

●トランプ政権の各種市場等への影響と今後の見通しについて

<FOBプレミアムへの影響と今後の見通しについて>

山田 一番難しいと思っていますが、トランプ政権が誕生してから最大の影響は、ここまで日本が米国のトウモロコシを買う期間が延びて、南米を買わなくなっているというのが一つなのかなと。米国にとっては中国向け大豆を失う分、アジア向けのトウモロコシで輸出キャパシティを埋めるということが起こったのかなと思っています。

ただ、トランプと中国の関係という意味でいくと、一次政権よりも二次政権のほうが、中国がうまくトランプをコントロールしているのかなと思っていて、肝のところは外さないようにやっているかなと。前回の一次政権のときよりも、FOBにしてもシカゴにしても、市場の反応は薄いと思うんですよね。もっと動いていたはずなので、ある程度市場参加者も慣れているところもあると思いますが、意外と反応は鈍いのかなというのが感覚としてあります。

あとは関税ディールに合わせて、東南アジアの、米国から買わずに南米から買っている人たちが、「米国のトウモロコシを買うよ」みたいな話を4月の当初から示唆していて、こういう第三極のような東になれば10百万トンくらい買えるような国々の需要が入ってくるという意味においては、日本にとって競争相手が増える環境で、あまりよろしくないのかなと思っています。また、トランプが就任する前は、バイオエタノール関係の話は流れが変わるのかなと個人的に思っていたましたが、農家はトランプの支持基盤でもあるので、意外とクリーンエネルギー政策にも文句を言っていないというのもエタノール向け内需を維持してFOBを下支えしている要因なのかなと思います。

新穀のトウモロコシは豊作なのでシカゴ定期も下がり続けていますが、トランプは国益を損なう、つまり米国農業にネガティブなことを大々的に進めるといことはしないはずなので、このまま価格が下がり続けて農家や米国自体が減収し続けるというのは想像し辛いなと思っています。感覚的な話なので表現が難しいですが、FOBにしるシカゴ定期にしる、いい塩梅で買いが入ってくるようにバランスしていくのではないかなと思っています。

ただ、誤算があるのが、これから三菱さんがお話しされると思いますが、USTRみたいな、本来は意図してなかったところで何かしらのゆがみが起こったとき、どういう影響が出るかはちょっと未知数かなと。

皆様、何かご質問等ありますか。

小國 トウモロコシに関して言えば、アメリカの対諸外国の関税は、アメリカのFOBに関しては、あまり影響はないかなと思っています。なぜかというと、メキシコは国内需給の観点からアメリカからの輸入が必須ですし、カ

ナダはアメリカにそれほど依存しておらず、EUも、24/25クroppはウクライナが不作であったためアメリカ産を買っていただけであり、ウクライナが通常に戻れば、カナダ同様アメリカに依存しない。要は、アメリカはアメリカのトウモロコシ輸出にとって怖くない国に対して関税をかけているのだと思います。

気になるのは大豆で、おそらくこれが一番影響力が大きいかと。中国はブラジル大豆の季節が終わればアメリカ産大豆を買わないといけなから、結局買うんでしょうね。

山田 買うでしょうね。だから、どこかで妥結はするのでしょうか、どこで？ というところでしょうね。

司会 ありがとうございます。

次に海上運賃について、三菱商事の渡邊さん、お願いします。

<海上運賃への影響と今後の見通しについて>

渡邊 今年2月以降の簡単な振り返りからお話しさせていただきます。

まず2月21日、USTRが議題提起をしました。提起された内容は、「米国国内の造船業の復活に生かす財源とするために入港税を課す」というものでした。具体的には1回あたり最大100万ドルの入港税を課す案が公表されました。当初は、中国建造船・オーナーが中国籍・オペレーターが中国籍の船が入港税の対象となっていました。

その後、3月24日と26日に公聴会が実施され、そこでは、米国産業の活性化や経済安全保障の貢献をはるかに上回るサプライチェーンコストの増加に伴う「米国経済や消費者への影響、米国輸出産業への競争力低下を懸念する声」が多く寄せられました。

本公聴会やパブリックコメントを受け、4月17日にUSTRが方針を発表しました。10月13日までの180日間は措置をとらずに、10月14日以降に課徴するというものでした。

日本向けで言うと、GULF-JAPANの場合、課徴の除外条件である「バル

ク船のDWTが8万トン以下」に該当します。PNW-JAPANについては、一部パナマックス船の中にはDWT 8万トンを超える船は存在しますが、極東からの空荷船が多く、「空荷で米国に到着する船については入港税の対象外とする」という課徴の除外条件に該当するという状況になっています。そのため、日本向けは入港税対象外となっている状況です。

この4月17日の方針発表については、「米国出しの穀物・石炭等の輸出貨物への悪影響を抑えつつ、中国造船事業者への発注意欲をそぎ、中国海運業者への直接的不利益となるように設計されたもの」と読み取れ、トランプ大統領の意向に沿いつつも、短期的な悪影響は避けるという折衷案だったのかなと見ています。

6月6日にも追加発表がありましたが、ドライバルクには直接関係ない内容となっています。

今後については非常に難しいのですが、米中両政府がどのような内容で合意するかに尽きるのかなと思っています。足元、中国は国内の豊作に支えられる形で、トウモロコシに関しては一部備蓄を使いつつも、輸入を極力減らしている状況かと思います。今後、米中間で何かしらの合意がなされて、その象徴として穀物トレードが行われる場合、備船市況にとってもブル材料になるのかなと見ています。引き続き、要注視と思っています。

司会 ありがとうございます。

ご質問・ご意見が何かあれば。

小國 USTRのところは、中国の企業が所有する船は課税対象という認識ですよね？

渡邊 その認識です。

坂井 CPチェーンに入っていたら対象になるという感じですよね？

渡邊 だと思っています。

矢坂 認識を確認したいのですが、このUSTRの調査が始まったのは、トランプ政権の1年くらい前のはずなんですね。で、トランプがいつからこの話を持ってきたのがよくわかっていなくて、そもそもこの調査は別軸で進

んでいたはずで、たまたまトランプの意向に沿った内容に最終的に決定されたのかな？みたいなイメージですが、その認識は合っていますか。

司会 2024年4月17日から調査が始まって、ちょうど1年後だったということで、17日に出たという理解です。

司会 個人的に思っていたのは、ドライバルクの船の内、半分弱くらいは中国建造になっている中、トランプ大統領としては米中が仮に戦争に発展することを想定したとき、造船すればするほど造船技術が伸長し、中国海軍の軍事力が強化されていくのを懸念しているのかなと思ったりしていました。

山田 国としては、違和感はないですね。そうすべきだし……。

坂井 今は中国、韓国、日本で造船業のシェアを埋めていて、そこにまたアメリカが入り込もうとしているという考えはなかったですね。

山田 6～7年前とかは、中国船がオペレーションするのはすごく怖いなと思っていたんですよ。今は普通でしょ。パフォーマンスも普通のレベルに上がっているかもしれないけど。「絶対に沈むんじゃないか」と思って怖かったけど、今は普通になっちゃっているから、増えていくし、オーソドックスになっていることに危機感を覚えたというのは、すごくよくわかります。

小國 そもそも今のアメリカの造船キャパはあまりないと聞いています。今後、結構長丁場でアメリカも取り組んでいく必要があり、今のUSTRも長期的な課税計画になっていることから、我々にとっての制約が続くのはきびしいですね

司会 次に、シカゴ相場への影響と今後の見通しについて、兼松の坂井さん、お願いします。

<シカゴ相場への影響と今後の見通しについて>

坂井 ここもかなり難しいテーマかなと思っていますが、このテーマを考えたときに、まさに2025年7月2日と3日あたりのシカゴ相場が象徴している出来事と考えます。ベトナムとの関税交渉が合意に至ったとか、7月4日の独立記念日のスピーチに合わせて、「中国と交渉がまとまった」みたいな発

表をするんじゃないかという観測が広がって、9月限であれば、たった1日で12セントくらい上がりました。

幾らアメリカで月間降水量何インチとか、干ばつ懸念が和らいでています。とかといろいろ考えても、1日でこういう噂で変わっちゃうマーケットというか、不確実性がすごく高まっているなと思っています。

実際に7月2日から3日の間で、ファンダメンタルズは特に何も変化がないところも象徴していると思います。

今後のトランプ大統領の発言とか、各国の交渉状況には注意が必要で、今後の重要なポイントとしては3つ考えています。7月9日の相互関税の延長期限、8月12日の中国との相互関税の期限、最後に10月14日の中国の関連船籍の入港税、この辺の動きには注意が必要なのかなと思っています。

こういうイベントがあると、短期的には相場の変動はあるのですが、やはり相場の本質は需給と考えています。

南米と米国で「とった」「とられた」を繰り返しても、世界全体で見た在庫が大きく動いていなければ、結局はファンダメンタルズの考えに戻るのが私の見方です。

今回のベトナムとの合意があったとしても、実際その政府の援助とかがなければ、一番競争力のあるところから買っていくのが通常かなと思います。そういう意味では、いろいろ合意がとれても、引き続き競争力のあるところから各国買っていくのではないかと考えています。

司会 ありがとうございます。

次は、為替相場への影響と今後の見通しについて、双日の浅見さん、お願いします。

<為替相場への影響と今後の見通しについて>

浅見 為替相場への影響と今後の見通しについて、お話しさせていただきます。

現在のドル／円相場は143～148円くらいで推移してしまして、FRBの高金

利の維持の姿勢、日銀の慎重な政策のスタンス、トランプ政権による通商財政政策が複雑に交錯する中、不安定な展開が続いています。

短期的にトランプ政権に関係する部分では、相互関税の見直しの期限が7月9日あります。貿易摩擦の再燃リスクがあるものの、市場は関税交渉が最終的には妥結するとの見方をしています。

トランプのやり方は、基本的に最初に厳しめの条件を投げておいて、徐々に交渉をかけながら、関税率の引き下げに合意させていく形になっていると思います。関税の引き下げに合意しなければ、アメリカにとってもインフレリスクが高まり、スタグフレーション、＝高インフレだけど経済は減速する経済状況になっていきます。

したがって、経済を減速させたくない米国にとっても、相手国にとっても、メリットがあまりない状況になりますので、こういった関税率の貿易摩擦の話に関しては、徐々に合意していくシナリオになるかなと思っています。

徐々に合意が進んでいくと、ドル買いの材料になり、合意に達成できない場合は、ドル売りの材料になっていく。

イギリス、インド、中国、ベトナム等は交渉が進んでいるという直近の情報もあり、一部ドル買いの傾向にある一方で、日本に関しては、まだ交渉があまり進んでない状況から、若干円高の方向に進むかなと思っています。

中長期的には、こういう相互関税の話もある一方で、米国の財政赤字の拡大とか、景気減退のリスク、FRBの値下げ観測等に注目されていきます。直近の動きでは、米国での大型減税案の通過による米国の財政赤字懸念は円高材料である一方で、雇用統計とか消費者物価指数からは、インフレの鈍化と雇用の堅調さが見えることから、円安材料と言えます。

またFRBのパウエル氏は、現状は政策金利をいいポジションと主張していて、利下げに対しては慎重な見通しとなっています。

総じてドル高要因とドル安要因がトランプ政権の中で交錯する中においても、中長期的には労働市場は緩やかな軟化と、個人消費の緩やかな減速によって、インフレを鈍化させながらソフトランディングの傾向になるかなと想

定してまして、上値は重い予想で、140～147円くらいの範囲で変動するのかなと思っています。

司会 ありがとうございます。

皆様、何かご意見等がありますか。為替は元々テーマに入っていないので、本日の中では新しい話題かと思いますが。

山田 利上げてできるんですかね？ 個人的にはローンを組んでいるから、上げないでほしいですけど（笑）。商売的には日本の競争力のために利上げをして、円の価値を上げることが必要かもしれませんが、政治的には今ギッタンバッタンしている状態で、そんなに日本が国民生活を変える政策転換ができるのかというとうどうなんだろうと思います。なので米国の金利上げ下げに左右される、日本の金利ベースで物事があまり動いていかない世の中が続くのかなと思っています。もっと円安に行くだろうと個人的にも思っていたので、個人的に143円は良いレベルだと思っています。

小國 個人的にはもっと円高に振れると思ってました。トランプ大統領の政策からしてドル安は必須であるため、もっと円高に振れてもおかしくないと考えてます。

山田 もっと急激にやるんじゃないかと思われたということですかね。

小國 トランプ大統領はドル安政策について選挙前に公言していましたが、思ったほど円高には振れてないですね

ただ、日本の輸出が伸びないということは、日経平均の下落と共に円高傾向が強まるのではとまだ期待はしております。

山田 トランプさんは、就任直前から「ドル安にガンガンしていこう」と脅していましたものね。

小國 公言していましたね。

山田 脅していたけど、関税政策とかやっちゃったがゆえに……。

小國 逆にドル高になっちゃいましたよね。

山田 FRBも何かそれに乗って、景気が後退したリスクを全部トランプに押しつけることができて、能動的に金利をコントロールすることを辞めてし

まいりましたよね。

司会 では、次、ロシア／ウクライナ戦争への影響と今後の見通しについて、宇野さん、お願いします。

<ロシア／ウクライナ戦争への影響と今後の見通しについて>

宇野 トランプ政権下での政策が、どのようにロシア／ウクライナ戦争への影響を与えるのかについてです。トランプ政権は3月以降、ウクライナへの支援を外交の交渉カードとして活用してきましたが、軍事支援や情報供与の一時停止を通して、ウクライナ政府に妥協を迫り、停戦を求めてきました。

ただ、プーチンは、停戦には限定的な同意のみ、エネルギー施設の攻撃停止のみで、政治的な主権や領土条件では妥協せず、その姿勢は一貫しています。

またゼレンスキー政権側は、安全保障の保障なしに妥協できない立場であり、米国の支援再開も停戦だけでは納得せず、和平構築の仕組みや再侵攻防止を求めており、条件の調整が難航している状況です。

これらを踏まえて、トランプ政権の影響力は、この戦争自体に対しては限定的で、交渉のイニシアチブはとろうしているものの、ロシアの強硬姿勢、ウクライナの譲れない条件、欧州の役割によって、簡潔な和平達成は困難ではないだろうかと考えている次第です。

司会 ありがとうございます。

何かありますか。

山田 ロシア／ウクライナ戦争が終わると、総じて日本に輸入するトウモロコシの値段は変わるのかな？ 戻っちゃったものね。慣れちゃったよね。

司会 海上運賃という意味では、スエズが少し通りやすくなるというものあるんですかね？

宇野 全体的には停戦となれば、エネルギーや穀物や船舶の供給が安定するという考え方ですよ。

山田 北アフリカとか、もっとグローバルに買っていた人たちが、いつも地理的条件で一番安いであろうところから自然に買えるようになるはずなの

で、下がるんでしょうね。

矢坂 今回の停戦の条件は、ロシアは何を突きつけているんですか。僕は NATO の話と領土と理解していて、そもそも NATO に入ることの理由として、ウクライナとしてはロシアの攻撃から身を守るための集団自衛みたいところなのに、もう戦争になっているわけです。ですから、NATO を辞めればいいのに、そこ以外の条件がすごく強いのあるのかなとか、そんなわけでもないですか。

宇野 現状調べた限りにおいては、それ以外のところはないのかなと思いますが、また別途調べさせてもらいます。

矢坂 いやいや、持ち帰るものでは……（笑）。皆さん、知っていたらなと思って。

結局ずっと解決できなくて、NATO に入ることによって攻撃されていて、でも、NATO に入る理由は攻撃されないためであって……。

宇野 それでは、辞めてしまえばいいのに。

矢坂 そう思っちゃうんですけど。その辺がまだ領土のところかなと。

浅見 終戦した場合、米国の経済制裁は、ロシアに対してなくなる可能性はあるんですかね？

宇野 それもアメリカが求める形で合意すれば、あり得る形になるのではないかと思います。

山田 ①ウクライナの中立国の維持、②もともとウクライナだったドネツク、ルハンスク、ヘルソン、ザポリージャの4州からのウクライナ軍の完全撤退、③ウクライナの NATO 加盟計画阻止。②番はウクライナからしたら絶対に譲れないでしょうね。

これに対してトランプは、①ロシア軍に占領されたおよそ20%のウクライナ領土の現状固定化、②ウクライナの NATO 加盟に向けたプロセスを少なくとも20年間中断、③米国は引き続きウクライナに武器を供給を提示。何か妥協なさそうですね。

矢坂 アメリカとしても武器を買ってくれるので、そんな、という感じで

すよね。遠いし……。

宇野 今朝、トランプとプーチンの電話会談のニュースがありました。トランプ側は停戦を要求していたけど、プーチン側は拒否という形になっていたの、まだまだ戦争自体は長期化していくんじゃないかと考えます。

司会 ありがとうございました。

最後に、米中関係への影響と今後の見通しについて、本日の総括に近いかもしれませんが、三井物産の矢坂さんお願いします。

<米中関係への影響と今後の見通しについて>

矢坂 では、まとめさせていただきます。まず米中にフォーカスした出来事を振り返ってみようかと思います。

2月1日、トランプが中国に対する10%関税適用の公表から始まっています。そこから米中は関税戦争に突入していて、4月10日までに145%にのぼる関税引き上げが行われています。他国に対しては90日間の適用延長が発表されました。これが4月10日の出来事です。

5月12日に、いわゆるジュネーブ合意がなされ、米国は145%から30%、中国は125%から10%へ関税が引き下げられました。その引き下げられた追加関税のうち24%は90日間停止。これが8月10～12日の交渉期限といわれるものです。

そういう立てつけで交渉継続となっています。その後、交渉が継続され、6月上旬に原則合意、6月26日に最終的な内容のとりまとめ完了といわれていますが、そのときに注目されたのは、中国からのレアアース輸出で、米国の対抗措置としてはプラスチック製造に使われるエタンとか、半導体、石炭、ソフトウェア、ジェットエンジン部品などの輸出規制ということで、農産品があまりフォーカスされていない状況ではあります。

ここに来て、今週の話ではありますが、米国側が2020年に結んだ第一段階の合意、「中国は、2年間で米国からの輸出品の購入を2,000億ドル増やす」というコミットメントがありましたが、これの履行が新型コロナの影響で未

達に終わっている状況なんですね。

「その約束を確り守って履行してくれ」という声が出てきていて、これが新たな米中貿易に関するトピックになる可能性がある。ここに関しては、中国も当時、「大豆の輸出を増やす」という話を出してきているはずなので、そこで農産品の輸出が注目される可能性があります。小國さんがおっしゃったとおり、これで大豆が増えた場合、トウモロコシの輸出キャパシティは埋まるので、トウモロコシ価格の上昇も多少あり得るのかなという状況かと思います。

これらの動きに市場は大きく上下する動きはありましたが、基本的には需要減と、リスクセンチメント悪化で、売りで反応することが多かったと理解しています。ただ、米中のトウモロコシのトレードに限っては、渡邊さんがおっしゃったとおり、中国の在庫率が依然高いので、基本的には米中関税戦争による影響は限定的なのかなと見ています。

今後の見通しはかなり難しいので、第1回トランプ政権のとき、どんな流れだったのかを見ていたら、7月に始まって12月に合意がなされたんですね。ちょうど半年くらいかなということで、実は2月1日から始まって、ちょうど半年くらいが8月なので、その辺で大きな合意がなされるのかなと。「TACOトレード」という造語があって、「Trump Always Chickens Out」、いつもビビって退くということで、最終的には調整姿勢を見せるところなので、年後半にかけて合意形成が形になってくるかと。現状の合意形成は特に明言されていることはあまりないので、そこが出てきて、市場が安定していくのかなと思います。

司会 ありがとうございます。これにて2025年度の主原料座談会を終わりたいと思います。ありがとうございました。

New Balance

< 22 >

岩崎食料・農業研究所 所長

岩崎 正典



「トランプ大統領の関税旋風が吹き荒れる中で始まった、 米国の新穀需給」

1. 4月初旬の商品市場を驚かせた、トランプ大統領の「相互関税」

米国農務省から3月末恒例の農家作付け意向面積が発表され、天候相場の開幕が告げられたが、トランプ大統領が進める関税政策の総仕上げとされる「相互関税」の詳細が2日に公表された後、市場の関心はこの関税政策が、米国経済に与える影響と同時に、貿易相手国の報復関税に向かうようになった。中国が米国の関税措置に対抗して、報復関税の発動と輸出入規制を強化する方針を明らかにしたことで、中国向けが多い大豆が10ドルの大口を割り込む急落となった。大豆は年初来安値を更新して985セントになったが、小麦の強保合やトウモロコシの小反発は、現状は両者が中国向け商談と無関係であることを示唆した。今回のトランプ大統領の関税政策が意図するように、巨額の貿易不均衡の是正を促す方向に進めば良いが、市場は中国に新たな貿易圏（拡大BRICS）の形成を促すリスクを敏感に感じ取った。

2. 市場の理解は、「相互関税」は米国にインフレを、世界にデフレの元凶

トランプ大統領の関税政策は、世界の供給体制にショックを与え、米国にはインフレ、世界にはデフレを起こすと受け止められた。前回のコロナ・シ

ショックは全世界にインフレを一様に広めたが、今回はその影響が分断される公算が高いとされる。米国では、新たなインフレの波が押し寄せる前の静けさの状態にあるが、米国を除く世界の大半は、かなりのデフレに向かうものと推察される。

天候相場の始まりに合わせて、米国農務省から統計資料が提供されたが、4月2日を境にして外部市場がシカゴの穀物取引所の雰囲気支配になり、特に中国が報復関税の発動を発表した後は、米中貿易戦争が激化に向かうとの見方から、金融市場のみならず実物商品市場も含めて、米国はインフレ懸念、世界はコロナ禍に続くデフレ懸念の市場心理に陥った。

3. 3月31日の米国農務省からの統計報告

a. 2025年産農家作付け意向面積（単位は千エーカー）トウモロコシは5%の増加

	3月31日	市場予想	農業観測会議	前年実績	前年比(%)
トウモロコシ	95,326	94,361	95,000	90,594	105.2
大豆	83,495	83,762	84,000	87,050	95.9

トウモロコシの意向面積は、市場予想を上回ったが想定範囲内で、大豆の意向面積は市場予想を下回った。近年は実作付面積が、市場予想の水準に戻る傾向があり、播種時期の悪天候により、トウモロコシは播種の適期を逸して、大豆に段取り替えが起こることが後日の、実作付面積推定で確認されている。小麦を含む、太宗作物の作付面積は224.15百万エーカーとなり、前年実績の223.7百万エーカーと大差のない数字であった。観測会議で指摘されたように、採算性の改善したトウモロコシに、農家の強い増産意欲が示されたが、大豆のことはブラジルに任せるとの農家の判断になった。

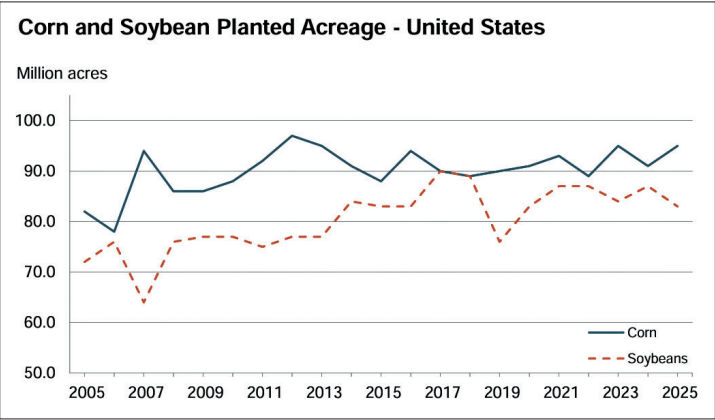
トウモロコシの意向面積は、前年比4.73 百万エーカー（5.2%）多い95.3 百万エーカーになった。全米48州の内40州で、前年を上回るトウモロコシの栽培が計画されている。前年比で増反が大きい主要生産州はアイオワが600千エーカー、ネブラスカで550千エーカー、ミネソタとサウス・ダコタで400千エーカー、ミズーリーで350千エーカー、そしてイリノイが300千エーカー等

になった。

大豆の意向面積は、前年比3.55百万エーカー（4.1％）少ない83.5百万エーカーになった。

全米29州の内23州で、前年度と同じ又は減少が見込まれた。大きな減反が示された生産州はアイオワが450千エーカー、ミネソタとノース・ダコタで400千エーカー、サウス・ダコタで350千エーカー、イリノイで300千エーカー、ウィスコンシンで250千エーカーになった。

＝トウモロコシと大豆の年次作付面積推移＝（米国農務省統計局）



b. 四半期全米在庫（3月1日時点）単位は100万ブッシェル

	3月1日	市場予想	12月1日	前年同期	相違
トウモロコシ	8,151	8,151	12,074	8,352	▲201
大豆	1,910	1,901	3,100	1,845	+65

トウモロコシの3月1日時点の全米在庫は、8,151百万ブッシェルと発表され、市場予想と一致した。前年同期より201百万ブッシェル（2.4％）の減少になった。内訳は農場在庫が前年度より579百万ブッシェル（11.4％）減少して全体の55.2％に、農場外在庫は377.7百万ブッシェル（11.5％）増加して全体の44.8％になった。12－2月期の推定消費量は3,920百万ブッシェルとなり、

前年比2.6%の増加になったが、その大半は輸出需要と見込まれる。

大豆の3月1日時点の全米在庫は1,910百万ブッシェルと発表され、市場予想より9百万ブッシェル多く、前年同期より65百万ブッシェル（3.5%）も多かった。

12-2月期の推定消費量は、1,190百万ブッシェルと前年比3%の増加となり、国内搾油消費と輸出の双方が好調であったと推察される。

流通年度後半に向けて、トウモロコシは堅実な消費が期待されて需給が引き締まる一方、大豆は国際市場の供給責任が、今後は南米諸国に移行すると同時に、トランプ大統領の関税政策が、最も報復関税の影響を受けやすい商品の一つになるために、大豆の需給に警戒感が残った。

4. 今年の天候相場は、外部市場のトリプル安に強い影響を受けて始まった

4月から米国農務省の週間作況作柄進捗報告が始まった。ところが、そうした穀物市場独自の材料ではなく、トランプ政権の関税政策に触発された、米国ドル安、株安、債券安の「トリプル安」に伴う、外部市場のリスク資産回避がシカゴ定期にも波及した。外部市場の価格変動性が極度に高まり、米国ドルをはじめ株式そして米国債が同時に売攻勢を受けて、米国市場から資本逃避の予兆と受け止められた。恐怖指数が、リーマン・ショックとコロナ禍に次いで、過去3番目に高い水準になる等、外部市場は大嵐に見舞われたが、穀物市場は自律的な回復力を見せた。米国経済がスタグフレーションに落ち込むとの懸念が高まると、米国ドルは2022年4月以来の最安値に低下し、景気関連指標の悪化が顕著になった。商品先物市場の多くは、需要の鈍化を先取りする弱地合の展開になったが、米国農務省が需給見通しを引き締めへと修正したトウモロコシを先頭に、大豆や小麦も大きく値を戻した。3品揃って20日移動平均線の上に値位置を引き上げ、週足チャートには、新しい値動き圏に移行したとの印象を深める、大きな陽線が引かれた。

5. 米国農務省の4月度需給報告は、 トウモロコシ需給の引き締まりを指摘

4月10日に発表された需給報告は、3月末に判明した3月1日時点の全米在庫調査に基き消費動向が見直されて、新穀出回りを控えた端境期の需給環境、即ち今年度末の在庫が目された。トウモロコシは予想外の需給引き締まりが想定されて、それまでの上昇基調の継続になった。大豆は、国内搾油需要の旺盛さで、関税戦争により中国向け輸出が期待できなくなる見通しが相殺された。

a. 米国の期末在庫と農家価格見通し（期末在庫は100万ブッシェル、農家価格はセント）

	4月予測	3月予測	前年度	相違（前月比／前年比）
トウモロコシ	1,465	1,540	1,763	▲75／▲298
農家価格	435	435	455	unch／▲20
大豆	375	380	342	▲5／＋33
農家価格	995	995	1,240	unch／▲245

トウモロコシの期末在庫は75百万ブッシェル引き下げられ、市場予想（30百万ブッシェル）を大幅に上回る引き下げになった。輸出需要見通しは、足元の好調な船積実績と価格競争力が考慮され、100百万ブッシェル増の2,550百万ブッシェルに引き上げられた。国内飼料用途は、四半期在庫報告が期待外れになったことで、25百万ブッシェルの削減で5,750百万ブッシェルと、前年度から55百万ブッシェルの減退見込みになった。国内産業用途は、エタノールを含めて据え置きになった。期末在庫は1,465百万ブッシェルと前年度から298百万ブッシェルの取り崩しが起こり、対消費在庫率は9.6%と、前年度の11.8%からの需給引き締まりが顕著になったが、農家価格見通しは435セントで据え置かれた。

大豆の期末在庫は、市場予想通り5百万ブッシェルの引き下げで、375百万ブッシェルと発表された。国内搾油は、バイオ・ディーゼルの需要拡大見通しが寄与して、前年比125百万ブッシェルの需要増加が見込まれるが、輸出需

要も前年比では130百万ブッシェル増の1,825百万ブッシェルが据え置かれた。今年度は面積の増加により大增産になったことが寄与して、需要の増加を吸収して、期末在庫は前年比33百万ブッシェルの増加見通しになり、農家価格見通しは前年比245セント安の995セントで据え置きになった

b. 世界の需給バランス（単位は万トン）

トウモロコシ	4 月予測	3 月予測	前年度	相違（前月／前年比）
生産高	121,510	121,417	122,933	+ 93／▲1,423
消費量	124,178	123,919	121,977	+ 259／+ 2,201
貿易量	18,868	18,636	19,340	▲232／▲472
期末在庫	28,765	28,894	31,433	▲129／▲2,668

トウモロコシの生産高推定は、期待された南米産地の作柄が様子見で据え置きになったが、欧州の収穫統計が見直されて131万トン増加したが、前年比で大幅な減産見通しに変わりはない。貿易量は中国の輸入見通しが前年実績の2,341万トンから800万トンに減退が見込まれることで、メキシコや欧州の需要増では埋め合わせ出来ない減少になった。世界のトウモロコシ需給は主要国の減産の中で、高水準の消費が持続するとの見通しから、大幅な取り崩しが見込まれた。その結果、世界全体の期末在庫は2014／15年度以来の低水準が見込まれている。なお、在ブラジルの米国農務官は、ブラジルのトウモロコシ生産が増産基調と報告し、今年の2期作トウモロコシの作柄懸念が解消して、生産高は126百万トンと推定した。新穀（来年の収穫）は130百万トンに増大を見込んだ。ブラジルでは国内のエタノール需要と輸出需要が共に増加傾向を保ち、高価格が維持されることで、農家の増産意欲が強まっていると報じた。市場はブラジルの増産が国際市場への供給増加には結びつかない可能性と理解した。

大 豆	4 月予測	3 月予測	前年度	相違（前月／前年比）
生産高	42,058	42,076	39,497	▲18／+2,561
消費量	41,067	40,916	38,444	+ 151／+ 2,623
貿易量	18,212	18,195	17,751	+ 17／+ 461
期末在庫	12,247	12,141	11,255	+ 106／+ 992

大豆の世界供給量は、南米産地の作柄推定が据え置かれたが、ブラジルで需給統計の見直しがあり前年度の生産高が150万トン多い、1億5,450万トンに改訂された。世界の生産高推定は微調整に止まったが、世界の搾油消費が200万トン増の3億5,484万トンに引き上げられた。米国、ブラジル等主要生産国での消費増加が目立ち、植物油の供給は油分の多い他の植物油（パーム油）の生産が期待外れになったことで、可食油の需給を引き締めた。大豆の期末在庫は今月も積み増しが可能になって、1億2,247万トンの史上最高が予想されている。

6. 5月上旬のシカゴ定期は、小麦が主導する軟弱地合いの展開

天候相場は2カ月目に入ったが、米国穀倉地帯からの報告に、新穀の播種作業の進捗や初期生育を懸念する内容は少なかった。冬小麦は生育環境の改善が続き、シカゴ定期もカンザス定期も揃って7月限が約定安値の更新に向かった。トウモロコシ定期は週を通じて19.25セントの続落となって、新穀12月限との逆鞘幅は7.75セントに縮小した。輸出需要や国内のエタノール用途が堅調さを維持しているが、播種作業が順調に進展していることから、投機筋が買持の手仕舞いに動いたことが影響して4ドルの半ばに下押された。大豆は小幅な続落で終わったが、下落幅は6.25セントと3品の中で最も少なかった。ジュネーブで米中の通商協議が始まることから、投機筋が更なる売りを躊躇したと推察された。5月12日には5月の月例需給報告があり、恒例の新穀年度の需給バランスが披露されるので、農家が播種面積を手控える見込みの大豆は、需給の引き締めまりが警戒されて、トウモロコシとの比価が大豆の増産を促す方向に動いた。

7. 5月度の米国農務省需給報告は、新穀年度の需給緩和を予測

a. 米国の期末在庫予測：単位は100万ブッシェル、セント

新穀年度の需給見通しは、それぞれの農家価格予測に反映されるが、小麦とトウモロコシの需給が緩和に向かう一方、トウモロコシに面積を譲ることになった大豆は需給が引き締まるとの予測になった。シカゴ定期は需給予測

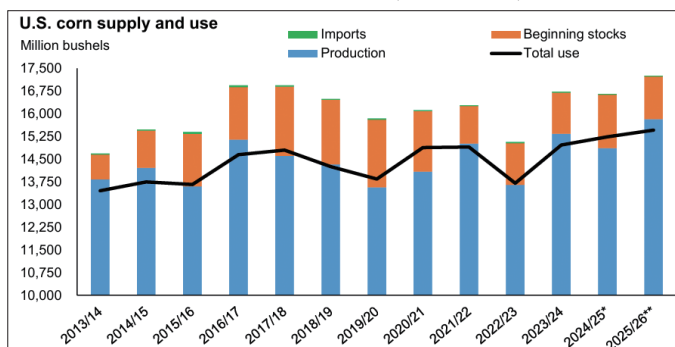
が発表された直後に、旧穀年度の小麦が約定安値を更新すると、トウモロコシは昨年夏以来の4ドル前半の値位置に低下したが、大豆は10ドル半ばで高止まりした。

	今年度		新穀年度	観測会議	新旧の変化
	5月予測	4月予測			
期末在庫					
トウモロコシ	1,415	1,465	1,800	1,965	+385
大豆	350	375	295	320	▲55
農家価格					
トウモロコシ	435	435	420	420	▲15
大豆	995	995	1,025	1,000	+30

① トウモロコシの需給は、新穀が増産になっても小幅な緩和見通し

トウモロコシの今年度の期末在庫は、50百万ブッシェル引き下げられて1,415百万ブッシェルになった。市場予測より29百万ブッシェル少なくなったが、今月も輸出需要見通しが50百万ブッシェル引き上げられて、2,600百万ブッシェルに上向き改訂された。旧穀年度の需給は期末の対消費在庫率が9.3%に引き締まるが、農家価格見通しは435セントで据え置かれた。

＝米国トウモロコシの需給推移＝（米国農務省、5月飼料穀物概況報告から抜粋）



新穀年度の期末在庫予測は1,800百万ブッシェルとなり、市場予想を220百万ブッシェル下回った。農家作付意向面積が、農業観測会議の94.0百万エーカーから95.3百万エーカーに増大したことで、新穀の生産高を15,820百万ブ

ッシエルの過去最大に押し上げた。収穫予想面積が87.4百万エーカーと前年から4.5百万エーカー（5.4%）拡大する上に、単収が1.7ブッシェル好転する見込みで、合せて953百万ブッシェル（6.4%）の増産が見込まれた。総供給量は17,260百万ブッシェルとなり、前年比605百万ブッシェルの増加が見込まれた。需要側は飼料用消費が5,900百万ブッシェルと予測されて、前年比150百万ブッシェルの増加が見込まれたが、産業用途等の消費は6,885百万ブッシェルと前年比微減になった。輸出需要は今年度から更に75百万ブッシェルの増加見込みで、過去最高の2,675百万ブッシェルとの予測が示された。総需要量は今年度の達成見込みの15,240百万ブッシェルより220百万ブッシェル多い、15,460百万ブッシェルとなり、期末在庫は期首在庫から385百万ブッシェルの積み増しで1,800百万ブッシェルとなった。前年度からの繰越在庫の減少、即ち足元の堅実な消費が、新穀年度の供給総量を減少させた。新穀年度の農家価格予測は420セントと、旧穀年度から15セントの低下が見込まれ、観測会議の試算と同じであった。

② 大豆は、新穀の作付面積の大幅減少により、需給の引き締めりは必至

今年度の大豆の期末在庫は、前月予測より25百万ブッシェル引き下げられて350百万ブッシェルに下方修正された。市場予想より19百万ブッシェル少なくなったが、輸出需要が25百万ブッシェル増の1,850百万ブッシェルに引き上げられたことに起因する。国内搾油は好調さを持続しているが、今月は2,420百万ブッシェルで据え置きとなった。対消費在庫率は8.0%に需給が引き締まるが、米国農務省は旧穀年度の農家価格は995セントで据え置いた。

新穀年度の期末在庫の期末在庫は295百万ブッシェルと発表され、期首在庫を55百万ブッシェル取り崩す見通しになった。農家作付け意向面積の83.5百万エーカーから、収穫予想面積が82.7百万エーカーと前年比3.9%減少したため、単収が傾向値の52.5ブッシェルに向上する見込みでも、新穀の作柄は前年実績の4,366百万ブッシェルに届かない4,340百万ブッシェルと、小幅な減産見込みになった。新穀年度の需要見通しは、国内搾油消費が前年比70百万

ブッシェル多い2,490百万ブッシェルとなった。輸出需要見通しは前年比35百万ブッシェルの減少の1,815百万ブッシェルとなった。これらに、種子用途と残渣を加えた総需要量は、4,415百万ブッシェルとなり、旧穀年度の実績見通しの4,384百万ブッシェルを31百万ブッシェル上回ることになった。期末の対消費在庫率は6.7%と需給が一段と引き締まると予測され、新穀年度の農家価格は今年度より30セント高い1,025セントと予測された。

ｂ．世界の需給バランス：単位は万トン。生産高は回復するが、需給の改善は望み薄

	前年実績	旧穀5月推定	旧穀4月推定	新穀5月予測	前年比
生産高					
トウモロコシ	123,052	122,128	141,510	126,498	+4,370
大豆	39,693	42,087	42,058	42,682	+595
消費量					
トウモロコシ	122,013	125,006	124,178	127,443	+2,437
大豆	38,385	41,029	41,067	42,405	+1,376
期末在庫					
トウモロコシ	31,607	28,729	28,765	27,784	▲945
大豆	11,530	12,318	12,247	12,433	+115

今月は、新穀年度の国際需給の骨格が初めて示された。新穀の足音が感じ取れるようになった小麦の繰越在庫は、欧州の上向き改訂等で前回予測から451万トンの改善があり、新穀は過去最高の作柄が見込まれることと合わせて、新穀年度の需給は均衡が見込まれた。トウモロコシは南米産地の作柄が持ち直したが、主要国での在庫の取り崩しが進み、新穀年度の需給見通しの不安感を解消するには、米国の大豊作が不可欠になった。

① トウモロコシは米国が大増産でも、旺盛な消費で需給の緩和が期待出来ない

トウモロコシはブラジルのトウモロコシ生産高が400万トン引き上げられ、1億3,000万トンに上方修正されたことから、消費の大幅増加を吸収して、国際需給の引き締めりが多少とも和らいだ。トウモロコシの旧穀年度の生産高は、ブラジルを含めて618万トンの上向き改訂で、12億2,128万トンに修正されたが、前年比では924万トンの減産となった。消費の増加見通し2,993万トンが加わっ

て、トウモロコシの需給は引き締まり、期末在庫は2億8,729万トンになった。

トウモロコシの新穀年度の作柄見通しは、米国で過去最高の豊作見通しが寄与して、世界全体でも12億6,498万トンの大豊作で、4,370万トン（3.6%）の増産見通しになった。米国は4億185万トンの作柄が見込まれて、前年比2,421万トン（6.4%）の増産、その他諸国は8億6,314万トンと見込まれ、前年比1,948万トン（2.3%）の増産になっている。こうした大增産があっても、世界のトウモロコシ需要は旺盛で、消費は過去最高の12億7,443万トンが見込まれるので、期末在庫は945万の減少で2億7,784万トンと予測された。供給側の数字は、需給の緩和を予感させる数字になったが、世界の景気が好調さを持続すれば、トウモロコシへの需要が右肩上がりの増加傾向を維持することで、需給が一段と引き締まるとの予測になった。

② 大豆はブラジルで増産が継続して、需給規模が拡大しても需給緩和の見通し

生産が一番後から行なわれる大豆は、懸念された南米産地の収穫が、無事に当初の見通し通りの作柄で終わることになり、旧穀年度での需給に変化はなかった。輸出需要が南米産に移行する時期となったが、植物油需要の引き締まりを通じて、米国的大豆需給が端境期に向けて高値を維持することになった。

新穀年度の世界大豆生産高予測は、前年比595万トン増の4億2,682万トンと示され、この内ブラジルは前年比600万トン増の1億7,500万トンと予測されている。中国で旺盛な大豆需要が持続して、新穀年度は1億1,200万トンの輸入と予測されるが、ブラジル農家が増産意欲を失わない限り、同規模の輸出余力がブラジルで実現するとの予測になって、米国の需給引き締まりに反して、国際市場では大豆の緩和が継続する見通しが示された。

8. 新穀の作柄は、確定するまで一年余りの時間が必要

新穀年度（2025／26年度）の穀物生産高が確定するには、今から1年以上の時間が必要になるので、平年並みの天気を想定し、かつ現在の需要見通しを前提にすれば、多くの変動要素を乗り越えなければならない。先ず近年の

実績では、トウモロコシの最終単収は、5月の単収見込みを下回ることが多いとされる。5月の生産高予測は、農家がトウモロコシの増産に動くには遅すぎるので、5月予測を取り敢えずの供給側の上限と仮置きして、天候異変などによる供給の下方修正、または需要動向を見守る必要がある。農耕学者は、米国や世界の面積増加とは、低単収の耕作地が穀物栽培に戻されたことを意味するので、悪天候による被害が大きくなり易く、需給を引き締める要因として頭の片隅に置くべきとしている。その具体例は、大豆の単収の伸びが2016年に過去最高を記録してからは停滞気味で、生産高の伸びが耕作面積への依存度を高めたとされる。

① トウモロコシの新穀作柄予測と需給への影響

トウモロコシは昨年の単収実績が179.3ブッシェルで、今年は181.0ブッシェルを見込んでいる。農家作付け意向面積の95.3百万エーカーから、91.7%の収穫予想面積率で、87.4百万エーカーの収穫面積に、前年並みの単収で試算すると、作柄が今月予測の15,820百万ブッシェルから、約149百万ブッシェル少ない15,671百万ブッシェルに減少する。この程度であれば、想定される需要を満たすには大きな問題にならないが、過去には減産分の3分の1相当の需要減退をもたらしたとの経験則を使うと、昨年並みの単収に戻ると需給は99百万ブッシェルの供給減少、又は期末在庫の低下要因になる。即ち、今月予測された期末在庫の1,800百万ブッシェルは1,700百万ブッシェル近くに低下する可能性がある。その場合でも期首在庫見通し1,415百万ブッシェルから285百万ブッシェルの積み増しになるので、需給がタイト化する可能性は低い。

② 大豆の新穀作柄予測と需給への影響

このトウモロコシでの試算を大豆に適用すると、大豆は昨年の単収実績が50.7ブッシェルで、今年は52.5ブッシェルが見込まれている。農家作付け意向面積の83.5百万エーカーから、前年並みの収穫予想面積率で、収穫予想面積は82.7百万エーカーと予測されている。これを前年並みの単収で試算する

と、大豆の新穀生産高は今月予測の4,340百万ブッシェルから147百万ブッシェル少ない、4,193百万ブッシェルに減少するので、現時点での需要見通し4,415百万ブッシェルに対して、大幅な不足になる。今年度から新穀年度への繰越在庫は350百万ブッシェルと見込まれるので、総供給量は4,543百万ブッシェルで潜在的な需要量を上回るが、来年の端境期はギリギリの現物需給が想定される。大豆は新穀年度の需給に余裕が失われたことから、夏場の天候次第では、需要の縮小を要求する又は、ブラジルに更なる増産を要請する高値が必要になる可能性を秘めている。米国農務省は平年並みの天候推移を想定して、大豆の期末在庫予想を295百万ブッシェルとして、農家価格見通しを今年度から30セント高の1,025セントと予測しているが、その程度の価格変動で済まされる需給の余裕は感じ取れない。農家作付け意向面積が発表された後の大豆定期は、期末在庫見通しが半減する可能性を察知しているかのように、シカゴ定期は4月上旬から大豆とトウモロコシとの比価を2.1から2.5に向けて徐々に切り上げた。大豆の作付面積の更なる減退を阻止すべく農家に増産を呼び掛けつつ、平年よりも大幅に前倒し大豆の播種進捗となった。

9. 今年はメモリアルデーの節目で、中西部の新穀播種が一段落付いた

日本の暦で『小満・芒種』と呼ばれる5月下旬から6月前半は、日本列島での麦秋と田植えが連想されるが、米国の穀倉地帯では、大平原で冬小麦の収穫が北上を始める一方、トウモロコシや大豆が受粉期・開花期に向かって初期生育を始める時期になる。次の節目の米国独立記念日（7月4日）に向けて、冬小麦の収穫進捗と中西部の天候推移が穀物市場の関心事になった。例年この頃は、北部産地のトウモロコシの作付け遅延が心配されるが、今年は6月1日時点でトウモロコシの播種が93%の完了、大豆も84%の完了に達した。トウモロコシの作況評価は優と良好の割合が69%と、前年同期よりも6%低かった。一方、大豆は生育が早まり、初回の作況評価は67%が優と良好であった。春作物の生育が順調な開始となり、大平原南部のHRW地域を中心とする冬小麦は、出穂期が83%に到達し、収穫は3%の完了、作況は

52%が優と良好と評価された。6月初旬は、新穀の作柄不安は感じ取れなかったが、外部市場では再び米国ドル安と安全資産への資金の移動が顕著になり、底値拾いの買いを誘う展開になった。

10. 6月前半は再び外部市場の影響力が強まり、安全資産に資金が移動した

小麦が先頭になっての豊作期待に、6月上旬のシカゴの穀物市場は、価格水準を切り下げる展開になった。従来は、米国農務省の5月度需給報告に示された新穀年度に関する需給見通しが、シカゴの穀物市場の基調を形成してきた。しかし今年は、外部市場からの影響が強まり、朝令暮改の続くトランプ政権の関税政策が災いして、消費者信頼感指数の悪化やインフレの亢進懸念が高まった。米国の政府債務拡大を懸念した米国債の格下げが、米国ドル安に波及して、穀物自体のファンダメンタルズよりも、マクロ経済動向が市場心理に影響を及ぼした。景気の後退懸念やトランプ関税がもたらした、国際社会での米国の孤立化から、輸出需要の減退懸念が浮上して、小麦定期は約定安値を更新した後、5ドルの節目でテクニカルな底値感からの買い戻しに下げ渋り感を強めた。大豆は新穀需給引き締まり観測が、面積の買い戻しを誘うスプレッド取引を活性化させると、大豆が10ドル半ばで高止まりする一方で、トウモロコシは上値の重い展開が続いた。

5月の雇用統計で労働市場が底堅く推移していることが確認されると、FRBが利下げを急がないとの見方が広まった。米中両国が9日からロンドンで、レアアースと半導体の輸出規制を巡り、閣僚級の通商協議を再開すると発表されると、週末を控えてリスク許容度が回復し、株式市場の反転上昇から、WTI原油が64.58ドルの一月半振り高値に戻った。トウモロコシは、旧穀（7月限）売／新穀（12月限）買のスプレッド取引が続き、遂に先物価格は旧穀が新穀を下回る順軌の価格体系に戻った。5月の需給予測では、旧穀年度のトウモロコシに旺盛な需要があるとの判断から、今年度の期末在庫が引き下げられた。ところが、予定通りに播種作業が終了する目途が付いて、農家が旧穀トウモロコシの現物処分に踏み切ると、投機筋が期近トウモロコシの売攻

勢を強めた。大豆は、初回の作況評価がマズマズで発表され、3週間振りの安値に後退したが、米中首脳の話電話会談による通商摩擦解消の期待から10ドル半ばの揉み合い圏に戻った。

11. 新鮮味に欠けた、米国農務省の6月度需給報告

新穀の作付けが平年よりも早目に終わったことで、米国農務省が新穀年度の需給数字を改訂するのは、6月末の実作付面積及び、5月末時点の四半期在庫調査の発表を待って、7月度の需給報告になるとの見方が、市場参加者のコンセンサスになった。従い、市場の関心は低く、発表後のシカゴ定期の反応も、トウモロコシが小幅高、小麦や大豆は数セント安となって、今月の報告は全体として弱材料と受け止められた。

a. 米国の期末在庫見通し：(単位：100万ブッシェルとセント) — 小幅な引き締め

今月の需給見直しは、生産高推定は冬小麦のみで、市場の関心が高いトウモロコシや大豆の単収見通しは7月に先送りされた。そして需要側は、5月末時点の四半期全米在庫調査の報告待ちになった。

	今年度		新穀年度		相違
	6月予測	5月予測	6月予測	5月予測	
期末在庫					
トウモロコシ	1,365	1,415	1,750	1,800	▲50
大豆	350	350	295	295	unch
農家価格					
トウモロコシ	435	435	420	420	unch
大豆	995	995	1,025	1,025	unch

トウモロコシの旧穀需給は、米国農務省が輸出需要を今月も500万ブッシェル引き上げて2,650万ブッシェルに上向き改訂した。このため、期末在庫が500万ブッシェル引き下げられ、期末在庫見通しは1,365万ブッシェルになった。輸出需要は3カ月連続の上方修正となり、合わせて200万ブッシェルの増加になったが、トウモロコシの農家価格見通しは435セントで前月と変わりがなかった。

トウモロコシの新穀年度の供給量は、前年からの繰越在庫が50百万ブッシェル少なくなったことで供給総量も同量の減少になった。需要項目に変更がなかったために、この50百万ブッシェルが期末在庫の低下となり、1,750百万ブッシェルに引き下げられた。米国農務省の農家価格予測は420セントで据え置かれた。新穀年度の需給の骨格に影響する、実作付面積推定と6月1日時点の全米在庫統計の発表待ちとなり、需給の見直しが先送りされた。

ｂ．世界の需給バランス（単位は万吨）—— 大增産でも、トウモロコシの需給は窮屈

	旧 穀		新 穀		前年比
	6 月推定	5 月推定	6 月予測	5 月予測	
生産高					
トウモロコシ	122,333	122,128	126,598	126,498	+4,265
大豆	42,078	42,087	42,682	42,682	+604
消費量					
トウモロコシ	125,418	125,006	127,579	127,443	+2,161
大豆	40,923	41,029	42,415	42,405	+1,492
期末在庫					
トウモロコシ	28,504	28,729	27,524	27,784	▲980
大豆	12,420	12,318	12,530	12,433	+110

トウモロコシ—大增産が確実視されるが、作柄が固まるのはかなり先の話
世界のトウモロコシ生産高は、前年比4,166万吨（3.5%）の増産見込みになった。

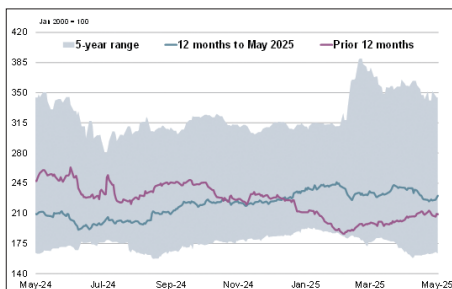
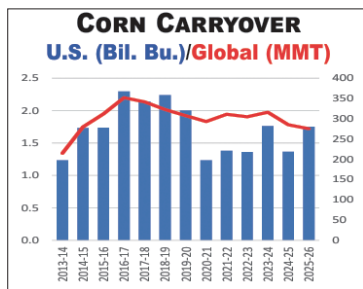
内訳は、主として面積の増加による米国の増産が2,421万吨（6.4%）で4億185万吨と、残りの世界で8億6,414万吨（2.3%）の増産見通しになっている。6月初めの時点では、北半球の播種が終わったばかりで、今後の天候次第になるが、中国は2億9,500万吨と前年並みが見込まれている、その他欧州は6,000万吨と前年並み、ウクライナは370万吨の増産で3,050万吨、ロシアは100万吨多い1,500万吨と予測された。播種が数カ月から半年先になる南米諸国は、ブラジルが1億3,100万吨と今年度から100万吨の増産、アルゼンチンが5,300万吨と300万吨の増産が期待されている。

こうした増産にもかかわらず、トウモロコシの期末在庫は新穀年度も、旺盛

な消費動向から在庫の取り崩しが980万トンと見込まれている。主な要因は、中国の輸入減少と在庫の取り崩しになる。中国の生産高は一昨年（2017）の2億8,884万トン、昨年（2018）の2億9,492万トンに続いて、今年も2億9,500万トンと安定的な生産が継続する中、消費高はそれを上回る、3億700万トンの実績、3億1,600万トンの見通しとなり、新穀年度は3億2,100万トンの予測になっている。

これまで中国は大量の輸入で不足分を埋め合わせていたが、23/24年度に2,340万トンを輸入した後、今年度の輸入見込みは700万トンに激減し、新穀年度でも1,000万トンとの予測になった。中国の期末在庫は一昨年末（2017）の2億1,129万トン、今年度末（2024）は1億9,718万トン、そして新穀年度末（2025）は1億8,116万トンと、約3,000万トンの在庫取り崩しが起ころうとしている。一見すると、トウモロコシの国際需給が引き締まったように見えるが、大口輸入国であった中国が、積極的な輸入を手控えるのであれば、強材料と判断するのは早計になるかもしれない。一方、米国の旧穀年度は、減産の中で輸出需要が回復したので、大幅な期末在庫の減退が起こり旧穀需給は引き締まったが、新穀年度は大増産で、輸出余力は潤沢に確保できる見通しになった。

＝トウモロコシの期末在庫推移と価格指数＝（青は米国の期末在庫、赤は世界の期末在庫）



12. 一段と外部市場の不安定さが顕在化した、今年の天候相場

今月のFRBの地区連銀経済報告は、全米の経済活動は、前回に比べてやや低調になったとし、いくつかの地区で産業活動の減速を確認した。中でも、約半分の地区が農産物の低価格による経済活動の減速、干ばつによる影響や、海外

からの需要の鈍化を報告している。注意すべきは、農産物価格の低下と、投入コストの上昇が、シカゴやミネアポリス連銀から報告され、ダラス連銀は干ばつと家畜の減少を報告した。カンザス連銀は緊急支援支払いが、農家の資金に流動性を持たせるが、採算性の悪化が懸念されるとした。SFR地区は、水の供給不足と労働力不足を懸念している。このように、地区連銀報告は、米国農村部で農家や牧場主が市場変動に見舞われ、信用の悪化、関税政策の不透明さからの問題に直面していると指摘した。ワシントンでは早速、関税問題での農家支援、長期視野で米国農産物の貿易赤字問題を探り上げる動きが浮上している。

6月中旬からのシカゴ定期には、外部市場の米国ドル安と原油の急騰、そして需給報告は小幅な引き締めりと、トウモロコシには買持方針を促す材料が整っていたように見える。ところがCFTCの取組明細では、大手投機筋がトウモロコシの売持方針を堅持して、純売持高を積み増したことが確認された。チャートなどのテクニカルな視点では、「もうはマダ」の段階とされるが、何れは安値が需要を喚起することになるので、どの時点でそうした転換が起こるのかが、今後の注目点になっている。

ちなみに、小麦は大平原南部の降雨勝ちの天気、「過ぎたるは及ばざるがごとし」の状況をもたらし、収穫の遅延と作況評価の低下が、買戻しを促すようになり、トウモロコシとの比価が急拡大した。2カ月前に両者の比価は数十セントに縮小して、新穀小麦がトウモロコシに代替する飼料穀物候補になったが、いざ収穫期になると、小麦の飼料穀物化を否定する価格に拡大し、端境期の現物需給の判断は、四半期在庫報告の発表を待たねばならなくなった。

6月末日には、米国農務省の実作付面積推定が発表になり、より精度の高い生産高予測に基づく、新穀需給の見直しが期待されている。そうした諸々の報告に合わせて、中西部のトウモロコシの生育段階が受粉期に入るので、7月初めの天気予報が大きな鍵を握るのが、これまでの穀物市場であった。

ところが、「13日の金曜日」に、イスラエルがイランの政府機関・軍事施設への攻撃を行った。ウクライナ戦争が3年を経過しても停戦の道筋が見えない中で、中東問題が新しい地政学的混乱に加わった。中東地域に新しい核

保有国の存在を許さないという米国のこれまでの外交方針が問われる一方、この地域からの原油輸出の重大性を鑑みると、両国の戦闘がホルムズ海峡の閉鎖に波及するようであれば、原油先物はウクライナ戦争直後の最高値100ドル台に上昇する可能性が語られるようになった。そして、イランの核施設に米国が空爆を敢行したことで、この地域の地政学的リスクが一気に高まった。これまでの天候リスクに代わり、外部市場からの影響、安全資産への逃避が取引材料に入れ替わった。4月からのトランプ政権の関税政策に落ちてきどころが見えない中で、今年の穀物市場には、新たに大きな変動要因が加わった。せめて、天候だけでも穏やかな推移になることを願わざるを得なくなっている。

（6月24日記）

USDA需給報告（米国産トウモロコシ）

報告月次	24／25年度			25／26年度		
	4月	5月	6月	4月	5月	6月
作付面積	90.6	90.6	90.6		90.0	90.0
収穫面積	82.9	82.9	82.9		82.1	82.1
単収	179.3	179.3	179.3		181.0	181.0
生産高	14,867	14,867	14,867		14,860	14,860
期首在庫	1,763	1,763	1,763		2,022	2,022
輸入	25	25	25		25	25
総供給量	16,655	16,655	16,655		16,907	16,907
飼料用途	5,750	5,750	5,750		5,750	5,750
産業用途	6,890	6,890	6,890		6,855	6,855
エタノール	5,500	5,500	5,500		5,450	5,450
国内消費	12,640	12,640	12,640		12,605	12,605
輸出需要	2,550	2,600	2,650		2,200	2,200
総需要量	15,190	15,240	15,290		14,805	14,805
期末在庫	1,465	1,415	1,365		2,102	2,102
在庫率(%)	9.6	9.3	8.9		14.2	14.2
農家価格	4.35	4.35	4.35		4.40	4.40

注：面積は100万エーカー、単収はブッシェル・エーカー、生産・消費は100万ブッシェル。

世界のトウモロコシ需給バランス

24／25年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	飼料	内需	輸出	期末在庫
世界 6月予測	31,590	122,333	18,304	78,416	125,418	18,994	28,504
中国	21,129	29,492	700	23,400	31,600	2	19,718
除 中国	10,461	92,841	17,604	55,016	93,818	18,992	8,786
米国	4,479	37,763	64	14,606	32,107	6,731	3,468
除 米国	27,111	84,569	18,241	63,810	93,311	12,263	25,036
メキシコ	597	2,330	2,500	2,720	4,850	3	574
アルゼンチン	248	50,000	1	1,080	1,520	3,450	278
ブラジル	849	13,000	150	6,450	9,100	4,300	599
欧州	731	5,931	2,000	5,820	7,790	240	633
ウクライナ	64	2,680	2	420	515	2,200	31
ロシア	76	1,400	5	950	1,060	330	91
南アフリカ	66	1,575	35	700	1,390	160	126
東南アジア	317	3,066	2,045	3,985	5,096	56	276
韓国	204	9	1,150	935	1,155	0	209
日本	130	2	1,520	1,200	1,525	0	127

単位は10,000トン。

25／26年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	飼料	内需	輸出	期末在庫
世界 5月予測	28,729	126,498	18,748	80,155	127,443	19,581	27,784
世界 6月予測	28,504	126,598	18,748	80,190	127,579	19,582	27,524
中国	19,718	29,500	10,000	23,900	32,100	2	18,116
除 中国	8,786	97,098	17,748	56,290	95,479	19,580	9,407
米国	3,468	40,185	64	14,987	32,475	6,795	4,446
除 米国	25,036	86,414	18,685	65,204	95,103	12,787	23,078
メキシコ	574	2,450	2,500	2,800	4,950	3	571
アルゼンチン	278	5,300	1	1,120	1,560	3,700	319
ブラジル	599	13,100	160	6,550	9,300	4,300	259
欧州	633	6,000	2,050	5,770	7,780	300	603
ウクライナ	31	3,050	1	530	623	2,400	60
ロシア	91	1,500	5	1,010	1,120	360	116
南アフリカ	126	1,650	0	710	1,420	190	166
東南アジア	276	3,126	2,150	4,120	5,180	61	311
韓国	209	10	1,150	935	1,160	0	208
日本	127	2	1,550	1,220	1,550	0	129

単位は10,000トン。

世界の大豆需給バランス

24／25年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	搾油	内需	輸出	期末在庫
世界 6月予測	11,531	42,078	17,828	35,320	40,923	18,093	12,420
中国	4,331	2,065	10,800	10,300	12,690	8	4,498
除 中国	7,200	40,013	7,028	25,020	28,233	18,085	7,922
米国	932	11,884	68	6,586	6,896	5,035	953
除 米国	10,599	30,194	17,760	28,734	34,027	13,058	11,468
メキシコ	61	27	670	665	674	1	84
アルゼンチン	2,405	4,900	600	4,260	5,010	420	2,475
ブラジル	2,976	16,900	28	5,700	6,110	10,450	3,344
パラグアイ	29	1,020	2	310	328	680	43
欧州	128	292	1,460	1,500	1,652	40	188

単位は10,000トン。

25／26年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	搾油	内需	輸出	期末在庫
世界 5月予測	12,318	42,682	18,682	36,646	42,405	18,843	12,433
世界 6月予測	12,420	42,682	18,686	36,659	42,415	18,843	12,530
中国	4,498	2,100	11,200	10,800	13,300	10	4,486
除 中国	7,922	40,582	7,486	25,859	29,115	18,833	8,042
米国	953	11,812	54	6,777	7,076	4,940	803
除 米国	11,468	30,870	18,632	29,882	35,339	13,904	11,727
メキシコ	84	27	700	700	709	1	101
アルゼンチン	2,475	4,850	720	4,300	5,050	450	2,545
ブラジル	3,344	17,500	15	5,800	6,230	11,200	3,429
パラグアイ	43	1,100	2	310	330	770	45
欧州	188	295	1,430	1,530	1,682	201	130

単位は10,000トン。

編集後記



食に関する3つのキーワードを下記のように定義づけ、改めて昨今の米の件について考えてみた。

食の安全： 味を含む品質面で問題がないこと（飼料ではない）

食の安定供給： 常識的な価格で供給が維持されていること

食の安心： 安全、安定供給に対して人が不安に感じないこと

去年は暑さによる被害が出たが、備蓄米を含め味も評判は悪くなく、安全は合格。安定供給のうち価格は残念ながら不合格。量的な確保については、小売りの場で混乱はあったが日本人が飢えたという話には至らず、不合格とまでは言えない。安心に関しては、一般的な感覚では不合格である。しかし、安心は感情的なものだという点に配慮は必要であろう。

備蓄米は、大臣の交代を機に流通スピードが大幅にアップした。しかし、最初に放出された備蓄米は6月下旬の段階で2割しか流通していないという。備蓄米の放出自体を目的にするのか、マーケットをクールダウンさせる手段として備蓄米を放出するのかで、結果が大きく異なると感じる。こう考えると、目的意識を持つことがいかに重要なのかと改めて感じる。

安定供給のために、相応の税金が使われたことは間違いない。悪者探しをする必要はないが、税金の使われ方はしっかりと検証されるべきである。そこで得られた教訓は飼料穀物にも活かしたい。

ところで、今回の海運セミナーは、いつもに増して興味深いお話であった。米国の入港税問題は穀物船には適用されない模様ではあり一安心しているが、これが海運に対する関心を高めたのは間違いなさそうである。セミナーに参加出来なかった方はもちろん、参加された方も誌上載録を改めてお読みいただければ幸いである。

本誌では新業務部長の紹介があるが、この夏には事務スタッフも1名退職により交代があるため、当協議会事務局常勤者4名中の2名が一気に入れ替わる。ご迷惑をお掛けしないように努力し、あらたなJFTAを目指していく所存である。

